

様式第 10)

千大院サ第 9 7 9 号  
令和元

厚生労働大臣

殿

国立大学法人千葉大学  
徳久剛

千葉大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、平成 30 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町1-33
氏 名	国立大学法人千葉大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

千葉大学医学部附属病院
-------------

3 所在の場所

〒260-8677 千葉市中央区亥鼻1-8-1	電話 (043) 222-7171
-------------------------	-------------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

①医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜
---

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	(有) ・ 無		
内科と組み合わせた診療科名等			
①呼吸器内科	②消化器内科	③循環器内科	④腎臓内科
5神経内科	⑥血液内科	7内分泌内科	8代謝内科
⑨感染症内科	⑩アレルギー疾患内科またはアレルギー科	⑪リウマチ科	
診療実績			

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科	有 ・ 無
外科と組み合わせた診療科名	
①呼吸器外科                      2消化器外科                      ③乳腺外科                      4心臓外科 5血管外科                      ⑥心臓血管外科                      7内分泌外科                      ⑧小児外科	
診療実績	

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。  
2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科    ②小児科    ③整形外科    ④脳神経外科    ⑤皮膚科    ⑥泌尿器科    ⑦産婦人科 8産科    9婦人科    ⑩眼科    ⑪耳鼻咽喉科    ⑫放射線科    13放射線診断科 14放射線治療科    ⑮麻酔科    ⑯救急科
--

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	有 ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名	
1小児歯科    2矯正歯科    3口腔外科	
歯科の診療体制	

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。  
2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1糖尿病・代謝・内分泌・老年内科    2腫瘍内科    3食道・胃腸外科 4肝臓・胆のう・膵臓外科    5心療内科    6リハビリテーション科    7脳神経内科 8形成外科    9頭頸部耳鼻いんこう科    10病理診断科    11歯科口腔外科 12                      13                      14                      15                      16                      17 18                      19                      20                      21
--

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
45 床	5 床	0 床	0 床	800 床	850 床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	252人	572人	638.6人	看護補助者	79人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	8人	23人	29.0人	理学療法士	25人	臨床検査技師	81人
薬 剤 師	53人	26人	74.5人	作業療法士	12人	衛生検査技師	0人
保 健 師	0人	1人	0.6人	視能訓練士	7人	そ の 他	0人
助 産 師	47人	0人	47.0人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	3人
看 護 師	914人	31人	937.0人	臨床工学士	19人	医療社会事業従事者	13人
准看護師	1人	0人	1.0人	栄 養 士	0人	その他の技術員	127人
歯科衛生士	1人	3人	4.0人	歯科技工士	0人	事務職員	346人
管理栄養士	8人	5人	13.0人	診療放射線技師	50人	その他の職員	8人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。  
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	66人	眼科専門医	12人
外科専門医	74人	耳鼻咽喉科専門医	13人
精神科専門医	11人	放射線科専門医	16人
小児科専門医	16人	脳神経外科専門医	12人
皮膚科専門医	8人	整形外科専門医	25人
泌尿器科専門医	12人	麻酔科専門医	22人
産婦人科専門医	19人	救急科専門医	13人
		合 計	319人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 ( 山本 修一 ) 任命年月日 平成26年 4月 1日 (平成29年4月1日再任)

平成26年4月1日就任前

- ・経験無し

平成29年4月1日再任前 (平成28年6月10日医療法施行規則改正後)

- ・医療の質・安全管理委員会委員長 (平成26年4月1日～)

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	674人	15人	689人
1日当たり平均外来患者数	2,142人	91人	2,233人
1日当たり平均調剤数	入院：996剤 外来：44剤		
必要医師数			191人
必要歯科医師数			6人
必要薬剤師数			23人
必要（准）看護師数			419人

(注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。

2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。

3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。

4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設 備		概 要	
集中治療室	374.75m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	病床数	22床	心電計	(有)・無
			人工呼吸装置	(有)・無	心細動除去装置	(有)・無
			その他の救急蘇生装置	(有)・無	ペースメーカー	(有)・無
無菌病室等	[固定式の場合]	床面積	507m <sup>2</sup>		病床数	42床
	[移動式の場合]	台数	2台			
医薬品情報管理室	[専用室の場合]	床積	85.71m <sup>2</sup>			
	[共用室の場合]	共用する室名				
化学検査室	403 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) 検体搬送システム、生化学用自動分析装置、化学発光法測定装置、酵素免疫法測定装置、血液ガス分析装置、HbA1c分析装置、赤血球沈降速度分析装置、電気泳動分析装置、超低温保冷库(ディープフリーザー)			
細菌検査室	80 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) 細菌同定・薬剤感受性分析装置、抗酸菌培養検査装置、自動染色装置、血液培養自動分析装置、細菌同定用質量分析装置、顕微鏡(蛍光を含む)、安全キャビネット			
病理検査室	408 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) 自動包埋装置、組織切片薄切装置、自動染色装置、自動免疫染色装置、凍結切片薄切装置、パラフィン包埋機			
病理解剖室	74 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) 解剖台、切出台、固定槽、撮影装置			
研究室	718 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) パソコン、近赤外光イメージング装置、脳波計等			
講義室	736.01m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	室数	4室	収容定員	504人
図書室	172.5 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	室数	5室	蔵書数	17,150冊程度

(注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。

2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率		85.7%	逆紹介率	88.4%
算出根拠	A: 紹介患者の数	19,817人		
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数	22,312人		
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数	1,808人		
	D: 初診の患者の数	25,237人		

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
宮坂 信之	東京医科歯科大学 名誉教授	○	医療安全識見者かつ 病院管理経験者	有・ <del>無</del>	1
手島 英男	税理士法人千葉中 央会計事務所長		医療を受ける者	有・ <del>無</del>	2
中谷 晴昭	千葉大学理事		医療及び臨床研究に 関する学識経験者	<del>有</del> ・無	3
後藤 弘子	千葉大学大学院社 会科学研究院教授		法律学専門家	<del>有</del> ・無	1
矢島 鉄也	千葉県病院事業管 理者		病院管理経験者	<del>有</del> ・無	3
藤原 康弘	国立研究開発法人 国立がん研究セン ター中央病院副院 長		臨床研究識見者	有・ <del>無</del>	3
花輪 正明	塩野義製薬株式会 社薬事部長		臨床研究識見者	有・ <del>無</del>	3
東宮 秀夫	一般財団法人医薬 品医療機器レギュ ラトリーサイエン ス財団研修事業本 部長		臨床研究識見者	有・ <del>無</del>	3
宗像 令夫	独立行政法人中小 企業基盤整備機構 関東本部千葉大亥 鼻イノベーション プラザチーフイン キュベーションマ ネージャー		臨床研究識見者	有・ <del>無</del>	3

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有・無
委員の選定理由の公表の有無	有・無
<p>公表の方法          本学ホームページ及び本院ホームページにて、設置規程及び委員名簿（選定理由についても記載有）、監査結果報告書を掲載している。</p>	

(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 1 承認を受けている先進医療の種類（注1）及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
神経変性疾患の遺伝子診断	21人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

- (注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準（平成二十年厚生労働省告示第百二十九号）第二各号に掲げる先進医療について記入すること。
- (注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 2 承認を受けている先進医療の種類（注1）及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
ペムトレキセド静脈内投与及びシスプラチン静脈内投与の併用療法	0人
NKT細胞を用いた免疫療法 頭頸部扁平上皮がん	0人
放射線照射前に大量メトトレキサート療法を行った後のテモゾロミド内服投与及び放射線治療の併用療法並びにテモゾロミド内服投与の維持療法 初発の中脳神経系原発悪性リンパ腫	1人
全身性エリテマトーデスに対する初回副腎皮質ホルモン治療におけるクロピドグレル硫酸塩、ピタバスタチンカルシウム及びトコフェロール酢酸エステル併用投与の大腿骨頭壊死発症抑制療法	0人
テモゾロミド用量強化療法 膠芽腫	2人
ニボルマブ静脈内投与及びドセタキセル静脈内投与の併用療法 進行再発非小細胞肺癌	1人
腹腔鏡下センチネルリンパ節生検 早期胃がん	2人
マルチプレックス遺伝子パネル検査 進行再発固形がん	6人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準（平成二十年厚生労働省告示 第二百二十九号）第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。



## 高度の医療の提供の実績

## 4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	22	56	ベーチェット病	151
2	筋萎縮性側索硬化症	58	57	特発性拡張型心筋症	90
3	脊髄性筋萎縮症	11	58	肥大型心筋症	76
4	原発性側索硬化症	2	59	拘束型心筋症	0
5	進行性核上性麻痺	20	60	再生不良性貧血	52
6	パーキンソン病	350	61	自己免疫性溶血性貧血	11
7	大脳皮質基底核変性症	14	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	1
8	ハンチントン病	10	63	特発性血小板減少性紫斑病	171
9	神経有棘赤血球症	0	64	血栓性血小板減少性紫斑病	3
10	シャルコー・マリー・トゥース病	25	65	原発性免疫不全症候群	28
11	重症筋無力症	353	66	IgA 腎症	85
12	先天性筋無力症候群	0	67	多発性嚢胞腎	38
13	多発性硬化症/視神経脊髄炎	314	68	黄色靱帯骨化症	2
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー	86	69	後縦靱帯骨化症	20
15	封入体筋炎	8	70	広範脊柱管狭窄症	0
16	クドウ・深瀬症候群	43	71	特発性大腿骨頭壊死症	31
17	多系統萎縮症	45	72	下垂体性ADH分泌異常症	36
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	114	73	下垂体性TSH分泌亢進症	3
19	ライソゾーム病	4	74	下垂体性PRL分泌亢進症	57
20	副腎白質ジストロフィー	2	75	クッシング病	21
21	ミトコンドリア病	3	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	12
22	もやもや病	41	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	76
23	プリオン病	0	78	下垂体前葉機能低下症	128
24	亜急性硬化性全脳炎	0	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0
25	進行性多巣性白質脳症	2	80	甲状腺ホルモン不応症	0
26	HTLV-1関連脊髄症	4	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	11
27	特発性基底核石灰化症	2	82	先天性副腎低形成症	0
28	全身性アミロイドーシス	2	83	アジソン病	3
29	ウルリッヒ病	0	84	サルコイドーシス	207
30	遠位型ミオパチー	2	85	特発性間質性肺炎	35
31	ベスレムミオパチー	0	86	肺動脈性肺高血圧症	75
32	自己食空胞性ミオパチー	0	87	肺静脈閉塞症/肺毛細血管腫症	0
33	シュワルツ・ヤンベル症候群	0	88	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	97
34	神経線維腫症	7	89	リンパ脈管筋腫症	10
35	天疱瘡	7	90	網膜色素変性症	537
36	表皮水疱症	1	91	バッド・キアリ症候群	4
37	膿疱性乾癬(汎発型)	21	92	特発性門脈圧亢進症	3
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	9	93	原発性胆汁性肝硬変	143
39	中毒性表皮壊死症	0	94	原発性硬化性胆管炎	31
40	高安動脈炎	12	95	自己免疫性肝炎	109
41	巨細胞性動脈炎	24	96	クローン病	132
42	結節性多発動脈炎	24	97	潰瘍性大腸炎	373
43	顕微鏡的多発血管炎	75	98	好酸球性消化管疾患	18
44	多発血管炎性肉芽腫症	26	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	1
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	24	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
46	悪性関節リウマチ	38	101	腸管神経節細胞減少症	0
47	パージャール病	18	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	1
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	2	103	CFC症候群	0
49	全身性エリテマトーデス	515	104	コステロイド症候群	0
50	皮膚筋炎/多発性筋炎	152	105	チャージ症候群	1
51	全身性強皮症	21	106	クリオピリン関連周期熱症候群	0
52	混合性結合組織病	53	107	全身型若年性特発性関節炎	2
53	シェーグレン症候群	278	108	TNF受容体関連周期性症候群	0
54	成人スチル病	11	109	非典型溶血性尿毒症候群	1
55	再発性多発軟骨炎	8	110	ブラウ症候群	0

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	先天性ミオパチー	8	161	家族性良性慢性天疱瘡	4
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0	162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	77
113	筋ジストロフィー	4	163	特発性後天性全身性無汗症	14
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	164	眼皮膚白皮症	2
115	遺伝性周期性四肢麻痺	1	165	肥厚性皮膚骨膜炎	0
116	アトピー性脊髄炎	0	166	弾性線維性仮性黄色腫	3
117	脊髄空洞症	50	167	マルファン症候群	14
118	脊髄髄膜瘤	1	168	エーラス・ダンロス症候群	6
119	アイザックス症候群	4	169	メンケス病	0
120	遺伝性ジストニア	1	170	オキシピタル・ホーン症候群	0
121	神経フェリチン症	0	171	ウィルソン病	1
122	脳表ヘモジリン沈着症	3	172	低ホスファターゼ症	0
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症	0	173	VATER症候群	0
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	0	174	那須・ハコラ病	0
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	0	175	ウィーバー症候群	0
126	ペリー症候群	0	176	コフィン・ローリー症候群	0
127	前頭側頭葉変性症	2	177	有馬症候群	0
128	ピッカーstaff脳幹脳炎	1	178	モワット・ウィルソン症候群	0
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症	0	179	ウィリアムズ症候群	1
130	先天性無痛無汗症	0	180	ATR-X症候群	0
131	アレキサンダー病	0	181	クルーゾン症候群	7
132	先天性核上性球麻痺	0	182	アペール症候群	7
133	メビウス症候群	1	183	ファイファー症候群	3
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候	0	184	アントレー・ピクスラー症候群	0
135	アイカルディ症候群	0	185	コフィン・シリズ症候群	0
136	片側巨脳症	0	186	ロスムンド・トムソン症候群	0
137	限局性皮質異形成	0	187	歌舞伎症候群	0
138	神経細胞移動異常症	1	188	多脾症候群	0
139	先天性大脳白質形成不全症	0	189	無脾症候群	0
140	ドラベ症候群	0	190	鯉耳腎症候群	0
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	191	ウェルナー症候群	15
142	ミオクロニー欠伸てんかん	0	192	コケイン症候群	2
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	193	ブラダー・ウィリ症候群	0
144	レノックス・ガストー症候群	0	194	ソトス症候群	0
145	ウエスト症候群	0	195	ヌーナン症候群	0
146	大田原症候群	0	196	ヤング・シンブソン症候群	0
147	早期ミオクロニー脳症	0	197	1p36欠失症候群	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	198	4p欠失症候群	0
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	199	5p欠失症候群	1
150	環状20番染色体症候群	0	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
151	ラスマッセン脳炎	0	201	アンジェルマン症候群	2
152	PCDH19関連症候群	0	202	スミス・マジニス症候群	0
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	0	203	22q11.2欠失症候群	0
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	0	204	エマヌエル症候群	0
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	205	脆弱X症候群関連疾患	0
156	レット症候群	2	206	脆弱X症候群	0
157	スタージ・ウェーバー症候群	5	207	総動脈幹遺残症	0
158	結節性硬化症	22	208	修正大血管転位症	1
159	色素性乾皮症	1	209	完全大血管転位症	3
160	先天性魚鱗癬	1	210	単心室症	0

## 高度の医療の提供の実績

## 4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
211	左心低形成症候群	0	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0
212	三尖弁閉鎖症	1	260	シトステロール血症	0
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	0	261	タンジール病	0
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	0	262	原発性高カイロミクロン血症	0
215	ファロー四徴症	12	263	脳腫黄色腫症	0
216	両大血管右室起始症	2	264	無βリポタンパク血症	0
217	エプスタイン病	2	265	脂肪萎縮症	2
218	アルポート症候群	1	266	家族性地中海熱	25
219	ギャロウェイ・モワト症候群	0	267	高IgD症候群	0
220	急速進行性糸球体腎炎	13	268	中條・西村症候群	0
221	抗糸球体基底膜腎炎	0	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	0
222	一次性ネフローゼ症候群	12	270	慢性再発性多発性骨髄炎	0
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	1	271	強直性脊椎炎	15
224	紫斑病性腎炎	3	272	進行性骨化性線維異形成症	0
225	先天性腎性尿崩症	0	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	0	274	骨形成不全症	1
227	オスラー病	24	275	タナトフォリック骨異形成症	0
228	閉塞性細気管支炎	5	276	軟骨無形成症	2
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	3	277	リンパ管腫症/ゴーハム病	1
230	肺胞低換気症候群	4	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0
231	α1-アンチトリプシン欠乏症	0	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	0
232	カーニー複合	0	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	0
233	ウォルフラム症候群	0	281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	3
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
235	副甲状腺機能低下症	11	283	後天性赤芽球癆	2
236	偽性副甲状腺機能低下症	3	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	3
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	285	ファンコニ貧血	1
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	15	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	287	エプスタイン症候群	0
240	フェニルケトン尿症	0	288	自己免疫性出血病XIII	0
241	高チロシン血症1型	0	289	クローンカイト・カナダ症候群	2
242	高チロシン血症2型	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	1
243	高チロシン血症3型	0	291	ヒルシュスブルング病(全結腸型又は小腸型)	1
244	メープルシロップ尿症	0	292	総排泄腔外反症	0
245	プロピオン酸血症	0	293	総排泄腔遺残	1
246	メチルマロン酸血症	0	294	先天性横隔膜ヘルニア	13
247	イソ吉草酸血症	0	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
248	グルコーストランスポーター1欠損症	0	296	胆道閉鎖症	18
249	グルタル酸血症1型	0	297	アラジール症候群	3
250	グルタル酸血症2型	0	298	遺伝性肺炎	0
251	尿素サイクル異常症	0	299	嚢胞性線維症	0
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	300	IgG4関連疾患	17
253	先天性葉酸吸収不全	0	301	黄斑ジストロフィー	11
254	ポルフィリン症	0	302	レーベル遺伝性視神経症	2
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	303	アッシャー症候群	0
256	筋型糖原病	0	304	若年発症型両側性感音難聴	0
257	肝型糖原病	0	305	遅発性内リンパ水腫	0
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	306	好酸球性副鼻腔炎	8

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾 患 名	患者数		疾 患 名	患者数
307	カナバン病	0	319	セピアブテリン還元酵素 (SR) 欠損症	0
308	進行性白質脳症	0	320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール (GPI) 欠損症	0
309	進行性ミオクローヌステんかん	0	321	非ケトーシス型高グリシン血症	0
310	先天異常症候群	0	322	$\beta$ -ケトチオラーゼ欠損症	0
311	先天性三尖弁狭窄症	0	323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
312	先天性僧帽弁狭窄症	0	324	メチルグルタコン酸尿症	0
313	先天性肺静脈狭窄症	0	325	遺伝性自己炎症疾患	13
314	左肺動脈右肺動脈起始症	0	326	大理石骨病	0
315	ネイルパテラ症候群 (爪膝蓋骨症候群) / LMX1B 関連腎症	0	327	特発性血栓症 (遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	0
316	カルニチン回路異常症	0	328	前眼部形成異常	0
317	三頭酵素欠損症	0	329	無虹彩症	2
318	シトリン欠損症	0	330	先天性気管狭窄症	1

(注) 「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等（基本診療科）

施設基準の種類	施設基準の種類
地域歯科診療支援病院歯科初診料	病棟薬剤業務実施加算1
歯科外来診療環境体制加算2	病棟薬剤業務実施加算2
歯科診療特別対応連携加算	データ提出加算2(イ)
特定機能病院入院基本料 一般病棟 7対1入院基本料	入退院支援加算1 入退院支援加算3 入院時支援加算
特定機能病院入院基本料 精神病棟 7対1入院基本料	精神疾患診療体制加算
超急性期脳卒中加算	精神科急性期医師配置加算
診療録管理体制加算2	特定集中治療室管理料4 特定集中治療室管理料 小児加算 早期離床・リハビリテーション加算
医師事務作業補助体制加算1 (30対1)	総合周産期特定集中治療室管理料 1 母体・胎児集中治療室管理料 2 新生児集中治療室管理料
25対1急性期看護補助体制加算(看護補助者5割以上) 夜間100対1急性期看護補助体制加算 夜間看護体制加算	新生児治療回復室入院医療管理料
看護職員夜間12対1配置加算1	小児入院医療管理料1 小児入院医療管理料 注2の加算(プレイルーム加算)
療養環境加算	
重症者等療養環境特別加算	
無菌治療室管理加算1	施設基準を満たしていれば届出の必要がない項目
無菌治療室管理加算2	臨床研修病院入院診療加算(歯科診療以外)
緩和ケア診療加算	臨床研修病院入院診療加算(歯科診療に限る)
精神科身体合併症管理加算	救急医療管理加算
精神科リエゾンチーム加算	妊産婦緊急搬送入院加算
摂食障害入院医療管理加算	乳幼児加算・幼児加算
医療安全対策加算1	超重症児(者)入院診療加算 ・準超重症児(者)入院診療加算
感染防止対策加算1 感染防止対策地域連携加算 抗菌薬適正使用支援加算	小児療養環境特別加算
患者サポート体制充実加算	個別栄養食事管理加算
褥瘡ハイリスク患者ケア加算	がん拠点病院加算(旧称:がん診療連携拠点病院加算)
ハイリスク妊娠管理加算	データ提出加算2(イ)の注2に規定する 提出データ評価加算
ハイリスク分娩管理加算	
総合評価加算	
後発医薬品使用体制加算1	

(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等（基本診療科）

施設基準の種類	施設基準の種類
ウイルス疾患指導料 注2の加算	在宅総合医療管理加算 在宅患者歯科治療時医療管理料
糖尿病合併症管理料	遺伝学的検査
がん性疼痛緩和指導管理料	抗HLA抗体（スクリーニング検査） 抗HLA抗体（抗体特異性同定検査）
がん患者指導管理料イ	HPV核酸検出及びHPV核酸検出（簡易ジェノタイプ判定）
がん患者指導管理料ロ	検体検査管理加算（I）
がん患者指導管理料ハ	検体検査管理加算（IV）
外来緩和ケア管理料	国際標準検査管理加算
移植後患者指導管理料 1. 臓器移植後の場合	遺伝カウンセリング加算
移植後患者指導管理料 2. 造血幹細胞移植後の場合	心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
糖尿病透析予防指導管理料	時間内歩行試験 シャトルウォーキングテスト
乳腺炎重症化予防ケア・指導料	胎児心エコー法
夜間休日救急搬送医学管理料の注3に規定する救急搬送看護体制加算	ヘッドアップティルト試験
外来放射線照射診療料	人工臓器検査 人工臓器療法
ニコチン依存症管理料	長期継続頭蓋内脳波検査
療養・就労両立支援指導料の注2に規定する相談体制充実加算	脳波検査判断料1
がん治療連携計画策定料	神経学的検査
肝炎インターフェロン治療計画料	補聴器適合検査
ハイリスク妊産婦連携指導料1	ロービジョン検査判断料
ハイリスク妊産婦連携指導料2	コンタクトレンズ検査料1
薬剤管理指導料	小児食物アレルギー負荷検査
医療機器安全管理料1	内服・点滴誘発試験
医療機器安全管理料2	CT透視下気管支鏡検査加算
総合医療管理加算 歯科治療時医療管理料	精密触覚機能検査
在宅植込型補助人工心臓（非拍動流型）指導管理料	画像診断管理加算1
在宅腫瘍治療電場療法指導管理料	遠隔画像診断
持続血糖測定器加算 皮下連続式グルコース測定	ポジトロン断層撮影

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等 (特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影	センチネルリンパ節加算
CT撮影及びMRI撮影 (CT 6件、MRI 5件)	皮膚移植術 (死体)
冠動脈CT撮影加算	組織拡張器による再建手術 (一連につき) (乳房 (再建手術) の場合に限る)
心臓MRI撮影加算	骨移植術 (軟骨移植術を含む) (同種骨移植 (非生体) (同種骨移植 (特殊なものに限る)))
乳房MRI撮影加算	骨移植術 (軟骨移植を含む) (自家培養軟骨移植術に限る)
抗悪性腫瘍剤処方管理加算	後縦靭帯骨化症手術 (前方進入によるもの)
外来化学療法加算1	腫瘍脊椎骨全摘術
無菌製剤処理料	頭蓋骨形成手術 (骨移動を伴うものに限る)
心大血管疾患リハビリテーション料 (1) 心大血管疾患リハビリテーション料 初期加算	脳刺激装置植込術 (頭蓋内電極植込術を含む) 及び脳刺激装置交換術
脳血管疾患等リハビリテーション料 (1) 脳血管疾患等リハビリテーション料 初期加算	脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
運動器リハビリテーション料 (1) 運動器リハビリテーション料 初期加算	緑内障手術 (緑内障治療用インプラント挿入術 (プレートのあるもの))
呼吸器リハビリテーション料 (1) 呼吸器リハビリテーション料 初期加算	網膜付着組織を含む硝子体切除術 (眼内内視鏡を用いるもの)
がん患者リハビリテーション料	網膜再建術
歯科口腔リハビリテーション料 2	内視鏡下鼻・副鼻腔手術 V型 (拡大副鼻腔手術)
認知療法・認知行動療法1	喉頭形成手術 (甲状軟骨固定用器具を用いたもの)
抗精神病特定薬剤治療指導管理料 (治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)	上顎骨形成術 (骨移動を伴う場合に限る)、 下顎骨形成術 (骨移動を伴う場合に限る)
医療保護入院等診療料	上顎骨形成術 (骨移動を伴う場合に限る) (歯科診療に係るものに限る)、 下顎骨形成術 (骨移動を伴う場合に限る) (歯科診療に係るものに限る)
処置の休日加算1、時間外加算1及び深夜加算1	センチネルリンパ節生検 (併用法) 乳がんセンチネルリンパ節加算 1
硬膜外自家血注入	センチネルリンパ節生検 (単独法) 乳がんセンチネルリンパ節加算 2
エタノールの局所注入 (甲状腺に対するもの)	乳腺悪性腫瘍手術 (乳輪温存乳房切除術 (腋窩郭清を伴わないもの) 及び乳輪温存乳房切除術 (腋窩郭清を伴うもの))
エタノールの局所注入 (副甲状腺に対するもの)	ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術 (乳房切除後)
人工腎臓 (慢性維持透析を行った場合 1)	胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術 (内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
導入期加算 1	胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術 (内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
透析液水質確保加算 慢性維持透析濾過加算	肺悪性腫瘍手術 (壁側・臓側胸膜全切除 (横隔膜、心膜合併切除を伴うもの))
磁気による膀胱等刺激法	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術 (肺葉切除又は 1 肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合に限る。)
口腔粘膜処置	同種死体肺移植術
手術の休日加算1、時間外加算1及び深夜加算1	生体部分肺移植術

(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等（特掲診療科）

食道縫合術（穿孔、損傷）（内視鏡によるもの） 内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術 胃瘻閉鎖術（内視鏡によるもの） 小腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの） 結腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの） 腎（腎盂）腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの） 尿管腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの） 膀胱腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの） 膣腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）	生体部分肝移植術
経皮的冠動脈形成術（特殊カテーテルによるもの）（高速回転式アテレクトミーカテーテルによるもの）	同種死体肝移植術
胸腔鏡下弁形成術	体外衝撃波膵石破碎術
経カテーテル大動脈弁置換術	腹腔鏡下膵腫瘍摘出術
胸腔鏡下弁置換術	腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
経皮的僧帽弁クリップ術	腹腔鏡下膵頭十二指腸切除術
経皮的中隔心筋焼灼術	早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
ペースメーカー移植術（リードレスペースメーカーの場合）	腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術 （内視鏡手術用支援機器を用いるもの）
両心室ペースメーカー移植術及び 両心室ペースメーカー交換術	同種死体腎移植術
植込型除細動器移植術及び 植込型除細動器交換術及び 経静脈電極抜去術	生体腎移植術
両室 <sup>ペーシング</sup> 機能付き植込型除細動器移植術及び 両室 <sup>ペーシング</sup> 機能付き植込型除細動器交換術	膀胱水圧拡張術
大動脈バルーンパンピング法（IABP法）	腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
経皮的循環補助法（ポンプカテーテルを用いたもの）	腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術 （内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
補助人工心臓	人工尿道括約筋植込・置換術
植込型補助人工心臓（非拍動流型）	腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
同種心移植術	腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術 （内視鏡手術用支援機器を用いるもの）
腹腔鏡下胃切除術 （内視鏡手術用支援機器を用いる場合）	腹腔鏡下腔式子宮全摘術 （内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
腹腔鏡下噴門側胃切除術 （内視鏡手術用支援機器を用いる場合）	腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮体がんに限る。）
腹腔鏡下胃縮小術（スリーブ状切除によるもの）	腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮体がんに対して内視鏡 下手術用支援機器を用いる場合）
腹腔鏡下胃全摘術 （内視鏡手術用支援機器を用いる場合）	胎児胸腔・羊水腔シャント術
胃瘻造設術	輸血管理料Ⅰ
バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術	貯血式自己血輸血管理体制加算
胆管悪性腫瘍手術（膵頭十二指腸切除及び肝切除（葉以上）を伴うもの）	コーディネート体制充実加算
体外衝撃波胆石破碎術	自己生体組織接着剤作成術
腹腔鏡下肝切除術	自己クリオプレシビート作成術（用手法）



(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等 (特掲診療科)

人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	集団栄養食事指導料
胃瘻造設時嚥下機能評価加算	心臓ペースメーカー指導管理料 (植込型除細動器移行期加算)
広範囲顎骨支持型装置埋入手術	高度難聴指導管理料
レーザー機器加算	小児悪性腫瘍患者指導管理料
CAD/CAM冠	小児運動器疾患指導管理料
クラウン・ブリッジ維持管理料	小児科外来診療料
麻酔管理料 (I)	乳幼児育児栄養指導料
麻酔管理料 (II)	夜間休日救急搬送医学管理料
放射線治療専任加算	外来リハビリテーション診療料
外来放射線治療加算	生活習慣病管理料
高エネルギー放射線治療	がん治療連携管理料
1回線量増加加算 (全乳房照射) 1回線量増加加算 (前立腺照射)	認知症専門診断管理料
強度変調放射線治療 (IMRT)	造血器腫瘍遺伝子検査
画像誘導放射線治療加算 (IGRT)	植込型心電図検査
体外照射呼吸性移動対策加算	大腸CT撮影加算
定位放射線治療	廃用症候群リハビリテーション料 (I)
定位放射線治療呼吸移動対策加算 (その他のもの)	児童思春期精神科専門管理加算
画像誘導密封小線源治療加算	一酸化窒素吸入療法 (新生児の低酸素性呼吸困難に対して実施するものに限る)
保険医療機関間の連携による病理診断	経皮的冠動脈形成術
病理診断管理加算2	経皮的冠動脈ステント留置術
デジタル病理画像による病理診断	植込型心電図記録計移植術及び 植込型心電図記録計摘出術
悪性腫瘍病理組織標本加算	経皮的動脈遮断術
口腔病理診断管理加算2	ダメージコントロール手術
<b>施設基準を満たしていれば届出の必要がない項目</b>	<b>手術件数の院内掲示が必要な手術 (通則5, 6 区分1)</b>
悪性腫瘍特異物質治療管理料	頭蓋内腫瘍摘出術等
小児特定疾患カウンセリング料	黄斑下手術等
小児科療養指導料	鼓室形成手術等
外来栄養食事指導料	肺悪性腫瘍手術等
入院栄養食事指導料	経皮的カテーテル心筋焼灼術

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等 (特掲診療科)

手術件数の院内掲示が必要な手術 (通則5.6 区分2)	
靭帯断裂形成手術等	
水頭症手術等	
鼻副鼻腔悪性腫瘍手術等	
尿道形成手術等	
角膜移植術	
肝切除術等	
子宮附属器悪性腫瘍手術等	
手術件数の院内掲示が必要な手術 (通則5.6 区分3)	
上顎骨形成術等	
上顎骨悪性腫瘍手術等	
バセドウ甲状腺全摘 (亜全摘) 術 (両葉)	
母指化手術等	
内反足手術等	
食道切除再建術等	
同種腎移植術等	
手術件数の院内掲示が必要な手術 (通則5.6 区分4)	
胸腔鏡又は腹腔鏡を用いる手術 (通則4に掲げる手術を除く)	
手術件数の院内掲示が必要な手術 (通則5.6その他の区分)	
人工関節置換術	
乳児外科対象手術	
ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	
冠動脈及び大動脈バイパス移植術並びに体外循環を要する手術	
ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	
冠動脈及び大動脈バイパス移植術並びに体外循環を要する手術	
経皮的冠動脈形成術、経皮的冠動脈粥腫切除術及び経皮的冠動脈ステント留置術	

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。  
 (注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

### 8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	剖検症例検討会：年間約10回 臨床症例検討会：年間約40回
剖 検 の 状 況	剖検症例数 57例 / 剖検率 9.07%

(注) 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補委	
植え込み型除細動器のショック治療において成功率の高い除細動を行うには？	近藤 祐介	循環器内科	1,600,000	補委	日本学術振興会
日本人若中年収縮期高血圧の中心血圧・動脈硬化に関する前向き観察研究	中込 敦士	循環器内科	700,000	補委	日本学術振興会
心筋特異的多蛍光発色マウスを用いた内因性心筋分裂促進因子の探索と治療応用	神田 真人	循環器内科	600,000	補委	日本学術振興会
ゲノム解析と1細胞解析を両者併せた心筋症precision medicineの確立	佐藤 真洋	循環器内科	1,000,000	補委	日本学術振興会
重症心不全における訪問看護事業所と高次病院との包括的診療連携構築の有効性の検証	岡田 将	循環器内科	1,400,000	補委	日本学術振興会
拡張現実技術を用いた新方式聴診シミュレータにより最も効果的な医学教育手法の確立	藤本 善英	循環器内科	700,000	補委	日本学術振興会
急性心筋梗塞後の心不全の発症・進展におけるIL-21の作用メカニズムの解明	久保田 暁彦	循環器内科	1,100,000	補委	日本学術振興会
陳旧性心筋梗塞に対する脂肪間葉系幹細胞を用いた自家移植治療に関する研究	近藤 尚通	循環器内科	900,000	補委	日本学術振興会
中性脂肪蓄積心筋血管症に対する中鎖脂肪酸を含有する医薬品の開発	宮内 秀行	循環器内科	1,780,685	補委	大阪大学
地域レベルの構造的ソーシャルキャピタルと高血圧症の関連：JAGES2016横断研究	中込 敦士	循環器内科	1,000,000	補委	(公財)ちば県民保健予防財団
心房細動を合併する冠動脈疾患症例に対するアピキサバン併用下DAPT投与期間に関する医師主導臨床研究(SAFE-A)	北原 秀喜	循環器内科	184,616	補委	筑波大学
安定型冠動脈疾患を合併する非弁膜症性心房細動患者におけるリパーロキサパン単剤療法に関する臨床研究(AFIRE Study)	小林 欣夫	循環器内科	415,390	補委	(公財)循環器病研究振興財団
レーザー微細加工を行った金属表面の生体内での振る舞いに関する検討	梶山 貴嗣	循環器内科	2,000,000	補委	(公財)天田財団
新規インスリン抵抗性指標の妥当性と動脈硬化への影響についての検討	中込 敦士	循環器内科	500,000	補委	(公財)日本人間ドック学会
トレーサビリティの確保された線源と画像誘導を利用した高線量率小線源治療の標準化と高度化の研究	宇野 隆	放射線科	550,000	補委	日本医療研究機構
若年者の性腺被ばく由来する妊孕性の異常の解析と予防法の開発	宇野 隆	放射線科	1,040,000	補委	日本学術振興会
3D MRI撮像法開発による新規子宮頸癌MRI/CT画像誘導小線源治療の確立	渡辺 未歩	放射線科	1,040,000	補委	日本学術振興会
肺・肝以外の諸臓器における定位放射線治療の効果と安全性の評価	宇野 隆	放射線科	130,000	補委	日本学術振興会
子宮頸癌・膀胱癌患者への放射線治療と抗癌剤低用量併用の基礎的検討とその応用	原田 倫太郎	放射線科	1,040,000	補委	日本学術振興会
人工股関節置換術における仰臥位前方法を支援する携帯型下肢牽引架台とインプラントの開発	中村 順一	整形外科	2,000,000	補委	武田科学振興財団
交通外傷後の難治性末梢神経障害の治療を実現するfunctional Sheet Wrappingの開発	向井 務晃	整形外科	895,000	補委	日本損害保険協会
新鮮凍結屍体を用いた人工関節固定性の検討～安定した人工肘関節の成績を求めて～	松浦 佑介	整形外科	500,000	補委	日本肘関節学会
高齢者における骨粗鬆症を基盤とした大腿骨筋位部骨折の発症リスクを予測するための新鮮凍結屍体を用いた有限要素解析と力学試験	中村 順一	整形外科	800,000	補委	骨粗鬆症財団
股関節痛の病態解明とplatelet rich plasma投与による除痛作用の解明	瓦井 裕也	整形外科	1,500,000	補委	中富健康科学振興財団
人工股関節置換術を支援する携帯型下肢牽引	中村 順一	整形外科	789,333	補委	日本学術振興会
骨コラーゲンの質的要素を考慮した有限要素	松浦 佑介	整形外科	1,731,231	補委	日本学術振興会
新鮮凍結屍体を用いたばね指に対するA1 pulleyストレッチの機序解明と理学療法法の確立	山崎 厚郎	整形外科	600,000	補委	日本手外科学会
脊柱靭帯骨化症に関する調査研究	古矢 丈雄	整形外科	250,000	補委	厚生労働省
動物因子を再現したラット圧迫性脊髄症モデル	古矢 丈雄	整形外科	500,000	補委	日本学術振興会
リンパ節転移リスクを有する子宮体癌に対して、骨盤リンパ節郭清のみに比べて骨盤リンパ節に傍大動脈リンパ節郭清を加えることの優越性を検証する多施設共同臨床試験	三橋 暁	婦人科・産産期母性科	260,000	補委	日本医療研究開発機構

子宮体癌述語化学療法時に併用するデキサメサゾン耐糖能への影響の調査	三橋 暁	婦人科・周産期母性科	200,000	補委	(特非)医療福祉ネットワーク千葉
Laeverinの発現を指標としたPSTTの新しい診断基準の作成	碓井 宏和	婦人科・周産期母性科	1,399,999	補委	日本医療研究開発機構
卵巣癌における免疫状態とその予後	楯 真一	婦人科・周産期母性科	200,000	補委	(特非)医療福祉ネットワーク千葉
部分胎状奇胎の診断精度を向上させる免疫組織学的方法の確立	碓井 宏和	婦人科・周産期母性科	2,600,000	補委	日本学術振興会
子宮筋腫周囲筋層の血管新生因子発現と血管新生阻害効果に関する研究	石川 博士	婦人科・周産期母性科	1,820,000	補委	日本学術振興会
重度月経関連症状を有する子宮筋腫患者に対する新規薬物療法開発に向けた研究	石川 博士	婦人科・周産期母性科	1,000,000	補委	(一社)日本女性医学学会
卵巣明細胞癌のテロメラーゼ逆転写酵素プロモーター変異とビタミンA受容体の関連	錦見恭子	婦人科・周産期母性科	1,820,000	補委	日本学術振興会
胎状奇胎組織・患者間のABO血液型適合性による侵入奇胎発症リスクの予測	佐藤明日香	婦人科・周産期母性科	2,210,000	補委	日本学術振興会
網膜脈絡膜・視神経萎縮症に関する調査研究	山本 修一	眼科	300,000	補委	厚生労働省
網膜剥離に対する $\alpha$ $\beta$ クリスタリンの視細胞保護効果	馬場 隆之	眼科	1,226,235	補委	文部科学省
早老症の医療水準やQOL向上を目指す集学的研究	忍足 俊幸	眼科	1,500,000	補委	厚生労働省
視機能障害認定のあり方に関する研究	山本 修一	眼科	11,200,000	補委	厚生労働省
神経保護剤点眼による視神経挫滅モデル・NMDA投与モデルでの神経保護効果の検討	忍足 俊幸	眼科	700,000	補委	文部科学省
血漿中がん細胞エクソソーム由来免疫チェックポイント阻害薬バイオマーカーの探索	松江 弘之	皮膚科	1,356,552	補委	文部科学省
マスト細胞による組織マクロファージの分化・機能制御の解明	松江 弘之	皮膚科	5,000,000	補委	文部科学省
皮膚疾患克服のための「超個体」理解に基づいた皮膚微生物-宿主免疫解析法の確立	松岡 悠美	皮膚科	3,500,000	補委	文部科学省
皮膚細菌叢による病原細菌ゲノム進化時の「進化的リスクマネジメント戦略」制御法	松岡 悠美	皮膚科	3,388,242	補委	文部科学省
皮膚感染症・慢性炎症性疾患予防および治療法開発のための黄色ブドウ球菌のゲノム変異制御と細菌叢コントロール	松岡 悠美	皮膚科	18,650,000	補委	日本医療研究開発機構
二次性原発性メラノーマのダーモスコピー所見と遺伝子解析	外川 八英	皮膚科	1,107,983	補委	文部科学省
毛包由来ヒト3D表皮-免疫デバイスを用いたヒト皮膚炎モデル解析法の確立	中野 倫代	皮膚科	199,224	補委	文部科学省
アレルギー疾患の発症・病態に関わる皮膚・腸管の細菌・真菌叢の解析:アトピー性皮膚炎・食物アレルギー	松岡 悠美	皮膚科	2,200,000	補委	日本医療研究開発機構
去勢抵抗性前立腺癌における機能性RNA分子経路の解明と革新的治療法の開発	市川 智彦	泌尿器科	3,900,000	補委	日本学術振興会
去勢抵抗性前立腺癌のメタボローム解析を基にした新規診断法と創薬の開発	坂本 信一	泌尿器科	1,100,000	補委	日本学術振興会
治療抵抗性腎細胞癌の機能性RNAネットワーク解析に基づく治療標的分子の同定	岡東 篤	泌尿器科	1,400,000	補委	日本学術振興会
機能性RNA発現解析に基づく去勢抵抗性前立腺癌・治療抵抗性に関わる分子経路の探索	加藤 萌子	泌尿器科	1,700,000	補委	日本学術振興会
去勢抵抗性前立腺癌に対する新規薬剤治療比較解析	今村 有佑	泌尿器科	1,100,000	補委	日本学術振興会
浸潤性膀胱癌・オルガノイド培養系を用いた機能性RNA解析と術前化学療法の最適化	菅原 翔	泌尿器科	1,400,000	補委	日本学術振興会
機能性RNAネットワーク解析に基づく腎細胞癌治療抵抗性獲得機序の探索	新井 隆之	泌尿器科	1,600,000	補委	日本学術振興会
マイクロRNAを基点とした前立腺肥大症・前立腺癌特異的分子経路の解明	山田 康隆	泌尿器科	1,600,000	補委	日本学術振興会
前立腺癌におけるAR及びFOXO1を介したエピジェネティックな発癌分子機構の解明	佐藤 広明	泌尿器科	1,200,000	補委	日本学術振興会

成人並びに小児における希少未診断疾患に対する診断プログラムの開発に関する研究	市川 智彦	泌尿器科	4,000,000	補委	AMED
EXILE法を用いた舌下免疫療法の機序解明と奏効性予測バイオマーカーの探索	岡本 美孝	耳鼻咽喉・頭頸部外科	700,000	補委	文部科学省
スギ花粉舌下免疫療法がヒノキ花粉症に与える効果の免疫学的アプローチによる検証	米倉 修二	耳鼻咽喉・頭頸部外科	1,560,000	補委	文部科学省
アレルギー性鼻炎の発症・寛解を制御する末梢免疫細胞のエピゲノム解析研究	櫻井大樹	耳鼻咽喉・頭頸部外科	1,820,000	補委	文部科学省
治療抵抗性頭頸部扁平上皮癌において活性化されている機能性RNA分子経路の探索	吉川直子	耳鼻咽喉・頭頸部外科	1,040,000	補委	文部科学省
革新的治療法開発に向けた治療抵抗性頭頸部癌における機能性RNAネットワークの探索	花澤 豊行	耳鼻咽喉・頭頸部外科	1,690,000	補委	文部科学省
唾液腺がんに対するCAR T細胞とNKT細胞の併用療法に関する橋渡し研究	國井 直樹	耳鼻咽喉・頭頸部外科	1,300,000	補委	文部科学省
花粉症に対する漢方治療の科学的評価研究	岡本 美孝	耳鼻咽喉・頭頸部外科	8,000,000	補委	AMED
頭頸部癌患者に対するiNKT細胞療法、及び免疫療法の効果に影響する免疫応答の網羅的解析	岡本 美孝	耳鼻咽喉・頭頸部外科	学内一括計上	補委	AMED
難治性ダニアレルギー性鼻炎、難治性スギ花粉症の定義付けとガイドラインへの反映	米倉 修二	耳鼻咽喉・頭頸部外科	650,000	補委	AMED
スギ花粉症の発症を、感作未発症という段階とT細胞の機能から捉える	飯沼 智久	耳鼻咽喉・頭頸部外科	2,470,000	補委	文部科学省
腫瘍微小環境における免疫抑制細胞の作用と機序の解明と新規治療法への発展	伊原 史英	耳鼻咽喉・頭頸部外科	1,560,000	補委	文部科学省
好酸球性副鼻腔炎における病原性ヘルパーT細胞のアポトーシス回避機構に関する研究	森本 侑樹	耳鼻咽喉・頭頸部外科	2,080,000	補委	文部科学省
頭頸部癌転移抑制型マイクロRNAが制御するECM・インテグリン転移促進経路の解明	越塚 慶一	耳鼻咽喉・頭頸部外科	1,950,000	補委	文部科学省
腫瘍免疫の解析による頭頸部癌cetuximab療法の効果予測と効果増強因子の検索	山崎 一樹	耳鼻咽喉・頭頸部外科	(期間延長)	補委	文部科学省
下咽頭インピーダンス検査およびLPR動物モデルを用いた咽頭頭逆流症の病態解明	鈴木 猛司	耳鼻咽喉・頭頸部外科	1,700,000	補委	文部科学省
DNAメチル化異常特性とHPV感染による中咽頭癌の層別化と発癌機構の解明	中川 拓也	耳鼻咽喉・頭頸部外科	1,950,000	補委	文部科学省
NKT細胞のCD1d陰性腫瘍細胞に対する腫瘍認識機構の解明と白血病治療への応用	青木孝浩	小児科	2,200,000	補委	日本学術振興会
NKT細胞のNK受容体を介した腫瘍認識機構の解明と小児白血病治療への応用	青木孝浩	小児科	1,000,000	補委	川野小児医学奨学財団
microRNAによるGorlin症候群の新規経路阻害剤とバイオマーカーの開発	塩濱直	小児科	2,080,000	補委	日本学術振興会
アレルギー疾患対策に必要とされる大規模疫学調査に関する研究	下条直樹	小児科	100,000	補委	日本学術振興会
アレルギー疾患に対する保健指導マニュアル開発のための研究	下条直樹	小児科	260,000	補委	日本学術振興会
ヘッジホッグシグナル異常症に対するゲノム編集と先制医療	藤井克則	小児科	1,430,000	補委	日本学術振興会
アトピー性皮膚炎発症と母乳中miRNAとの関連	中野泰至	小児科	1,690,000	補委	日本学術振興会
ビフィズス菌によるヒト臍帯血単核球のIL-10産生誘導メカニズムの解明	下条直樹	小児科	15,000	補委	(一財)糧食研究会
オミクス解析に基づくアレルギー発症機構の理解と制御基盤の構築	下条直樹	小児科	8,500,000	補委	AMED・CREST
早老症疾患特異的iPS細胞を用いた老化促進メカニズムの解明を目指す研究	藤井克則	小児科	2,985,000	補委	AMED
アレルギー疾患の発症・病態に関わる皮膚・腸管の細菌・真菌叢の解析	下条直樹	小児科	6,160,000	補委	AMED
ビフィズス菌によるヒト臍帯血単核球のIL-10産生誘導メカニズムの解明	下条直樹	小児科	1,539,000	補委	(一財)糧食研究会
うつ症状の神経基盤モデルに基づく診断・治療法の開発ー皮質・側坐核・中脳系への着目	伊豫雅臣 研究代表者 橋本謙二	精神神経科 こどものこころ診療部	2,000,000	補委	AMED

治療抵抗性統合失調症の診断法及び治療法の開発	伊豫雅臣	精神神経科 こどものこころ診療部	6,200,000	補委	AMED
精神疾患レジストリの構築・統合により新たな診断・治療法を開発するための研究 (分担項目: レジストリ構築: 臨床情報(第1, 2層)の薬物に関する項目選定)	伊豫雅臣 研究代表者 中込和幸	精神神経科 こどものこころ診療部	1,500,000	補委	AMED
New Long Stay防止統合プログラム有用性の検証と汎用性の確立	伊豫雅臣	精神神経科 こどものこころ診療部	2,000,000	補委	厚生労働省科学研究費
摂食障害の治療支援ネットワークの指針と簡易治療プログラムの開発	中里道子	精神神経科 こどものこころ診療部	1,170,000	補委	AMED
中枢性摂食異常症および中枢神経作病態を呈する疾患群の脳科学的な病態解明と、エビデンスに基づく患者ケア法の開発	中里道子	精神神経科 こどものこころ診療部	700,000	補委	厚生労働省科
子どもの摂食障害、発達障害の脳ハビリテーション法の開発; 認知特性と神経基盤の解明	中里道子	精神神経科 こどものこころ診療部	4,810,000	補委	文部科学省
医療観察法における鑑定入院アウトカム指標の確立と検証に関する研究	椎名明大	精神神経科 こどものこころ診療部	4,340,000	補委	文部科学省
精神障害者の地域生活支援を推進する政策研究 分担研究「措置入院後の支援体制に関する研究」	椎名明大 主任: 藤井千代	精神神経科 こどものこころ診療部	5,147,000	補委	厚生労働省科
周産期から取り組む包括的児童虐待防止システム構築のための調査研究	橋本佐	精神神経科 こどものこころ診療部	2,700,000	補委	公益財団法人三菱財団
古くて新しい革新的ADHD治療 -チベピジン-	佐々木剛	精神神経科 こどものこころ診療部	800,000	補委	文部科学省
グリア細胞由来神経栄養因子に基づく注意障害の病態解明に関する研究	新津富央	精神神経科 こどものこころ診療部	3,900,000	補委	文部科学省
長期高用量抗精神病薬使用に伴う海馬領域への影響	木村大	精神神経科 こどものこころ診療部	4,030,000	補委	文部科学省
悪性症候群に対する修正型電気けいれん療法の有用性を検討する多施設における後方視的カルテ調査研究	橋 真澄	精神神経科 こどものこころ診療部	540,000	補委	文部科学省
国際双極性障害学会 (ISBD) 2019助成金	井手本啓太	精神神経科 こどものこころ診療部	100,000	補委	日本うつ病学会
カテニンを介したカドヘリン複合体ならびにWnt経路制御による癌転移抑制薬の開発	丹沢 秀樹	歯科・顎・口腔外科	11,180,000	補委	文部科学省
口腔癌細胞に対するエクソソームを利用したsiRNA・ミサイル療法の開発	鶴澤 一弘	歯科・顎・口腔外科	5,590,000	補委	文部科学省
末梢血・唾液中の癌関連miRNA吸着性環状RNAによる新規診断・治療法の開発	鶴澤 一弘	歯科・顎・口腔外科	2,860,000	補委	文部科学省
癌と周囲細胞に対するlong non codingRNAの作用と新規治療法の開発	椎葉 正史	歯科・顎・口腔外科	4,290,000	補委	文部科学省
ゲノム編集KOマウスを用いたコラーゲン分子架橋因子PLOD2の癌転移における役割	中嶋 大	歯科・顎・口腔外科	1,170,000	補委	文部科学省
各種EGFR分子標的薬の共通合併症の発生機序の解明と軽減治療薬の開発	小池 一幸	歯科・顎・口腔外科	2,080,000	補委	文部科学省
正常唾液腺細胞の機能維持・長期大量培養法と全く新規の自家移植法の展開研究	肥後 盛洋	歯科・顎・口腔外科	1,170,000	補委	文部科学省
アデノシン受容体を起点とする癌進展カスケード制御による新規治療方法の開発	皆川 康之	歯科・顎・口腔外科	1,950,000	補委	文部科学省
周術期せん妄と睡眠時間の関連について	孫 慶淑	麻酔・疼痛・緩和医療科	1,400,000	補委	日本学術振興会
小児睡眠時無呼吸患者の周術期管理指標としての生物ストレスマーカーの有用性検証	北村 祐司	麻酔・疼痛・緩和医療科	800,000	補委	日本学術振興会
小児声門上器具使用時の声門部開通性の時系列評価研究	石橋 克彦	麻酔・疼痛・緩和医療科	1,800,000	補委	日本学術振興会
低酸素虚血脳障害に対する小胞体ストレスの関与	國分 宙	麻酔・疼痛・緩和医療科	1,300,000	補委	日本学術振興会
マスク人工呼吸中の呼吸時流量制限のメカニズム研究	雨宮 めぐみ	麻酔・疼痛・緩和医療科	1,300,000	補委	日本学術振興会
ICG結合ナノキャリアを用いた脳腫瘍の新規化学療法	岩立康男	脳神経外科	1,900,000	補委	日本学術振興会
姿勢制御異常を来す疾患での定量的動的姿勢制御の解析	樋口佳則	脳神経外科	1,600,000	補委	日本学術振興会
帯状束における注意機能の解析と温存を目指した覚醒下脳手術の新規開発	廣野誠一郎	脳神経外科	2,600,000	補委	日本学術振興会

重粒子線に誘発された二次性腫瘍の臨床検体を用いた新規がん関連遺伝子探索	足立明彦	脳神経外科	1,300,000	補委	日本学術振興会
がん幹細胞化に関するSphere形成メカニズムを標的とした革新的治療開発	吉野 一郎	呼吸器外科	300,000	補委	日本学術振興会
プレジジョン医療実践のための呼吸器内視鏡診断・治療システムの開発	中島 崇裕	呼吸器外科	1,500,000	補委	日本学術振興会
免疫療法に反応した肺癌患者における標的T細胞エピトープ探索システムの開発	鈴木 秀海	呼吸器外科	1,300,000	補委	日本学術振興会
ナノ粒子と近赤外線蛍光イメージングを用いた小型肺腫瘍局在診断法の開発	和田 啓伸	呼吸器外科	1,500,000	補委	日本学術振興会
肺癌幹細胞の解析に基づく新規治療戦略の開発 研究課題	坂入 祐一	呼吸器外科	1,100,000	補委	日本学術振興会
特発性肺線維症合併肺癌における遺伝子解析	吉野 一郎	呼吸器外科	500,000	補委	日本学術振興会
肺移植後急性・慢性拒絶反応を抑制するIL-2複合体の臨床応用に向けた研究	山田 義人	呼吸器外科	1,500,000	補委	日本学術振興会
マウス肺移植モデルを用いた慢性拒絶、線維化機構の分子学的病態解明	畑 敦	呼吸器外科	1,900,000	補委	日本学術振興会
腫瘍リンパ球共培養モデルにおける抗体療法併用NKT細胞治療の開発研究	豊田 行英	呼吸器外科	1,400,000	補委	日本学術振興会
予後不良肺癌組織型型の分化メカニズム解明による補助診断の開発と治療標的分子の同定	佐田 諭己	呼吸器外科	1,000,000	補委	日本学術振興会
肺移植における抗体関連拒絶反応の病態解明と補体活性化抑制による新規治療法の検討	椎名 裕樹	呼吸器外科	1,400,000	補委	日本学術振興会
肺移植の拒絶反応における免疫チェックポイント分子の関与及び免疫寛容の誘導	海寶 大輔	呼吸器外科	1,400,000	補委	日本学術振興会
呼吸器悪性腫瘍に対する手術を含む標準治療確立のための多施設共同研究	吉野 一郎	呼吸器外科	0	補委	国立がん研究センター
高悪性度神経内分泌肺癌切除例に対する術後補助化学療法の標準治療確立のための研究	吉野 一郎	呼吸器外科	538,000	補委	日本医療研究開発機構
非浸潤または小型非小細胞肺癌に対する機能温存手術の確立に関する研究	吉野 一郎	呼吸器外科	230,000	補委	日本医療研究開発機構
難治性呼吸器疾患・肺高血圧症に関する調査研究	巽 浩一郎	呼吸器内科	14,246,000	補委	厚生労働省
難治性呼吸器疾患・肺高血圧症に関する調査研究	田邊 信宏	呼吸器内科	100,000	補委	厚生労働省
難治性呼吸器疾患・肺高血圧症に関する調査研究	坂尾 誠一郎	呼吸器内科	100,000	補委	厚生労働省
難治性呼吸器疾患・肺高血圧症に関する調査研究	多田 裕司	呼吸器内科	100,000	補委	厚生労働省
難治性呼吸器疾患・肺高血圧症に関する調査研究	津島 健司	呼吸器内科	100,000	補委	厚生労働省
難治性呼吸器疾患・肺高血圧症に関する調査研究	寺田 二郎	呼吸器内科	100,000	補委	厚生労働省
持続陽圧(CPAP, ASV)治療管理開始時からの治療状況確認と自己学習を含めた患者・医療機関相互方向の遠隔医療の試み	巽 浩一郎	呼吸器内科	150,000	補委	厚生労働省
疾患予後と医療の質の改善を目的とした多領域横断的な難治性肺高血圧症症例登録研究	巽 浩一郎	呼吸器内科	300,000	補委	厚生労働省
疾患予後と医療の質の改善を目的とした多領域横断的な難治性肺高血圧症症例登録研究	田邊 信宏	呼吸器内科	300,000	補委	厚生労働省
特発性造血障害に関する調査研究	巽 浩一郎	呼吸器内科	200,000	補委	厚生労働省
肺胞蛋白症、遺伝性間質性肺炎患に関する研究:重症難治化要因とその克服	巽 浩一郎	呼吸器内科	100,000	補委	日本医療研究開発機構
官民共同による重篤副作用バイオマーカー開発	巽 浩一郎	呼吸器内科	4,030,000	補委	日本医療研究開発機構
慢性血栓塞栓性肺高血圧症(CTEPH)に対するBallon angioplasty(BPA)の有効性と安全性に関する多施設レジストリー研究	巽 浩一郎	呼吸器内科	100,000	補委	日本医療研究開発機構
慢性血栓塞栓性肺高血圧症に関する多施設共同レジストリー研究	巽 浩一郎	呼吸器内科	300,000	補委	日本医療研究開発機構



産学官連携を加速する肺高血圧症患者レジストリ Japan PH Registryの活用研究	巽 浩一郎	呼吸器内科	1,300,000	補委	日本医療研究開発機構
産学官連携を加速する肺高血圧症患者レジストリ Japan PH Registryの活用研究	田邊 信宏	呼吸器内科	1,300,000	補委	日本医療研究開発機構
肺血管内皮細胞由来の間葉系幹細胞を用いた難治性呼吸器疾患の治療戦略	巽 浩一郎	呼吸器内科	3,720,000	補委	文部科学省
肺血管内皮細胞由来の間葉系幹細胞を用いた難治性呼吸器疾患の治療戦略	坂尾 誠一郎	呼吸器内科	1,000,000	補委	文部科学省
肺血管内皮細胞由来の間葉系幹細胞を用いた難治性呼吸器疾患の治療戦略	西村 倫太郎	呼吸器内科	1,000,000	補委	文部科学省
腸内細菌叢の構造異常をターゲットとした肺高血圧症の病態機序解明	田邊 信宏	呼吸器内科	733,000	補委	文部科学省
腸内細菌叢の構造異常をターゲットとした肺高血圧症の病態機序解明	重城 番行	呼吸器内科	300,000	補委	文部科学省
腸内細菌叢の構造異常をターゲットとした肺高血圧症の病態機序解明	坂尾 誠一郎	呼吸器内科	100,000	補委	文部科学省
血清抗体を用いた睡眠時無呼吸症候群の脳・心血管イベント発症予測マーカーの同定	寺田 二郎	呼吸器内科	1,040,000	補委	文部科学省
臨床検体を用いたプロテオミクスによる転移性骨腫瘍の分子背景の解明と新規治療法開発	多田 裕司	呼吸器内科	130,000	補委	文部科学省
慢性閉塞性肺疾患における呼気ガス分析	川田 奈緒子	呼吸器内科	1,040,000	補委	文部科学省
COPD肺組織修復における終末糖化産物受容体(RAGE)の機能	伊狩 潤	呼吸器内科	1,430,000	補委	文部科学省
肺動脈付着細胞を用いた慢性肺血栓塞栓症動物モデル確立と肺血管リモデリング機序解明	重城 番行	呼吸器内科	780,000	補委	文部科学省
肺動脈性肺高血圧症モデルマウスにおける内皮間葉転換の肺血管リモデリングへの作用	西村 倫太郎	呼吸器内科	780,000	補委	文部科学省
CTEPH血管リモデリングの病態解明から新規治療へ;血管内皮細胞に着目して	須田 理香	呼吸器内科	1,430,000	補委	文部科学省
悪性胸膜中皮腫に対するネクロプトーシス誘導と抗癌剤耐性機構との関連性の解析	石綿 司	呼吸器内科	1,300,000	補委	文部科学省
慢性閉塞性肺疾患(COPD)のスクリーニングのための呼気ガス成分分析を含むバイオマーカー探索研究	川田 奈緒子	呼吸器内科	1,300,000	補委	ちば県民保健予防財団
慢性閉塞性肺疾患(COPD)のスクリーニングのための呼気ガス成分分析を含むバイオマーカー探索研究	巽 浩一郎	呼吸器内科	100,000	補委	ちば県民保健予防財団
慢性閉塞性肺疾患(COPD)のスクリーニングのための呼気ガス成分分析を含むバイオマーカー探索研究	伊狩 潤	呼吸器内科	100,000	補委	ちば県民保健予防財団
プレジジョン医療に基づく千葉県肺癌診療の持続的発展に向けた「ちば再生検コンソーシアム」	寺田 二郎	呼吸器内科	300,000	補委	ちば県民保健予防財団
呼吸器疾患治関連質性肺炎関連書類の作成、臨床試料収集と関連解析開発研究拠点の形成	巽 浩一郎	呼吸器内科	3,502,000	補委	公益財団法人木原記念横浜生命科学振興財団
進行悪性胸膜中皮腫に対するネクロプトーシス誘導を利用した新規治療戦略の構築	石綿 司	呼吸器内科	1,500,000	補委	公益財団法人安田記念医学財団
リアルタイム呼気二酸化炭素モニタリングを用いた気管支鏡検査の安全性の確立と鎮静最適化パラメータの探索	石綿 司	呼吸器内科	500,000	補委	公益財団法人内視鏡医学研究振興財団
肺血管内皮細胞由来の間葉系幹細胞を用いた治療戦略	鈴木 敏夫	呼吸器内科	4,500,000	補委	上原記念生命科学財団
ネクロプトーシスを応用した悪性胸膜中皮腫の新規治療	石綿 司	呼吸器内科	500,000	補委	上原記念生命科学財団
三次元血栓モデルを用いた慢性血栓塞栓性肺高血圧症の内皮細胞・血小板の機能異常解析および病態機序解明	重城 番行	呼吸器内科	3,000,000	補委	MSD生命科学財団
肺高血圧症モデルにおける肺血管内皮細胞の増殖能・形質変化の解析	西村 倫太郎	呼吸器内科	300,000	補委	(一社)日本呼吸器学会
胆道閉鎖症の細胞性免疫構築に果たすオートファジーの役割	齋藤 武	小児外科	1,200,000	補委	文部科学省
先天性呼吸器・胸郭形成異常疾患に関する診療ガイドライン作成ならびに診療体制の構築・普及に関する研究	照井慶太	小児外科	100,000	補委	厚生労働省
神経芽腫のがん微小環境における免疫抑制解除を目指したNKT細胞免疫療法の開発研究	原田和明	小児外科	1,600,000	補委	文部科学省

Ncxノックアウトマウスを用いた腸管神経発生分子機構と巨大結腸発症機構の解明	笈田 諭	小児外科	1,800,000	補委	文部科学省
先天性横隔膜ヘルニアにおける最適な人工換気法・手術時期・手術方法に関する研究	照井慶太	小児外科	400,000	補委	日本医療研究開発機構
クロー・深瀬症候群の病期・重症度分類の確立と重症化に関する病態研究	三澤園子	脳神経内科	1,700,000	補委	日本学術振興会
中枢神経炎症性脱髄疾患におけるペルオキシレドキシンを標的とした革新的治療法開発	鶴沢顕之	脳神経内科	1,200,000	補委	日本学術振興会
脳機能画像・疼痛誘発脳電位を用いた神経障害性疼痛の客観的総合評価システムの確立	桑原 聡	脳神経内科	600,000	補委	日本学術振興会
パーキンソン病における包括的脳機能画像探索研究	平野成樹	脳神経内科	1,000,000	補委	日本学術振興会
Na電流阻害薬を用いた運動神経興奮性制御による筋萎縮性側索硬化症の新規治療開発	澁谷 和幹	脳神経内科	1,500,000	補委	日本学術振興会
バクリタキセル誘発性末梢神経障害の病態解明と早期治療法の開発	関口 縁	脳神経内科	900,000	補委	日本学術振興会
可溶性CD40リガンドを標的とした多発性硬化症の革新的治療法の開発	栢田 大生	脳神経内科	1,900,000	補委	日本学術振興会
HMGBlを標的とした重症筋無力症の新規治療法の開発	金井 哲也	脳神経内科	1,700,000	補委	日本学術振興会
多発性硬化症の新規治療法開発に向けた革新的血液脳関門イメージング法の確立	栢田 大生	脳神経内科	0	補委	日本学術振興会
SEREX法とFACS法を融合させた新手法による神経免疫疾患の網羅的自己抗体検索	森 雅裕	脳神経内科	1,000,000	補委	日本学術振興会
脳構造画像と脳機能イメージングによる多系統萎縮症における中枢性呼吸障害の病態解明	杉山 淳比古	脳神経内科	1,900,000	補委	日本学術振興会
神経免疫疾患のエビデンスによる診断基準・重症度分類・ガイドラインの妥当性と患者QOLの検証	桑原 聡	脳神経内科	450,000	補委	厚生労働省
運動失調症の医療基盤に関する調査研究	桑原 聡	脳神経内科	700,000	補委	厚生労働省
神経変性疾患領域における基盤的調査研究	桑原 聡	脳神経内科	550,000	補委	厚生労働省
子宮頸がんワクチン接種後に生じた症状に関する治療法の確立と情報提供についての研究	桑原 聡	脳神経内科	200,000	補委	厚生労働省
スモンに関する調査研究	山中 義崇	脳神経内科	700,000	補委	厚生労働省
末梢神経障害における感覚障害の分析に関する観察研究	桑原 聡	脳神経内科	1,000,000	補委	環境省
抗Neurofascin155抗体陽性慢性炎症性脱髄性多発神経炎の診断基準・治療ガイドライン作成のためのエビデンスの創出	桑原 聡	脳神経内科	538,462	補委	日本医療研究開発機構
多系統萎縮症の革新的治療法の創出を目指した研究	桑原 聡	脳神経内科	623,077	補委	日本医療研究開発機構
治療調整医師として治験の実施・ALSの電気診断基準の講習	桑原 聡	脳神経内科	1,584,616	補委	日本医療研究開発機構
IgG4自己抗体陽性の慢性炎症性脱髄性多発神経炎(CIDP)患者を対象としたリツキシマブの有効性と安全性評価に関する多施設共同臨床試験	桑原 聡	脳神経内科	3,076,924	補委	日本医療研究開発機構
POEMS症候群の治療法開発	桑原 聡	脳神経内科	500,000	補委	国立精神・神経医療研究センター
Crow-Fukase症候群に対するサリドマイドの多施設共同、ランダム化、プラセボ対照、二重盲検、並行群間比較試験及び長期安全性試験	桑原 聡	脳神経内科	1,355,935	補委	(公財)日本医師会治験促進センター
Crow-Fukase症候群に対するサリドマイドの多施設共同、ランダム化、プラセボ対照、二重盲検、並行群間比較試験及び長期安全性試験	桑原 聡	脳神経内科	800,000	補委	(公財)日本医師会治験促進センター
早く正しい救急医療実現のためのスマートな患者情報取捨・処理・共有システムの開発	中田孝明	救急科・集中治療部	36,990,640	補委	日本医療研究開発機構
ゲノム解析で導出した敗血症重症化因子SVEP1の機能解明と敗血症新薬	栗田健郎	救急科・集中治療部	1,200,000	補委	日本学術振興会
高精度CRT測定装置による標準測定手法の開発	川口留以	救急科・集中治療部	1,500,000	補委	日本学術振興会
AIを用いた外傷患者のCT画像の自動診断法の開発	田中久美子	救急科・集中治療部	1,800,000	補委	日本学術振興会

非出血性心停止モデルにおけるREBOAを用いた新規心肺蘇生法の開発	東 晶子	救急科・集中治療部	1,100,000	(補委)	日本学術振興会
間葉系幹細胞を用いた腸管虚血再灌流障害の新規治療法の開発	柄澤 智史	救急科・集中治療部	1,700,000	(補委)	日本学術振興会
一酸化炭素で修飾した人工赤血球を利用した血管腫レーザー治療の効果と安全性の研究	島内香江	形成・美容外科	3,640,000	(補委)	日本学術振興会
プラズマ止血と抗線維化抗体がもたらすリンパ浮腫治療	山路 佳久	形成・美容外科	4,160,000	(補委)	日本学術振興会
拠点病院集中型から地域連携を重視したHIV診療体制を構築を目標とした研究	猪狩英俊	感染症内科	10,000,000	(補委)	厚生労働省
HIV感染症における医療経済分析と将来予測に資する研究	谷口俊文	感染症内科	8,000,000	(補委)	厚生労働省
早老症の実態把握と予後改善を目指す研究	谷口俊文	感染症内科	200,000	(補委)	厚生労働省
HIV感染症の曝露前及び曝露後の予防投薬の提供体制に対する研究	谷口俊文	感染症内科	1,500,000	(補委)	厚生労働省
RNA編集酵素ADAR1ノックアウトマウスによるワクチン開発の基盤確立	谷口俊文	感染症内科	1,400,000	(補委)	日本学術振興会
質量分析計による病原微生物迅速同定法の構築・臨床応用	谷口俊文	感染症内科	189,200	(補委)	日本学術振興会
自己免疫疾患の特異的免疫記憶の分子機構の解明と治療戦略の開発	谷口俊文	感染症内科	300,000	(補委)	日本学術振興会
TFH細胞機能制御を利用した全身性エリテマトーデスの治療法開発に関する基盤的研究	谷口俊文	感染症内科	50,000	(補委)	日本学術振興会
結核の診断及び治療の強化等に関する革新的な手法の開発に関する研究	猪狩英俊	感染症内科	910,000	(補委)	日本医療研究開発機構
国内流行HIV及びその薬剤耐性株の長期的動向把握に関する研究	猪狩英俊	感染症内科	585,000	(補委)	(公財)結核研究所
フィジカルアセスメントを実践できる養護教諭の育成	鋪野紀好	総合診療科	300,000	(補委)	(公財)ちば県民保健予防財団
めまい診療における診療録データの病歴情報を用いた確率的因果関係の可視化と有用性	野田和敬	総合診療科	2,600,000	(補委)	日本学術振興会
電子カルテと連携する音声認識システムのニーズ把握及び音声認識システムに用いられる医療用語辞書の編纂に関する研究	野田和敬	総合診療科	21,570,000	(補委)	厚生労働省
反転授業は多職種(医業看)におけるフィジカルアセスメントスキルを向上させるか?	鋪野紀好	総合診療科	4,160,000	(補委)	日本学術振興会
Pan Optic iExaminer systemを用いた眼底鏡診察における効果的教育手法の開発	鋪野紀好	総合診療科	100,000	(補委)	(一社)日本プライマリ・ケア連合学会
word2vecによる疾患の新しい概念の提唱一梗塞とは何か、非病理学的定義	横川大樹	総合診療科	200,000	(補委)	文部科学省
患者の語る病歴情報に基づいて疾患を予測する推論エンジンの開発	野田和敬	総合診療科	1,000,000	(補委)	文部科学省
書字の乱れや言動により知能指数を近似化するシステムの構築	横川大樹	総合診療科	30,000	(補委)	文部科学省
B型肝炎ウイルスの感染複製増殖機構解明による創薬基盤形成に関する研究	加藤 直也	消化器内科	3,100,000	(補委)	日本医療研究開発機構
B型肝炎ウイルスRNAと相互作用する宿主因子の網羅的同定による肝癌発生の制御法開発	千葉 哲博	消化器内科	3,230,770	(補委)	日本医療研究開発機構
非アルコール性脂肪肝炎の診断と発癌リスク分析に向けた脂肪酸音響マッピングの創成	丸山 紀史	消化器内科	1,400,000	(補委)	日本学術振興会
肝細胞癌におけるクロマチンリモデリング因子ARID遺伝子群の機能喪失の意義	千葉 哲博	消化器内科	2,200,000	(補委)	日本学術振興会
microRNAを標的とした非アルコール性脂肪肝炎に対する新規治療法の開発	中村 昌人	消化器内科	1,300,000	(補委)	日本学術振興会
Ras阻害剤による自己免疫性肝疾患治療法の確立	中川 良	消化器内科	12,000,000	(補委)	日本学術振興会
原発性胆汁性胆管炎への臨床応用を目指したRas阻害剤のスクリーニング	中川 良	消化器内科	1,300,000	(補委)	日本学術振興会
胃癌健診におけるAI(artificial intelligence)を用いた2次読影支援機能の開発	加藤 直也	消化器内科	1,750,000	(補委)	公益財団法人ちば県民保健予防財団

DNAメチル化形質によるEVB陽性B細胞性悪性リンパ腫の層別化と新規治療法の開発	大島 渚	血液内科	1,700,000	補委	文部科学省
iPS細胞由来巨核球細胞および疾患特異的M蛋白を用いたPOEMS症候群の病態解明	武内 正博	血液内科	1,100,000	補委	文部科学省
骨髄形質細胞シングルセル解析によるPOEMS症候群の分子病態の解明	中世古知昭(代表) 堺田恵美子(分担)	血液内科	500,000	補委	文部科学省
骨髄形質細胞シングルセル解析によるPOEMS症候群の分子病態の解明	中世古知昭(代表) 武内正博(分担)	血液内科	400,000	補委	文部科学省
The role of UTX in the pathogenesis of multiple myeloma and its therapeutic applications	オラ・リズク	血液内科	1,200,000	補委	文部科学省
MDS検体の収集とクロマチン・トランスクリプトーム解析およびMDS検体の収集と臨床病態解析	岩間厚志(代表) 堺田恵美子(分担)	血液内科	1,000,000	補委	日本医療研究開発機構
病的形質細胞の網羅的遺伝子解析による原発性ALアミロイドーシスの分子病態解明	塚本 祥吉	血液内科	1,300,000	補委	(公財)持田記念医学薬学振興財団
DNAメチル化形質によるEVB陽性B細胞性悪性リンパ腫の層別化と新規治療法の開発	大島 渚	血液内科	300,000	補委	(公財)猪之鼻奨学会
病的形質細胞の遺伝子解析による原発性ALアミロイドーシスの分子病態解明	塚本 祥吉	血液内科	300,000	補委	(公財)猪之鼻奨学会
形質細胞の遺伝子プロファイルと免疫グロブリン遺伝子の多様性解析による原発性ALアミロイドーシスの分子病態解明	塚本 祥吉	血液内科	500,000	補委	日本骨髄腫学会
造血器悪性腫瘍疾患の多剤併用抗がん剤治療ならびに造血幹細胞移植における腸内細菌および真菌フローラが治療成績に及ぼす影響の解明	大和田 千桂子	血液内科	1,000,000	補委	(公財)ヤクルト・バイオサイエンス研究財団
新規技術に基づくPOEMS症候群の病因解明	塚本 祥吉	血液内科	1,000,000	補委	(公財)かなえ振興財団
エピジェネティクスから迫る多発性骨髄腫の発症機構の解明と薬剤耐性化の克服	三村 尚也	輸血・細胞療法部	1,100,000	補委	文部科学省
MDS検体の収集とクロマチン・トランスクリプトーム解析およびMDS検体の収集と臨床病態解析	岩間厚志(代表) 三村尚也(分担)	輸血・細胞療法部	1,000,000	補委	日本医療研究開発機構
アレルギー感受性における気道上皮細胞一樹状	中島 裕史	アレルギー・膠原病内科	4,500,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
難治性血管炎に関する調査研究	古田 俊介	アレルギー・膠原病内科	60,000	補委	厚生労働科学研究費補助金
気道上皮糖鎖修飾を標的とした難治性喘息新	廣瀬 晃一	アレルギー・膠原病内科	871,733	補委	学術研究助成基金助成金
SLBの病態形成における濾胞ヘルパーT細胞分	鈴木 浩太郎	アレルギー・膠原病内科	1,410,315	補委	学術研究助成基金助成金
自己免疫性関節炎におけるIL-33-自然リンパ	高取 宏昌	アレルギー・膠原病内科	976,108	補委	学術研究助成基金助成金
炎症性筋疾患におけるIL-21誘導性GM-CSF産	須藤 明	アレルギー・膠原病内科	1,435,555	補委	学術研究助成基金助成金
アレルギー性気道炎症におけるWnt11産生樹	岩田 有史	アレルギー・膠原病内科	701,903	補委	学術研究助成基金助成金
包括的トランスクリプトーム・エピゲノム解	池田 啓	アレルギー・膠原病内科	1,333,067	補委	学術研究助成基金助成金
ANCA関連血管炎の病態形成におけるTLR9の役	古田 俊介	アレルギー・膠原病内科	1,000,000	補委	学術研究助成基金助成金
IgE産生制御による食物アレルギー治療戦略	玉地 智宏	アレルギー・膠原病内科	1,500,000	補委	学術研究助成基金助成金
関節リウマチの病態形成におけるSemaphorin	田中 繁	アレルギー・膠原病内科	1,900,000	補委	学術研究助成基金助成金
アレルギー性気道炎症下のバリア機能維持におけるTcf21の役割の解明	前澤 裕子	アレルギー・膠原病内科	976,509	補委	厚生労働科学研究費補助金
乾癬病態形成におけるNF-κB1の役割の解析	鈴木一正	アレルギー・膠原病内科	1,900,000	補委	学術研究助成基金助成金
関節エコーによる関節リウマチ診療の最適化・標準化	池田 啓	アレルギー・膠原病内科	559,760	補委	AMED
スーパーエンハンサー関連遺伝子群の時間・空間的動態解析によるアレルギー性気道炎症誘導における細胞間相互作用の解明	岩田 有史	アレルギー・膠原病内科	10,000,000	補委	AMED
早老症の医療水準やQOL向上を目指す集学的研究	横手 幸太郎	糖尿病・代謝・内分泌内科	5,600,000	補委	厚生労働省

早老症ウェルナー症候群の症例登録システムの構築・運営に基づくデータ集積とエビデンスの創生	横手 幸太郎	糖尿病・代謝・内分泌内科	8,000,000	補 委	日本医療研究開発機構
早老症疾患特異的iPS細胞を用いた老化促進メカニズムの解明を目指す研究	横手 幸太郎	糖尿病・代謝・内分泌内科	24,496,154	補 委	日本医療研究開発機構
肥満症に対する効果的な治療戦略と健康障害の改善に資する減量数値目標を見出すための介入研究	横手 幸太郎	糖尿病・代謝・内分泌内科	15,961,539	補 委	日本医療研究開発機構
早老症に立脚したヒト老化病態の解明とその制御への応用	横手 幸太郎	糖尿病・代謝・内分泌内科	10,000,000	補 委	日本医療研究開発機構
IoT活用による肥満症治療法の開発を目指した研究	横手 幸太郎	糖尿病・代謝・内分泌内科	7,550,000	補 委	日本医療研究開発機構
遺伝子治療用脂肪細胞の調整に関する研究	横手 幸太郎	糖尿病・代謝・内分泌内科	4,142,014	補 委	セルジェンテック
適時適切な医療・ケアを目指した、認知症の人等の全国的な情報登録・追跡を行う研究	横手 幸太郎	糖尿病・代謝・内分泌内科	923,077	補 委	日本医療研究開発機構
原発性高脂血症に関する調査研究	横手 幸太郎	糖尿病・代謝・内分泌内科	150,000	補 委	厚生労働省
早老症遺伝子の多角的解析に基づく老化と疾患の分子病態解明	横手 幸太郎	糖尿病・代謝・内分泌内科	10,500,000	補 委	日本学術振興会
体細胞からの誘導ポドサイト(iPod)による慢性腎臓病の細胞治療	横手 幸太郎	糖尿病・代謝・内分泌内科	1,700,000	補 委	日本学術振興会
高齢者造血管腫瘍の発症基盤としてのステムセルエイジングの解明	横手 幸太郎	糖尿病・代謝・内分泌内科	8,000,000	補 委	日本学術振興会
フレイル高齢者のレジストリ研究及び地域高齢者におけるフレイル予防プログラムの開発・検証	横手 幸太郎	糖尿病・代謝・内分泌内科	1,000,000	補 委	国立長寿医療研究開発センター
加工ヒト脂肪細胞の代謝・機能を保持・安定化させる移植用製剤と輸送システムの確立	横手 幸太郎	糖尿病・代謝・内分泌内科	1,923,077	補 委	セルジェンテック
サルコペニアの治療戦略開発にむけた新規筋衛生細胞発現遺伝子R3hdm1の機能解析	竹本 稔	糖尿病・代謝・内分泌内科	1,200,000	補 委	日本学術振興会
インスリンの肝直接作用と脳・脂肪組織を介した間接作用による血糖降下機序の解明	小野 啓	糖尿病・代謝・内分泌内科	1,400,000	補 委	日本学術振興会
ウェルナー症候群の解析に基づくサルコペニア発症の分子機構の解明	河村 治清	糖尿病・代謝・内分泌内科	1,100,000	補 委	日本学術振興会
転写因子Tcf21の機能解析を通じた腎線維化の病態解明	前澤 善朗	糖尿病・代謝・内分泌内科	800,000	補 委	日本学術振興会
Sema3Gの機能解析を通じた非アルコール性脂肪性肝炎の機序解明	徳山 宏文	糖尿病・代謝・内分泌内科	1,200,000	補 委	日本学術振興会
R3hdm1を用いたポドサイト特異的TGF-β受容体抑制機構の解明と治療応用の検討	石川 崇広	糖尿病・代謝・内分泌内科	700,000	補 委	日本学術振興会
新規マイオカインR3hdm1による骨格筋糖代謝、多臓器連関に関する検討	小林 一貴	糖尿病・代謝・内分泌内科	1,200,000	補 委	日本学術振興会
転写複合体解析から捉えたRANKL依存的骨ネットワーク制御機構の基盤的研究	小出 尚史 (研究分担者)	糖尿病・代謝・内分泌内科	300,000	補 委	日本学術振興会
グルタミン代謝を介した多臓器連関によるエネルギー代謝恒常性維持機構の解明	鈴木 佐和子	糖尿病・代謝・内分泌内科	1,100,505	補 委	日本学術振興会
転写複合体解析から捉えたRANKL依存的骨ネットワーク制御機構の基盤的研究	鈴木 佐和子 (研究分担者)	糖尿病・代謝・内分泌内科	400,000	補 委	日本学術振興会
異所性ACTH産生褐色細胞腫の発症機構の解明	佐久間 一基	糖尿病・代謝・内分泌内科	1,600,817	補 委	日本学術振興会
脂肪昨日制御とがん抑制能における	永野 秀和	糖尿病・代謝・内分泌内科	1,400,000	補 委	日本学術振興会
AKAP13を用いた骨代謝調節機構の解明	小出 尚史	糖尿病・代謝・内分泌内科	1,200,000	補 委	日本学術振興会
CFDを用いたCABG患者個別最適化モデルの構築と3D printerによる応用	松浦 肇	心臓血管外科	1,400,000	補 委	日本学術振興会
マイクロ波プロセス・トモグラフィー法による血流内微小血栓モニタリング法の確立	松宮 護郎 (研究分担者)	心臓血管外科	690,000	補 委	日本学術振興会
植込型補助人工心臓装着後の出血性合併症予知法および予防法の確立に関する研究	松宮 護郎 (研究分担者)	心臓血管外科	160,000	補 委	日本医療研究開発機構
国内完結型が臨床シークエンスの社会実装と統合データ構築および医療人材育成に関する研究開発	松原 久裕	食道・胃腸外科	8,500,000	補 委	国立大学法人京都大学

切除不能または再発食道癌に対するCF(シスプラチン+5-FU)療法ちbDCF(biweeklyドセキタル+CF)療法のランダム化第Ⅲ相比較試験	松原 久裕	食道・胃腸外科	1,000,000	補委	静岡県立静岡がんセンター
早期胃癌に対する画期的な個別的・超低侵襲手術法の開発と検証	松原 久裕	食道・胃腸外科	500,000	補委	学校法人慶應義塾
HER2 増幅固型癌に対するトラスツズマブペルツズマブ併用療法のバスケットトライアル	松原 久裕	食道・胃腸外科	14,300,000	補委	国立大学法人東京医科歯科大学
術中経肛門的ICG近赤外線蛍光観察による直腸吻合部血流評価の検討	天海 博之	食道・胃腸外科	2,340,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
IVIM MRIとtexture 解析を応用した食道癌の低侵襲バイオマーカーの開発	早野 康一	食道・胃腸外科	1,040,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
センチネルリンパ節理論に基づく新規光応答性免疫誘導システムに関する基礎的検討	章 逸汀	食道・胃腸外科	300,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
胆管癌癌源細胞誘導におけるYAP/TAZの役割と新規分子標的治療法の開発	大塚将之	肝胆膵外科	1,000,000	補委	日本学術振興会
膵癌に対する近赤外線イメージングによる個別化外科治療法の開発と創薬への応用	吉富秀幸	肝胆膵外科	1,400,000	補委	日本学術振興会
Pin1をターゲットとした拡大肝切除術後の加齢リスク回避への新しい試み	久保木知	肝胆膵外科	800,000	補委	日本学術振興会
AnnexinII-癌周囲環境の相互作用と分泌因子による浸潤転移メカニズムの解明	高野重昭	肝胆膵外科	700,000	補委	日本学術振興会
転写因子KLFによる消化器癌浸潤、転移制御機構の解明と新規治療法の開発	酒井 望	肝胆膵外科	1,400,000	補委	日本学術振興会
Notch/Sox9シグナル阻害剤による膵癌の新規分子標的療法の開発	賀川真吾	肝胆膵外科	900,000	補委	日本学術振興会
網羅的遺伝子・蛋白質解析を用いて非浸潤性乳癌の新規悪性度マーカーを同定する研究(2016-2018年)	三階貴史	乳腺・甲状腺外科	910,000	補委	日本学術振興会
遺伝子改変前脂肪細胞を用いた乳癌抗体療法の開発(2018-2020年)	藤本浩司	乳腺・甲状腺外科	1,300,000	補委	日本学術振興会
上皮間葉移行(EMT)をターゲットとした胸膜悪性中皮腫の新規治療法探索(研究課題番号 17K09647)	滝口裕一	腫瘍内科	4,680,000	補委	日本学術振興会
大腸ポリープの内視鏡視認性における3Dモニターシステムの有用性の検討	新井誠人	腫瘍内科	1,500,000	補委	ちば県民保健予防財団
非ウイルス性慢性炎症に伴う発癌メカニズムの解明と早期血清診断法の確立	松下一之	検査部	1,430,000	補委	文部科学省
RaIAとNY-ESO-1を標的とした食道癌血清抗体モニタリングに関する研究	松下一之	検査部	300,000	補委	文部科学省
日常臨床検査における異常反応の検出と対策	松下一之	検査部	100,000	補委	文部科学省
ゲノム医療従事者の育成プログラム開発	松下一之	検査部	1,560,000	補委	日本医療研究開発機構
がんゲノム個別化医療の実現に向けた遺伝子診断共通カリキュラム構築と教育	松下一之	検査部	1,560,000	補委	日本医療研究開発機構
難病克服！次世代スーパードクターの育成(NGSD)	松下一之	検査部	1,600,680	補委	文部科学省
治療法・診断法がある遺伝性がんに対する千葉県内における検診体制の確立	松下一之	検査部	900,000	補委	ちば県民保健予防財団
メタゲノムによる新意義を持つ臨床細菌検査の開発とそれへのDNAメチル化解析の応用	西村 基	検査部	2,470,000	補委	文部科学省
質量分析による血清ビタミンD代謝の包括的評価	石毛 崇之	検査部	1,300,000	補委	文部科学省
臨床検査応用を目指したLC-MS/MS定量測定法の開発と基盤技術の構築	佐藤守	マスペクトロメリー検査診断学	1,690,000	補委	日本学術振興会
ユビキトーム解析による歯周疾患のバイオマーカー開発	土田祥央	マスペクトロメリー検査診断学	1,560,000	補委	日本学術振興会
MS臨床検査をハイスループト化するアナログ/アイトポログ誘導体化法の開発	佐藤守(分担者)	マスペクトロメリー検査診断学	100,000	補委	日本学術振興会
脊髄損傷の早期・客観的重症度判定を可能にする分子バイオマーカー探索	佐藤守(分担者)	マスペクトロメリー検査診断学	200,000	補委	日本学術振興会
質量分析技術を駆使した新規抗菌薬耐性検出法の開発	土田祥央	マスペクトロメリー検査診断学	300,000	補委	ちば県民保健予防財団

医療現場における対応困難事例の調査及び医療者教育法の開発～患者中心の医療のために	伊藤彰一	総合医療教育研修センター	1,300,000	補委	日本学術振興会
臨床的IPEプログラムの必修化に向けた課題と学習効果の評価	朝比奈真由美	総合医療教育研修センター	1,690,000	補委	日本学術振興会
医学生の実力の獲得プロセスに関する研究—タイミング、契機に着目して—	松本暢平	総合医療教育研修センター	600,000	補委	日本学術振興会
医学生が能力を伸ばす際のトリガーとなる経験や行動、意識に関する混合研究法を用いた調査研究	松本暢平	総合医療教育研修センター	350,000	補委	医学教育振興財団
反転授業は多職種(医薬看)におけるフィジカルアセスメントスキルを向上させるか?	鋪野 紀好	総合医療教育研修センター 総合診療科	1,300,000	補委	日本学術振興会
PanOptiExamssystemを用いた眼底鏡診察における効果的教育手法の開発	鋪野 紀好	総合医療教育研修センター 総合診療科	100,000	補委	日本プライマリ・ケア連合学会
NKT細胞再生によるがん免疫治療技術開発拠点	本橋 新一郎	未来開拓センター	16,500,000	補委	日本医療研究開発機構
培養前駆脂肪細胞の培養工程における遺伝子発現推移解析に基づく輸送・移植剤の確立	黒田正幸	未来開拓センター	1,560,000	補委	日本学術振興会
オキサリプラチン誘発性末梢神経障害に対するボルネオール自己微乳化剤の開発	中澤孝文	薬剤部	470,000	補委	日本学術振興会
髄液移行性を考慮した細菌性髄膜炎に対するメロペネム投与設計法の確立	石川雅之	薬剤部	530,000	補委	日本学術振興会
慢性骨髄性白血病合併妊娠における第二世代・第三世代TKIの胎児移行性の検討	山崎香織	薬剤部	530,000	補委	日本学術振興会
薬剤師を対象とした臨床推論教育プログラムの構築と有用性の評価	金子裕美	薬剤部	470,000	補委	日本学術振興会
ポリコゾールによる幻覚は血中濃度依存的か?	長内理大	薬剤部	530,000	補委	日本学術振興会
高齢者における内服薬剤数の増加が有害事象の発生をもたらす原因の解明	新井さやか	薬剤部	530,000	補委	日本学術振興会
肺動脈性肺高血圧症新規治療薬セレキシバグの薬効及び副作用に影響を与える因子の探索	後藤優理	薬剤部	530,000	補委	日本学術振興会
脳虚血障害に対するミクログリアVNUITによる保護作用とその分子メカニズムの解明	平山友里	薬剤部	2,080,000	補委	日本学術振興会
腎障害マーカーL-FABPを用いた抗菌薬の新規投与設計法に関する研究	鈴木貴明	薬剤部	2,080,000	補委	日本学術振興会
がん化学療法誘発末梢神経障害に対する定量的評価法の開発	鈴木貴明	薬剤部	700,000	補委	薬学研究奨励財団
新治療法開発のための医薬品・医療機器・再生医療等製品創造と科学の双翼プロジェクト	花岡 英紀	臨床試験部	190,000,000	補委	日本医療研究開発機構
中央治験審査委員会・中央倫理審査委員会基盤整備事業	花岡 英紀	臨床試験部	4,000,000	補委	日本医療研究開発機構
医療情報データベースに保存された医療情報の実践的な活用のためのデータ検証(バリデーション)業務	鈴木 隆弘	企画情報部	10,643,800	補委	医薬品医療機器総合機構
多施設統合退院サマリデータベース臨床応用	鈴木 隆弘	企画情報部	1,100,000	補委	日本学術振興会
MID-NET®データの特性解析及びデータ抽出条件・解析手法等に関する研究	島井 健一郎	企画情報部	2,850,000	補委	医薬品医療機器総合機構

(注 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

小計23

合計353

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 2 論文発表等の実績

## (1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
1	Nakano M, Kondo Y, Nakano M, et al.	循環器内科	Impact of atrial high-rate episodes on the risk of future stroke.	J Cardiol.2019 Aug;74(2):144-149.	Original Article
2	Kitahara H, Mastuura K, Sugiura A, et al.	循環器内科	Recurrence of Left Ventricular Outflow Tract Obstruction Requiring Alcohol Septal Ablation after Transcatheter Aortic Valve Implantation.	Case Rep Cardiol. 2018 Dec 2;2018:5026190.	Case report
3	Satoh M, Nomura S, Harada M, et al.	循環器内科	High-throughput single-molecule RNA imaging analysis reveals heterogeneous responses of cardiomyocytes to hemodynamic overload.	J Mol Cell Cardiol. 2019 Mar;128:77-89.	Original Article
4	Nakagomi A, Sunami Y, Okada S, et al.	循環器内科	Synergistic Effects of 1 h Post-Load Plasma Glucose and Smoking on Arterial Stiffness in Apparently Healthy Men: A Cross-sectional Study.	J Atheroscler Thromb. 2019 Jun 1;26(6):505-512.	Original Article
5	Kitahara H, Mori N, Saito Y, et al.	循環器内科	Plaque Stabilization by Proprotein Convertase Subtilisin/Kexin Type 9 Inhibitor in a Patient With Familial Hypercholesterolemia Undergoing Percutaneous Coronary Intervention.	Circ J. 2019 Apr 25;83(6):1084.	Original Article
6	Tateishi K, Saito Y, Kitahara H, et al.	循環器内科	Safety and usefulness of acetylcholine provocation test in patients with no culprit lesions on emergency coronary angiography.	Int J Cardiol. 2018 Oct 15;269:27-30.	Original Article
7	Funabashi N, Takaoka H, Ozawa K, et al.	循環器内科	Quantitative Differentiation of LV Myocardium with and without Layer-Specific Fibrosis Using MRI in Hypertrophic Cardiomyopathy and Layer-Specific Strain TTE Analysis.	Int Heart J. 2018 May 30;59(3):523-530.	Original Article
8	Takaoka H, Funabashi N, Ozawa K, et al.	循環器内科	Improved Diagnosis of Detection of Late Enhancement in Left Ventricular Myocardium Using 2nd Generation 320-Slice CT Reconstructed with FIRST in Non-Ischemic Cardiomyopathy.	Int Heart J. 2018 May 30;59(3):542-549.	Original Article
9	Kajiyama T, Ueda M, Ishimura M, et al.	循環器内科	A novel technique for ligation of the cephalic vein reduces hemorrhaging during a two-in-one insertion of dual cardiac device leads.	Indian Pacing Electrophysiol J. 2018 Jul - Aug;18(4):152-154.	Original Article
10	Funabashi N, Takaoka H, Ozawa K, et al.	循環器内科	2D speckle-tracking TTE-based quantitative classification of left ventricular myocardium in patients with hypertrophic cardiomyopathy by the presence or the absence of fibrosis and/or hypertrophy.	Heart Vessels. 2018 Sep;33(9):1046-1051.	Original Article
11	Nakano M, Ueda M, Kondo Y, et al.	循環器内科	Shortening of the atrial-His bundle interval during atrial pacing as a predictor of successful ablation for typical atrioventricular nodal re-entrant tachycardia.	Europace. 2018;20:654-658.	Original Article
12	Wakabayashi S, Kitahara H, Nishi T, et al.	循環器内科	Platelet inhibition after loading dose of prasugrel in patients with ST-elevation and non-ST-elevation acute coronary syndrome.	Cardiovasc Interv Ther. 2018;33:239-246.	Original Article
13	Kajiyama T, Kondo Y, Ueda M, et al.	循環器内科	Catheter ablation of atrial tachyarrhythmias after a Maze procedure: A single center experience.	J Cardiol Cases. 2018;19:89-92.	Case report
14	Ito R, Kondo Y, Winter J, et al.	循環器内科	Combination of a leadless pacemaker and subcutaneous implantable cardioverter defibrillator therapy for a Japanese patient with prosthetic valve endocarditis.	J Arrhythm. 2019 Jan 16;35(2):311-313.	Original Article
15	Kajiyama T, Kondo Y, Ueda M, et al.	循環器内科	Catheter ablation of atrial tachyarrhythmias after a Maze procedure: A single center experience.	J Cardiol Cases. 2018 Dec 20;19(3):89-92.	Original Article
16	Kubota Y, Yokota H, Mukai H, et al.	放射線科	Low-tube-voltage CT assessment of Adamkiewicz artery: Precise comparison between 100-kVp- and 120-kVp protocols	European journal of radiology 2019;111:56-61.	Original Article
17	Matsumoto K, Yokota H, Mukai H, et al.	放射線科	Merging images with different central frequencies reduces banding artifacts in balanced steady-state free precession magnetic resonance cisternography	Journal of applied clinical medical physics 2018;19(6):234-243.	Original Article
18	Saiga A, Sugiura T, Higashide T, et al.	放射線科	Multiple Enlarged Aneurysms in Primary Racemose Hemangioma of the Bronchial Artery: Successful Prophylactic Transcatheter Arterial Embolization Using N-butyl-3-cyanoacrylate and Coils	Cardiovascular and interventional radiology 2018;41(5):811-816	Case report
19	Yamaguchi S, Sadamasu A, Kimura S, et al.	整形外科	Nonradiographic Measurement of Hallux Valgus Angle Using Self-photography.	J Orthop Sports Phys Ther. 2019 Feb;49(2):80-86.	Original Article
20	Okada K, Yamaguchi S, Sato Y, et al.	整形外科	Comparison of meniscal extrusion and osteophyte formation at the intercondylar notch as a predictive biomarker for incidence of knee osteoarthritis-Data from the Osteoarthritis Initiative.	J Orthop Sci. 2019 Jan;24(1):121-127.	Original Article
21	Kawarai Y, Orita S, Nakamura J, et al.	整形外科	Changes in proinflammatory cytokines, neuropeptides, and microglia in an animal model of monosodium iodoacetate-induced hip osteoarthritis.	J Orthop Res. 2018 Nov;36(11):2978-2986.	Original Article
22	Sasaki Y, Ochiai N, Nakajima A, et al.	整形外科	Histological analysis and biomechanical evaluation of fatty infiltration after rotator cuff tear and suprascapular nerve injury in a rat model.	2018 Sep;23(5):834-841.	Original Article
23	Sugiura S, Matsuura Y, Suzuki T, et al.	整形外科	Ultrasonography could be used to predict extended insertion of the EPB tendon noninvasively.	Surg Radiol Anat. 2018 Sep;40(9):995-999.	Original Article
24	Kawarai Y, Nakamura J, Suzuki T, et al.	整形外科	Anatomical Features of the Descending Genicular Artery to Facilitate Surgical Exposure for the Subvastus Approach-A Cadaveric Study.	J Arthroplasty. 2018 Aug;33(8):2647-2651. Aug	Original Article
25	Wako Y, Nakamura J, Matsuura Y, et al.	整形外科	Finite element analysis of the femoral diaphysis of fresh-frozen cadavers with computed tomography and mechanical testing.	J Orthop Surg Res. 2018 Jul 31;13(1):192. (オンライン)	Original Article
26	Nakamura J, Inoue T, Suguro T, et al.	整形外科	A comparative study of flat surface design and medial pivot design in posterior cruciate-retaining total knee arthroplasty: a matched pair cohort study of two years.	BMC Musculoskelet Disord. 2018 Jul 18;19(1):234. (オンライン)	Original Article
27	Ijime Y, Furuya T, Ota M, et al.	整形外科	The K-line in the cervical ossification of the posterior longitudinal ligament is different on plain radiographs and CT images.	J Spine Surg. 2018 Jun;4(2):403-407.	Original Article
28	Miura M, Hagiwara S, Nakamura J, et al.	整形外科	Interobserver and Intraobserver Reliability of Computed Tomography-Based Three-Dimensional Preoperative Planning for Primary Total Knee Arthroplasty.	J Arthroplasty. 2018 May;33(5):1572-1578.	Original Article
29	Nawata K, Nakamura J, Ikeda K, et al.	整形外科	Transitional changes in the incidence of osteonecrosis in systemic lupus erythematosus patients: focus on immunosuppressant agents and glucocorticoids.	Rheumatology (Oxford). 2018 May 1;57(5):844-849.	Original Article
30	Suzuki M, Millecamps M, Ohtori S, et al.	整形外科	Anti-nerve growth factor therapy attenuates cutaneous hypersensitivity and musculoskeletal discomfort in mice with osteoporosis.	Pain Rep. 2018 Apr 10;3(3):e652. (オンライン)	Original Article



31	Orita S, Suzuki M, Inage K, et al.	整形外科	Osteoporotic Pain is Associated with Increased Transient Receptor Vanilloid 4 Expression in the Dorsal Root Ganglia of Ovariectomized Osteoporotic Rats: A Pilot Basic Study.	Spine Surg Relat Res. 2018 Apr 7;2(3):230-235.	Original Article
32	Matsuoka A, Tate S, Nishikimi K, et al.	婦人科・周産期母性科	Efficacy of soft coagulation in retroperitoneal lymphadenectomy for ovarian cancer.	Gynecol Oncol. 2018 May;149(2):430-431.	Original Article
33	Usui H, Nakabayashi K, Kaku H, et al.	婦人科・周産期母性科	Elucidation of the developmental mechanism of ovarian mature cystic teratomas using B allele-frequency plots of single nucleotide polymorphism array data.	Genes Chromosomes Cancer. 2018 Aug;57(8):409-419.	Original Article
34	Usui H, Sato A, Okayama J, et al.	婦人科・周産期母性科	Removal of retained products of conception showing marked vascularity without uterine artery embolization: Two case reports.	J Obstet Gynaecol Res. 2018 Aug;44(8):1482-1486	Original Article
35	Nishikimi K, Tate S, Matsuoka A, et al.	婦人科・周産期母性科	Metastatic cardiophrenic lymph node resection following full-thickness resection of right diaphragm for advanced ovarian carcinoma.	Gynecol Oncol. 2018 Sep;150(3):581-583.	Original Article
36	Usui H, Qu J, Sato A, et al.	婦人科・周産期母性科	Gestational Trophoblastic Neoplasia From Genetically Confirmed Hydatidiform Moles: Prospective Observational Cohort Study.	Int J Gynecol Cancer. 2018 Nov;28(9):1772-1780.	Original Article
37	Kobayashi T, Usui H, Tanaka H, et al.	婦人科・周産期母性科	Variant Prolactin Receptor in Agalactia and Hyperprolactinemia.	N Engl J Med. 2018 Dec 6;379(23):2230-2236.	Original Article
38	Usui H, Sato A, Shozu M.	婦人科・周産期母性科	Response to Letter to 'Removal of retained products of conception showing marked vascularity without uterine artery embolization: Two case reports'.	J Obstet Gynaecol Res. 2019 Feb;45(2):487.	Letter
39	Ishikawa H, Xu L, Sone K, et al.	婦人科・周産期母性科	Hypoxia Induces Hypoxia-Inducible Factor 1 $\alpha$ and Potential HIF-Responsive Gene Expression in Uterine Leiomyoma.	Reprod Sci. 2019 Mar;26(3):428-435.	Original Article
40	Egawa M, Mitamura Y, Niki M, et al.	眼科	CORRELATIONS BETWEEN CHOROIDAL STRUCTURES AND VISUAL FUNCTIONS IN EYES WITH RETINITIS PIGMENTOSA	RETINA 2018 Aug 10. [epub]	original article
41	Yamagishi A, Oshitari T, Tawada A, et al.	眼科	The Case of IgG4-Related Ophthalmic Disease with Perivascular Lesions of Superior Ophthalmic Vein Associated with Optic Nerve Disturbance	Neuroophthalmology. 2017;42:251-255.eCollection 2018 Aug.	case report
42	Takeishi M, Oshitari T, Ota S, et al.	眼科	The Case of IgG4-related Ophthalmic Disease Accompanied by Compressive Optic Neuropathy	Neuroophthalmology. 2017;42:246-250. ecollection Aug 2018	case report
43	Tatsumi T, Oshitari T, Ando T, et al.	眼科	Comparison of the Efficacy of Sub-Tenon versus Intravitreal Triamcinolone Acetonide Injection during Cataract Surgery for Diabetic Macular Edema	Ophthalmologica. 2019;241(1):17-23.	original article
44	Bikbova G, Oshitari T, Baba T, et al.	眼科	Diabetic corneal neuropathy: clinical perspectives	Clin Ophthalmol. 2018	review
45	Baba T, Nizawa T, Oshitari T, et al.	眼科	Comparisons of Visual and Surgical Outcomes after Reuse or Replacement of Dislocated in-the-Bag Intraocular Lens.	J Ophthalmol. 2018;7342917	original article
46	Hayashi Y, Miura G, Uzawa A, et al.	眼科	Case of convulsive seizure developing during electroretinographic recordings: a case report	BMC Neurol. 2018;18:52	case report
47	Miura G, Baba T, Oshitari T, et al.	眼科	Flicker electroretinograms of eyes with cataract recorded with RETeval system before and after mydriasis	Clin Ophthalmol. 2018;12:427-432	original article
48	Mita Y, Kimura MY, Hayashizaki K, et al.	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Crucial role of CD69 in anti-tumor immunity through regulating the exhaustion of tumor-infiltrating T cells.	Int Immunol. 2018 Nov 14;30(12):559-567.	Original Article
49	Sakurai T, Yonekura S, Iinuma T, et al.	耳鼻咽喉・頭頸部外科	The Relationship of Pollen Dispersal with Allergy Symptoms and Immunotherapy: Allergen Immunotherapy Improves Symptoms in the Late Period of Japanese Cedar Pollen Dispersal.	Int Arch Allergy Immunol. 2018;177(3):245-254.	Original Article
50	Sakurai D, Uchida R, Ihara F, et al.	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Immunosuppressive property of submandibular lymph nodes in patients with head and neck tumors: differential distribution of regulatory T cells.	BMC Res Notes. 2018 Jul 16;11(1):479.	Original Article
51	Morimoto Y, Hirahara K, Kiuchi M, et al.	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Amphiregulin-Producing Pathogenic Memory T Helper 2 Cells Instruct Eosinophils to Secrete Osteopontin and Facilitate Airway Fibrosis	Immunity. 2018 Jul 17;49(1):134-150.e6.	Original Article
52	Ihara F, Sakurai D, Yonekura S, Iinuma T, et al.	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Identification of specifically reduced Th2 cell subsets in allergic rhinitis patients after sublingual immunotherapy.	Allergy. 2018 Sep;73(9):1823-1832.	Original Article
53	Yonekura S, Okamoto Y, Nakayama S.	耳鼻咽喉・頭頸部外科	[A VALIDATION STUDY OF THE IMPROVED PRODUCT FOR MEASURING JAPANESE CYPRESS POLLEN-SPECIFIC IgE (THERMO SCIENTIFIC ImmunoCAP ImmunoCAP JAPANESE CYPRESS POLLEN-SPECIFIC IgE)].	Alerugi. 2018;67(1):67-71.	Original Article
54	Koshizuka K, Hanzawa T, Kikkawa N, et al.	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Antitumor miR-150-5p and miR-150-3p inhibit cancer cell aggressiveness by targeting SPOCK1 in head and neck squamous cell carcinoma.	Auris Nasus Larynx. 2018 Aug;45(4):854-865	Original Article
55	Suzuki T, Seki Y, Okamoto Y, et al.	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Hypopharyngeal multichannel intraluminal impedance leads to the promising outcome of antireflux surgery in Japanese population with laryngopharyngeal reflux symptoms.	Surg Endosc. 2018 May;32(5):2409-2419.	Original Article
56	Yonekura S, Okamoto Y, Sakurai D, et al.	耳鼻咽喉・頭頸部外科	An analysis of factors related to the effect of sublingual immunotherapy on Japanese cedar pollen induced allergic rhinitis.	Allergol Int. 2018 Apr;67(2):201-208.	Original Article
57	Hanzawa T, Yamasaki K, Chazono H, et al.	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Endoscopic contralateral transmaxillary approach for pterygoid process osteotomy in total maxillectomy:	Auris Nasus Larynx. 2018 Jun;45(3):622-625.	Case report
58	Okamoto Y, Fujieda S, Okano M	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Efficacy of house dust mite sublingual tablet in the treatment of allergic rhinoconjunctivitis: A randomized trial in a pediatric population.	Pediatr Allergy Immunol. 2019 Feb;30(1):66-73.	Original Article
59	Motojima T, Fujii K, Ohashi H, Arakawa H.	小児科	Catathrenia in Pitt-Hopkins syndrome associated with 18q interstitial deletion.	Pediatr Int. 2018 May;60(5):479-481	Case report
60	Koga Y, Povalko N, Inoue E, Nakamura H, Ishii A, Suzuki Y, Yoneda M, Kanda F, Kubota M, Okada H, Fujii K.	小児科	Therapeutic regimen of L-arginine for MELAS: 9-year, prospective, multicenter, clinical research.	J Neurol. 2018 Dec;265(12):2861-2874.	Original Article

61	Ogata H, Nagasawa K, Takeuchi N, Hagiwara S, Sawada D, Uminura T, Konno Y, Yamaide F, Takatani R, Takatani T, Nakano T, Hishiki H, Ishiwada N, Shimojo N.	小児科	Psoitis and multiple venous thromboses caused by Panton ValentineLeukocidin-positive methicillin-sensitive Staphylococcus aureus in a 12-year-old girl: A case report.	J Infect Chemother. 2019 Aug;25(8):630-634.	Case report
62	Takei H, Ishiwada N, Hishiki H, Takeshita K, Naito S, Endo M, Shimojo N.	小児科	Two pediatric cases of Pneumocystis jirovecii pneumonia diagnosed by polymerase chain reaction of gastric lavage.	J Infect Chemother. 2019 Jun;25(6):477-479.	Case report
63	Gay MCL, Koleva PT, Slupsky CM, Toit ED, Eggesbo M, Johnson CC, Wegienka G, Shimojo N, Campbell DE, Prescott SL, Munblit D, Geddes DT, Kozyrskyj AL; InVIVO LactoActive Study Investigators.	小児科	Worldwide Variation in Human Milk Metabolome:Indicators of Breast Physiology and Maternal Lifestyle? Nutrients.	2018 Aug23;10(9). pii: E1151.	Original Article
64	Omata T, Fukui K, Kodama K, Watanabe Y, Aoyama H, Fujii K, Shimojo N.	小児科	Ocularmyasthenia gravis patients following the administration of tacrolimus and steroids.	J Neurol Sci. 2019 Jan 15;396:30-32.	Original Article
65	Takatani T, Shiohama T, Takatani R, Shimojo N.	小児科	A novel CUL7 mutation in a Japanese patient with 3M syndrome.	Hum Genome Var. 2018 Oct 23;5:30.	Original Article
66	Yamamoto T, Endo Y, Onodera A, Hirahara K, Asou HK, Nakajima T, Kanno T, Ouchi Y, Uematsu S, Nishimasa H, Nureki O, Tumes DJ, Shimojo N, Nakayama T.	小児科	DUSP10 constrains innate IL-33-mediated cytokine production in ST2(hi) memory-type pathogenic Th2 cells.	Nat Commun. 2018 Oct 12;9(1):4231.	Original Article
67	Kobayashi H, Fujii K, Kobayashi M, Saito N, Okunishi K, Ebata R, Shiohama T, Sawada D, Shimojo N.	小児科	Facial nerve palsy associated with atomoxetine-induced hypertension.	Brain Dev. 2019 Mar;41(3):310-312.	Case report
68	Dissanayake E, Inoue Y, Ochiai S, Eguchi A, Nakano T, Yamaide F, Hasegawa S, Kojima H, Suzuki H, Mori C, Kohno Y, Taniguchi M, Shimojo N.	小児科	Hsa-mir-144-3p expression is increased in umbilical cord serum of infants with atopic dermatitis.	J Allergy Clin Immunol. 2019 Jan;143(1):447-450.e11.	Original Article
69	Suzuki S, Campos-Alberto E, Morita Y, Yamaguchi M, Toshimitsu T, Kimura K, Ikegami S, Katsuki T, Kohno Y, Shimojo N.	小児科	Low Interleukin 10 Production at Birth Is a Risk Factor for Atopic Dermatitis in Neonates with Bifidobacterium Colonization.	Int Arch Allergy Immunol. 2018;177(4):342-349.	Original Article
70	Inoue Y, Mitsunaga K, Yamamoto T, Chiba K, Yamaide F, Nakano T, Morita Y, Yamaide A, Suzuki S, Arima T, Yamaguchi KI, Tomiita M, Shimojo N, Kohno Y.	小児科	Early use of alendronate as a protective factor against the development of glucocorticoid-induced bone loss in childhood-onset rheumatic diseases: a cross-sectional study.	Pediatr Rheumatol Online J. 2018 Jun 18;16(1):36.	Original Article
71	Morita Y, Campos-Alberto E, Yamaide F, Nakano T, Ohnisi H, Kawamoto M, Kawamoto N, Matsui E, Kondo N, Kohno Y, Shimojo N.	小児科	TGF-β Concentration in Breast Milk is Associated With the Development of Eczema in Infants.	Front Pediatr. 2018 Jun 1;6:162.	Original Article
72	Sawada D, Fujii K, Misawa S, Shiohama T, Fukuhara T, Fujita M, Kuwabara S, Shimojo N.	小児科	Bilateral spinal anterior horn lesions in acute motor axonal neuropathy.	Brain Dev. 2018 Oct;40(9):830-832.	Original Article
73	Sogawa K, Takahashi Y, Shibata Y, Satoh M, Kodera Y, Nomura F, Tanaka T, Sato H, Yamaide F, Nakano T, Iwahashi K, Sugita-Konishi Y, Shimada A, Shimojo N.	小児科	Search for a Novel Allergen in Hen's Egg Allergy Using an IgE Immunoblotting Assay.	Int Arch Allergy Immunol. 2018;176(3-4):189-197.	Original Article
74	Sato S, Sugizaki C, Yanagida N, Ito K, Ohshima Y, Shimojo N, Fujisawa T, Ebisawa M.	小児科	Nationwide questionnaire-based survey of oral immunotherapy in Japan.	Allergol Int. 2018 Jul;67(3):399-404.	Original Article
75	Kawashima T, Ikari N, Kouchi T, Kowatari Y, Kubota Y, Shimojo N, Tsuji NM.	小児科	The molecular mechanism for activating IgA production by Pedicoccus acidilactici K15 and the clinical impact in a randomized trial.	Sci Rep. 2018 Mar 22;8(1):5065.	Original Article
76	Takei H, Ishiwada N, Takeuchi N, Ohkusu M, Hoshino T, Murata S, Sato H, Abe K, Shizuno K, Hishiki H, Shimojo N.	小児科	Isolation Rate of Neisseria meningitidis in Japanese Children with Respiratory Tract Infections.	Jpn J Infect Dis. 2018 May 24;71(3):244-246.	Original Article
77	Kawashima T, Ikari N, Watanabe Y, Kubota Y, Yoshio S, Kanto T, Motohashi S, Shimojo N, Tsuji NM.	小児科	Double-Stranded RNA Derived from Lactic Acid Bacteria Augments Th1 immunity via Interferon-β from Human Dendritic Cells.	Front Immunol. 2018 Jan 23;9:27.	Original Article
78	Kono M, Akiyama M, Inoue Y, Nomura T, Hata A, Okamoto Y, Takeichi T, Muro Y, McLean WHI, Shimizu H, Sugiura K, Suzuki Y, Shimojo N.	小児科	Filaggrin gene mutations may influence the persistence of food allergies in Japanese primary school children.	Br J Dermatol. 2018 Jul;179(1):190-191.	Original Article
79	Fukuhara T, Fujii K, Ogawa T, Shiohama T, Shimojo N.	小児科	Acute myelitis associated with human herpesvirus 7 infection.	Pediatr Int. 2018 Feb;60(2):198-199.	Case report
80	Shiohama T, Ohashi H, Shimizu K, Fujii K, Obe D, Takatani T, Kato M, Shimojo N.	小児科	l-Thyroxine-responsive drop attacks in childhood benign hereditary chorea: A case report.	Brain Dev. 2018 Apr;40(4):353-356.	Case report
81	Aoki T, Kyushiki M, Kishimoto H, Yanagi M, Mori M, Arakawa Y, Hino M, Shimojo N, Koh K.	小児科	Programmed Death Ligand 1 Expression in Classical Hodgkin Lymphoma in Pediatric Patients.	J Pediatr Hematol Oncol. 2018 May;40(4):334-335.	Original Article
82	Itoh-Nagato N, Inoue Y, Nagao M, Fujisawa T, Shimojo N, Iwata T; J-OIT group.	小児科	Desensitization to a whole egg by rush oral immunotherapy improves the quality of life of guardians: A multicenter, randomized, parallel-group, delayed-start design study.	Allergol Int. 2018 Apr;67(2):209-216.	Original Article
83	Shiohama T, Fujii K, Shimizu K, Ohashi H, Takatani T, Okamoto N, Nishimura G, Kato M, Shimojo N.	小児科	Progressive subglottic stenosis in a child with Pallister-Killian syndrome.	Congenit Anom (Kyoto). 2018 May;58(3):102-104.	Original Article
84	Nagao M, Ikeda M, Fukuda N, Habukawa C, Kitamura T, Katsunuma T, Fujisawa T; LePAT (Leukotriene and Pediatric Asthma Translational Research Network) investigators.	小児科	Early control treatment with montelukast in preschool children with asthma: A randomized controlled trial.	Allergol Int. 2018 Jan;67(1):72-78.	Original Article
85	Shiohama T, Levman J, Baumer N, Takahashi E.	小児科	Structural Magnetic Resonance Imaging-Based Brain Morphology Study in Infants and Toddlers With Down Syndrome: The Effect of Comorbidities.	Pediatr Neurol. 2019 Mar 22. pii: S0887-8994(18)31321-3.	Case report
86	Shiina A, Ojio Y, Sato A, et al.	精神神経科 こどものこころ診療部	The recognition and expectations of ex-inpatients of mental health services: A web-based questionnaire survey in Japan.	PLoS One. 2018 Oct 15;13(10):e0197639. doi: 10.1371/journal.pone.0197639. eCollection 2018.	Original Article
87	Kanahara N, Yoshimura K, Nakamura M, et al.	精神神経科 こどものこころ診療部	Metabolism of risperidone by CYP2D6 and the presence of drug-induced dopamine supersensitivity psychosis in patients with schizophrenia.	Int Clin Psychopharmacol. 2019 May;34(3):124-130. doi: 10.1097/YIC.0000000000000257.	Original Article
88	Kanahara N, Hirabayashi M, Mamada T, et al.	精神神経科 こどものこころ診療部	Combination therapy of electroconvulsive therapy and aripiprazole for dopamine supersensitivity psychosis.	Schizophr Res. 2018 Dec;202:398-400. doi: 10.1016/j.schres.2018.06.038. Epub 2018 Jun 21.	Original Article
89	Kanahara N, Yamanaka H, Suzuki T, et al.	精神神経科 こどものこころ診療部	First-episode psychosis in treatment-resistant schizophrenia: a cross-sectional study of a long-term follow-up cohort.	BMC Psychiatry. 2018 Sep 3;18(1):274. doi: 10.1186/s12888-018-1853-1.	Original Article
90	Tadashi Hasegawa, Tasuku Hashimoto, Nobuhisa Kanahara, et al.	精神神経科 こどものこころ診療部	Identifying improvable employment-related factors in schizophrenia patients.	Psychiatry Research, 2018, 266, 199-205.	Original Article

小計30件

91	Oishi K, Kanahara N, Takase M, et al.	精神神経科 こどものこころ診療部	Vulnerable combinations of functional dopaminergic polymorphisms to leter-onset treatment resistant schizophrenia.	PLoS One. 2018 Nov 8;13(11):e0207133. doi: 10.1371/journal.pone.0207133. eCollection 2018.	Original Article
92	Aiko Sato, Tasuku Hashimoto, Atsushi Kimura, et al.	精神神経科 こどものこころ診療部	Psychological Distress Symptoms Associated With Life Events in Patients With Bipolar Disorder: A Cross-Sectional Study, 2018.	Frontiers. Psychiatry 9:200.	Original Article
93	Kensuke Yoshimura, Tasuku Hashimoto, Yasunori Sato, et al.	精神神経科 こどものこころ診療部	Survey of Anticonvulsant Drugs and Lithium Prescription in Women of Childbearing age in Japan Using a Public National Insurance Claims Database.	Clinical Neuropsychopharmacology and Therapeutics, 2018,9, 20-28.	Original Article
94	Setzu R, Asano K, Numata N, et al.	精神神経科 こどものこころ診療部	A single-arm pilot study of guided self-help treatment based cognitive behavioral therapy for bulimia nervosa in Japanese clinical settings.	BMC Res Notes. 2018 Apr 25;11(1):257. doi: 10.1186/s13104-018-3373-y.	Original Article
95	Kuno M, Hirano Y, Nakagawa A, et al.	精神神経科 こどものこころ診療部	White Matter Features Associated With Autistic Traits in Obsessive-Compulsive Disorder.	Front Psychiatry. 2018 May 29;9:216. doi: 10.3389/fpsy.2018.00216. eCollection 2018.	Original Article
96	Sawai Y, Kasamatsu A, Nakashima D, Fushimi K, Kasama H, Iyoda M, Kouzu Y, Shiiba M, Tanzawa H, Uzawa K.	歯科・顎・口腔外科	Critical role of deoxynucleotidyl transferase terminal interacting protein 1 in oral cancer.	Lab Invest. 2018 Aug;98(8):980-988. doi: 10.1038/s41374-018-0070-3. Epub 2018 May 31.	Original Article
97	Toeda Y, Kasamatsu A, Koike K, Endo-Sakamoto Y, Fushimi K, Kasama H, Yamano Y, Shiiba M, Tanzawa H, Uzawa K.	歯科・顎・口腔外科	FBLIM1 enhances oral cancer malignancy via modulation of the epidermal growth factor receptor pathway.	Mol Carcinog. 2018 Aug 21. doi: 10.1002/mc.22889.	Original Article
98	Fukushima R, Kasamatsu A, Nakashima D, Higo M, Fushimi K, Kasama H, Endo-Sakamoto Y, Shiiba M, Tanzawa H, Uzawa K.	歯科・顎・口腔外科	Overexpression of Translocation Associated Membrane Protein 2 Leading to Cancer-Associated Matrix Metalloproteinase Activation as a Putative Metastatic Factor for Human Oral Cancer.	J Cancer. 2018 Sep 7;9(18):3326-3339. doi: 10.7150/jca.25066. eCollection 2018.	Original Article
99	Hayashi F, Kasamatsu A, Endo-Sakamoto Y, Eizuka K, Hiroshima K, Kita A, Saito T, Koike K, Tanzawa H, Uzawa K.	歯科・顎・口腔外科	Increased expression of tripartite motif (TRIM) like 2 promotes tumoral growth in human oral cancer.	Biochem Biophys Res Commun. 2019 Jan 22;508(4):1133-1138. doi: 10.1016/j.bbrc.2018.12.060. Epub 2018 Dec 13.	Original Article
100	Uzawa K, Kasamatsu A, Saito T, Kita A, Sawai Y, Toeda Y, Koike K, Nakashima D, Endo Y, Shiiba M, Takiguchi Y, Tanzawa H.	歯科・顎・口腔外科	Growth suppression of human oral cancer cells by candidate agents for cetuximab-side effects.	Exp Cell Res. 2019 Mar 15;376(2):210-220. doi: 10.1016/j.yexcr.2019.01.016. Epub 2019 Jan 25.	Original Article
101	Saito T, Uzawa K, Terajima M, Shiiba M, Amelio AL, Tanzawa H, Yamauchi M.	歯科・顎・口腔外科	Aberrant Collagen Cross-linking in Human Oral Squamous Cell Carcinoma.	J Dent Res. 2019 Feb 20;22034519828710. doi: 10.1177/0022034519828710.	Original Article
102	Kasamatsu A, Uzawa K, Hayashi F, Kita A, Okubo Y, Saito T, Kimura Y, Miyamoto I, Oka N, Shiiba M, Ito C, Toshimori K, Miki T, Yamauchi M, Tanzawa H.	歯科・顎・口腔外科	Deficiency of lysyl hydroxylase 2 in mice causes systemic endoplasmic reticulum stress leading to early embryonic lethality.	Biochem Biophys Res Commun. 2019 Mar 21. pii: S0006-291X(19)30480-2. doi: 10.1016/j.bbrc.2019.03.091.	Original Article
103	Hayashi F, Kimura Y, Iyoda M, Koike K, Nakashima D, Kasamatsu A, Sakamoto Y, Shiiba M, Tanzawa H, Uzawa K.	歯科・顎・口腔外科	Down-regulation of ARNT2 leads to tumoral growth in oral squamous cell carcinoma	Oral Science in Japan 2018	Original Article
104	Oka N, Yamatoji M, Iyoda M, Koike K, Nakashima D, Kasamatsu A, Sakamoto Y, Shiiba M, Tanzawa H, Uzawa K.	歯科・顎・口腔外科	Evaluation of shoulder mobility and sensory evaluation of the neck after neck dissection in patients with oral cancer	Oral Science in Japan 2018	Original Article
105	Takahara T, Iyoda M, Koike K, Nakashima D, Kasamatsu A, Sakamoto Y, Shiiba M, Tanzawa H, Uzawa K.	歯科・顎・口腔外科	Signal-induced proliferation-associated protein 1 (SIP1): a novel biomarker of regional lymph node metastasis for human oral squamous cell carcinoma	Oral Science in Japan 2018	Original Article
106	Fukushima R, Iyoda M, Koike K, Nakashima D, Kasamatsu A, Sakamoto Y, Shiiba M, Tanzawa H, Uzawa K.	歯科・顎・口腔外科	Overexpression of TRAM2 is involved in tumor metastasis in human oral cancer	Oral Science in Japan 2018	Original Article
107	Muramatsu T, Isono S, Ishikawa T, 他	麻酔・疼痛・緩和医療科	Differences of Recovery from Rocuronium-induced Deep Paralysis in Response to Small Doses of Sugammadex between Elderly and Nonelderly Patients.	Anesthesiology. 2018 Nov;129(5):901-911.	Original Article
108	Kohno A, Kitamura Y, Kato S, 他	麻酔・疼痛・緩和医療科	Displacement of the hyoid bone by muscle paralysis and lung volume increase: the effects of obesity and obstructive sleep apnea.	Sleep. 2019 Jan 1;42(1).	Original Article
109	Iwadate Y, Matsutani T, Hara A, et al	脳神経外科	Eighty percent survival rate at 15 years for 1p/19q co-deleted oligodendroglioma treated with upfront chemotherapy irrespective of tumor grade.	J Neurooncol. 2019 Jan;141(1):205-211.	Original Article
110	Higuchi Y, Yamamoto M, Serizawa T, et al	脳神経外科	Modern management for brain metastasis patients using stereotactic radiosurgery: literature review and the authors' gamma knife treatment experiences.	Cancer Manag Res. 2018 Jul 5;10:1889-1899.	Review
111	Hirono S, Ozaki K, Ito D, et al	脳神経外科	Hammock Middle Cerebral Artery and Delayed Infarction in Lenticulostriate Artery After Staged Resection of Giant Insular Glioma.	World Neurosurg. 2018 Sep;117:80-83.	Case report
112	Izumi M, Higuchi Y, Yakufujiang M, et al	脳神経外科	The Tethered Effect of Vestibular Schwannoma Tumor Shrinkage Following Stereotactic Radiosurgery in Secondary Trigeminal Neuralgia.	World Neurosurg. 2019 Mar;123:136-141.	Case report
113	Yamamoto T, Yoshida S, Nakajima T, et al.	呼吸器外科	Bronchoscopic assessment of bronchial anastomosis by visualizing local circulation status-index of hemoglobin (IHb) imaging.	J Thorac Dis. 2018 Apr;10(4):2196-2205.	Original Article
114	Inage T, Nakajima T, Itoge S, Ishige T, et al.	呼吸器外科	Molecular Nodal Staging Using mRNA Expression in Lung Cancer Patients by Endobronchial Ultrasound-Guided Transbronchial Needle Aspiration.	Respiration. 2018;96(3):267-274.	Original Article
115	Inage T, Nakajima T, Sata Y, et al.	呼吸器外科	Intracardiac Tumors With Extracardiac Extension Diagnosed by Endoscopic Ultrasound With Bronchoscope-Guided Fine-Needle Aspiration.	Ann Thorac Surg. 2019 Jan;107(1):e5-e7.	Original Article
116	Kaiho T, Nakajima T, Nishida Y, et al.	呼吸器外科	Successful treatment of a recurrent chest wall desmoid tumor with cyclooxygenase-2 inhibitors.	J Thorac Cardiovasc Surg. 2018 Nov 2. pii: S0022-5223(18)32881-2.	Original Article
117	Shiina Y, Nakajima T, Suzuki H, et al.	呼吸器外科	Localization of the Metastatic Site Within a Lymph Node Using Endobronchial Elastography.	Semin Thorac Cardiovasc Surg. 2019 Summer;31(2):312-314.	Original Article
118	Sata Y, Nakajima T, Yamamoto T, et al.	呼吸器外科	Keys to successful induction chemoradiotherapy followed by surgery for stage III/N2 non-small cell lung cancer.	Surg Today. 2019 Jul;49(7):547-555.	Review
119	Ishiwata T, Terada J, Nakajima T, et al.	呼吸器外科	Transbronchial evaluation of peripheral pulmonary lesions using ultrasonic spectrum analysis in lung cancer patients.	Respirology. 2019 Mar 25. doi: 10.1111/resp.13584. [Epub ahead of print]	Original Article
120	Tanabe N, Kawakami T, Satoh T, et al.	呼吸器内科	Balloon pulmonary angioplasty for chronic thromboembolic pulmonary hypertension: A systematic review.	Respir Investig. 2018 Jul;56:332-341.	Original Article

121	Kawasaki T, Chen W, Htwe YM, et al.	呼吸器内科	DPP4 inhibition by sitagliptin attenuates LPS-induced lung injury in mice.	Am J Physiol Lung Cell Mol Physiol. 2018 Nov ;315:L834-L845.	Original Article
122	Abe M, Tsushima K, Sakayori M, et al.	呼吸器内科	Utility of nintedanib for severe idiopathic pulmonary fibrosis: a single-center retrospective study.	Drug Des Devel Ther. 2018 Oct ;12:3369-3375.	Original Article
123	Matsumura T, Tsushima K, Abe M, et al.	呼吸器内科	The effects of pirfenidone in patients with an acute exacerbation of interstitial pneumonia.	Clin Respir J. 2018 Apr;12:1550-1558.	Original Article
124	Matsumura T, Terada J, Kinoshita T, et al.	呼吸器内科	Circulating autoantibodies against neuroblastoma suppressor of tumorigenicity 1 (NBL1): a potential biomarker for coronary artery disease in patients with obstructive sleep apnea.	PLoS One. 2018 Mar ;13:e0195015.	Original Article
125	Naito A, Sakao S, Lang IM, et al.	呼吸器内科	Endothelial cells from pulmonary endarterectomy specimens possess a high angiogenic potential and express high levels of hepatocyte growth factor.	BMC Pulm Med. 2018 Dec ;18:197.	Original Article
126	Ishiwata T, Iwasawa S, Ebata T, et al.	呼吸器内科	Inhibition of Gli leads to antitumor growth and enhancement of cisplatin-induced cytotoxicity in large cell neuroendocrine carcinoma of the lung.	Oncol Rep. 2018 Mar;39:1148-1154.	Original Article
127	Ishiwata T, Tsushima K, Terada J, et al.	呼吸器内科	Efficacy of End-tidal capnography monitoring during flexible bronchoscopy in nonintubated patients under sedation: A randomized controlled study.	Respiration. 2018 Jun;96:355-362.	Original Article
128	Ishiwata T, Abe M, Kasai H, et al.	呼吸器内科	Safety of diagnostic flexible bronchoscopy in patients with echocardiographic evidence of pulmonary hypertension.	Respir Investig. 2019 Jan;57:73-78.	Original Article
129	Miwa H, Tanabe N, Jujo T, et al.	呼吸器内科	Long-term outcome of chronic thromboembolic pulmonary hypertension at a single Japanese pulmonary endarterectomy center.	Circ J. 2018 Apr ;82:1428-1436.	Original Article
130	Fujimoto K, Ishiwata T, Kasai H, et al.	呼吸器内科	Identification of factors during bronchoscopy that affect patient reluctance to undergo repeat examination: Questionnaire analysis after initial bronchoscopy.	PLoS One. 2018 Dec ;13:e0208495.	Original Article
131	Inagaki T, Terada J, Yahaba M, et al.	呼吸器内科	Heart rate and oxygen saturation change patterns during 6-min walk test in subjects with chronic thromboembolic pulmonary hypertension.	Respir Care. 2018 May;63:573-583.	Original Article
132	Haga T, Ito K, Ono M, et al.	呼吸器内科	Risk factors for death due to psychiatric hospital-acquired pneumonia.	Intern Med. 2018 Sep ;57:2473-2478.	Original Article
133	Haga T, Ito K, Sekashita K, et al.	呼吸器内科	Risk factors for pneumonia in patients with schizophrenia.	Neuropsychopharmacol Rep. 2018 Dec;38:204-209.	Original Article
134	Ogasawara T, Kohashi Y, Ikari J, et al.	呼吸器内科	Allergic TH2 response governed by B-cell lymphoma 6 function in naturally occurring memory phenotype CD4+T cells.	Front Immunol. 2018 Apr ;9:750.	Original Article
135	Tamura Y, Kumamaru H, Satoh T, et al.	呼吸器内科	Effectiveness and outcome of pulmonary arterial hypertension-specific therapy in Japanese patients with pulmonary arterial hypertension.	Circ J. 2018 Dec ;82:275-282.	Original Article
136	Dougherty BJ, Terada J, Springborn SR, et al.	呼吸器内科	Daily acute intermittent hypoxia improves breathing function with acute and chronic spinal injury via distinct mechanisms.	Respir Physiol Neurobiol. 2018 Oct; 256:50-57.	Original Article
137	Chai K, Ning X, Nguyen TTT, et al.	呼吸器内科	Heat shock protein 90 inhibitors augment endogenous wild-type p53 expression but down-regulate the adenovirally-induced expression by inhibiting a proteasome activity.	Oncotarget. 2018 May ;9:26130-26143.	Original Article
138	Naito A, Hiwasa T, Tanabe N, et al.	呼吸器内科	Elevated levels of autoantibodies against EXD2 and PHAX in the sera of patients with chronic thromboembolic pulmonary hypertension.	PLoS One. 2019 Feb ;14:e0211377.	Original Article
139	Ishiwata T, Abe M, Kasai H, et al.	呼吸器内科	Safety of diagnostic flexible bronchoscopy in patients with echocardiographic evidence of pulmonary hypertension.	Respir Investig. 2019 Jan;57:73-78.	Original Article
140	Matsumura T, Terada J, Yoshimura C, et al.	呼吸器内科	Single-use suvorexant for treating insomnia during overnight polysomnography in patients with suspected obstructive sleep apnea: a single-center experience.	Drug Des Devel Ther. 2019 Feb;13:809-816.	Original Article
141	Tanaka N, Jujo T, Sugiura T, et al.	呼吸器内科	Partial anomalous pulmonary venous return with dual drainage to the superior vena cava and left atrium with pulmonary hypertension.	Respir Med Case Rep. 2018 Aug;25:112-115.	Case report
142	Shimada A, Terada J, Tsushima K, et al.	呼吸器内科	Veno-venous extracorporeal membrane oxygenation bridged living-donor lung transplantation for rapid progressive respiratory failure with pleuroparenchymal fibroelastosis after allogeneic hematopoietic stem cell transplantation.	Respir Investig. 2018 May;56:258-262.	Case report
143	Katsumata Y, Ikari J, Tanaka N, et al.	呼吸器内科	Tocilizumab-effective multicentric Castleman's disease with infiltration of eosinophil and IgG4-positive plasma cells: A case report.	Respir Med Case Rep. 2018 Jun;25:25-29.	Case report
144	Shimomura I, Miki Y, Suzuki E, et al.	呼吸器内科	Mucosa-associated lymphoid tissue lymphoma with metachronous involvement of the palpebral conjunctive and bronchus : A case report.	Respir Med Case Rep. 2018 Dec ;26:101-104.	Case report
145	Fujimoto K, Kasai H, Kunii R, et al.	呼吸器内科	Obstructive sleep apnea in a severely obese child with combined central sleep apnea and sleep-related hypoventilation disorder caused by a medullary tumor.	J Clin Sleep Med. 2018 Jun;14:1071-1074.	Case report
146	Uehara Y, Kasai H, Nakajima T, et al.	呼吸器内科	Aspergillus sternomyelitis developed from chronic pulmonary aspergillosis as a late complication to lobectomy for lung cancer.	Intern Med. 2018 Oct; 57:2991-2994.	Case report
147	Wada H, Nakajima T, Suzuki H, et al.	呼吸器内科	Pulmonary capillary hemangiomas diagnosed by pathology of explanted lungs: a unique etiology serves as a key of clinical diagnosis.	Gen Thorac Cardiovasc Surg. 2019 Mar; 67:332-335.	Case report
148	Shionoya Y, Kasai H, Terada J, et al.	呼吸器内科	Cytomegalovirus pneumonia with progressive lung volume loss.	Am J Case Rep. 2018 Nov ;19:1393-1397.	Case report
149	Matsuda S, Suzuki S, Morimoto K, et al.	呼吸器内科	Mycobacterium triplex pulmonary disease with acquired macrolide resistance in immunocompetent patients.	Clin Microbiol Infect. 2018 Jun;24:671-672.	Case report
150	Saito T, Terui K, Mitsunaga T, et al.	小児外科	Significance and indications for reoperative portoenterostomy in biliary atresia in light of long-term outcome.	J Hepatobiliary Pancreat Sci. 2018;25:275-80.	Original Article

151	Nakata M, Mitsunaga T, Terui E,	小児外科	Recurrence of anal canal duplication with abscess formation.	J Pediatr Surg Case Rep. 2018; 33:68-71.	Case report
152	Kawaguchi Y, Saito T, Mitsunaga T	小児外科	Prediction of respiratory collapse among pediatric patients with mediastinal tumors during induction of general anesthesia.	J Pediatr Surg. 2018;53:1365-1368.	Original Article
153	Terui K.	小児外科	Oxygenation index has better predictive ability than oxygenation ventilation index in CDH patients.	J Perinatol. 2018;38:610.	Case report
154	Mori M, Kuwabara S, Paul F.	脳神経内科	Worldwide prevalence of neuromyelitis optica spectrum disorders.	J Neurol Neurosurg Psychiatry. 2018;89(6):555-556.	Review
155	Uncini A, Kuwabara S.	脳神経内科	The electrodiagnosis of Guillain-Barré syndrome subtypes: Where do we stand?	Clin Neurophysiol. 2018;129(12):2586-2593.	Review
156	Uzawa A, Mori M, Kuwabara S.	脳神経内科	MOG antibody disorders and AQP4 antibody NMO spectrum disorders share a common immunopathogenesis.	J Neurol Neurosurg Psychiatry.2018;89(9):900.	Review
157	Aoyama S, Mori M, Uzawa A, et al.	脳神経内科	Serum anti-JCV antibody indexes in Japanese patients with multiple sclerosis: elevations along with fingolimod treatment duration.	J Neurol. 2018;265(5):1145-1150.	Others
158	Aoyama S, Mori M, Uzawa A, et al.	脳神経内科	Serum anti-John Cunningham virus antibody seroprevalence and index among Japanese patients with neuromyelitis optica spectrum disorders.	Mult Scler J. 2018;1352458518808473.	Letter
159	Borisow N, Mori M, Kuwabara S, et al.	脳神経内科	Diagnosis and Treatment of NMO Spectrum Disorder and MOG-Encephalomyelitis.	Front Neurol. 2018;9:888.	Original Article
160	Hiraga A, Kuwabara S	脳神経内科	Meningitis-retention syndrome: Clinical features, frequency and prognosis.	J Neurol Sci. 2018;390:261-264.	Original Article
161	Kawaguchi N, Nakatani K, Uzawa A, et al.	脳神経内科	Polymorphisms of CYP3A5 Affect Serum Levels and Maintenance Doses of Tacrolimus in Myasthenia Gravis Patients.	Journal of Pharmacovigilance.2018;6(2):1000258	Original Article
162	Koh K, Ishiura H, Beppu M, et al.	脳神経内科	Novel mutations in the ALDH18A1 gene in complicated hereditary spastic paraplegia with cerebellar ataxia and cognitive impairment.	J Hum Genet.2018;63(9):1009-1013.	Original Article
163	Kuwabara S	脳神経内科	B-7. Electrodiagnostic criteria for ALD: Current state and perspectives.	Clinical Neurophysiology.2018;129(5):e19	Others
164	Kuwabara S, Misawa S, Mori M, et al.	脳神経内科	Intravenous immunoglobulin for maintenance treatment of multifocal motor neuropathy: A multi-center, open-label, 52-week phase 3 trial.	J Peripher Nerv Syst. 2018;23(2):115-119.	Original Article
165	Matsuda H, Murata M, Mukai Y, et al.	脳神経内科	Japanese multicenter database of healthy controls for [(123)I]FP-CIT SPECT.	Eur J Nucl Med Mol Imaging. 2018;45(8):1405-1416.	Original Article
166	Misawa S, Kuwabara S, Sato Y, et al.	脳神経内科	Safety and efficacy of eculizumab in Guillain-Barre syndrome: a multicentre, double-blind, randomised phase 2 trial.	Lancet Neurol. 2018;17(6):519-529.	Original Article
167	Nakamura K, Yamanaka Y, Higuchi Y, et al.	脳神経内科	Improved self-perceived performance for continence problems in patients with Parkinson's disease after deep brain stimulation	Neurology and Clinical Neuroscience. 2018:1-6.	Original Article
168	Shibuya K, Misawa S, Sekiguchi Y, et al.	脳神経内科	Prodromal muscle cramps predict rapid motor functional decline in amyotrophic lateral sclerosis.	J Neurol Neurosurg Psychiatry.2019;90(2):242-243.	Letter
169	Sugimoto K, Hiwasa T, Shibuya K, et al.	脳神経内科	Novel autoantibodies against the proteasome subunit PSMA7 in amyotrophic lateral sclerosis.	J Neuroimmunol. 2018;325:54-60.	Original Article
170	Sugiyama A, Beppu M, Kuwabara S.	脳神経内科	Teaching NeuroImages: Cerebral cortex swelling in Creutzfeldt-Jakob disease with V180I mutation.	Neurology. 2018;91(2):e185-e186.	Others
171	Tanaka TD, Misawa S, Yoshimura M, et al.	脳神経内科	Reversal of pulmonary arterial hypertension in POEMS syndrome with thalidomide: a case report.	Eur Heart J Case Rep. 2018;2(2):tyy051.	Case Report
172	Uzawa A, Furuya T, Ohtori S, et al.	脳神経内科	Spinal myoclonus selectively affecting the platysma after cervical laminectomy.	Neurology.2018;91(1):45-46.	Others
173	Uzawa A, Mori M, Masuda H, et al.	脳神経内科	Recombinant thrombomodulin ameliorates experimental autoimmune encephalomyelitis by suppressing high mobility group box 1 and inflammatory cytokines	Clin Exp Immunol. 2018;193(1):47-54.	Original Article
174	Watanabe K, Hirano S, Kojima K, et al.	脳神経内科	Altered cerebral blood flow in the anterior cingulate cortex is associated with neuropathic pain.	J Neurol Neurosurg Psychiatry. 2018;89(10):1082-1087.	Original Article
175	Yamamoto T, Uchiyama T, Asahina M, et al.	脳神経内科	Urinary symptoms are correlated with quality of life after deep brain stimulation in Parkinson's disease.	Brain Behav. 2018 ;8(12):e01164.	Original Article
176	Kuwabara S, Misawa S, Mori M.	脳神経内科	Atypical chronic inflammatory demyelinating polyneuropathies.	J Neurol Neurosurg Psychiatry.2019;90(2):121.	Review
177	Kanai T, Uzawa A, Kawaguchi N, et al.	脳神経内科	Predictive score for oral corticosteroid-induced initial worsening of seropositive generalized myasthenia gravis.	J Neurol Sci. 2019;396:8-11.	Original Article
178	Shibuya K, Misawa S, Sekiguchi Y, et al.	脳神経内科	Prodromal muscle cramps predict rapid motor functional decline in amyotrophic lateral sclerosis.	J Neurol Neurosurg Psychiatry. 2019;90(2):242-243.	Others
179	Suichi T, Misawa S, Sato Y, et al.	脳神経内科	Proposal of new clinical diagnostic criteria for POEMS syndrome.	J Neurol Neurosurg Psychiatry. 2019;90(2):133-137.	Original Article
180	Yosuke Matsumura	救急科・集中治療部	Non-traumatic hemorrhage is controlled with REBOA in acute phase then mortality increases gradually by non-hemorrhagic causes: DIRECT-IABO registry in Japan	European Journal of Trauma and Emergency Surgery 2018 Aug; 44: 503-9	Original Article

小計30件

181	Nozomi Takahashi	救急科・集中治療部	Efficient CO2 removal using extracorporeal lung and renal assist device.	Journal of Artificial Organs 2018 Dec; 21: 427-34	Original Article
182	Takashi Shimizu	救急集中治療医学	DEVELOPMENT OF NONINVASIVE IN VIVO APPROACH TO ASSESS VASCULAR PERMEABILITY IN INFLAMMATION USING FLUORESCENCE IMAGING	Shock 2018 Dec; 50: 729-34	Original Article
183	Rui Kawaguchi	救急科・集中治療部	Optimal pressing strength and time for capillary refilling time	Critical Care 2019 Jan; 23: 4	Others
184	Nozomi Takahashi	救急科・集中治療部	Delayed aortic regurgitation due to traumatic pseudoaneurysm of the sinus of Valsalva	Acute Medicine & Surgery 2019 Jan; 6: 185-7	Case report
185	Igari.H,Yahaba.M,Takayanagi.S,Taniguchi.T et al.	感染症内科	Epidemiology and treatment outcome of pneumonia: Analysis based on Japan national database	J Infect Chemother. 2019 Jul 25. pii: S1341-321X(19)30202-8. doi: 10.1016/j.jiac.2019.07.001. [Epub ahead of print]	Original Article
186	Taniguchi.T, et al.	感染症内科	Allergic TH2 Response Governed by B-Cell Lymphoma 6 Function in Naturally Occurring Memory Phenotype CD4+ T Cells.	Front. Immunol., 10 April 2018;29696026	Original Article
187	Igari H, Takayanagi S, et al.	感染症内科	Microorganisms isolated at admission and treatment outcome in sputum smear-positive pulmonary tuberculosis.	Journal of Infection and Chemotherapy Cleve Clin J Med. Volume 25, Issue 1, January 2019,Pages 45-49	Original Article
188	Kishida D, Yazaki M, Nakamura A, Nomura F, Kondo T, Uehara T, Ikusaka M, Ohya A, Watanabe N, Endo R, Kawai S, Shimojima Y, Sekijima Y	総合診療科	One novel and two uncommon MEFV mutations in Japanese patients with familial Mediterranean fever: a clinicogenetic study	Rheumatol Int•2018/1	Case report
189	Fumio S, Ohira Y, Hirota Y, Ikegami A, Kondo T, Shikino K, Suzuki S,Noda K, Uehara T, Ikusaka M	総合診療科	Anxiety and depression in general practice outpatients: the long-term change process	Int J Gen Med•2018/2	Original Article
190	Kondo T, Murayama A	総合診療科	Two Pelvic Masses	N Engl J Med•2018/2	Case report
191	Kondo T, Kajiwara H	総合診療科	Penoscrotal rash due to familial Mediterranean fever	Rheumatology•2018/4	Case report
192	Kondo T, Ohira Y, Uehara T, Noda K, Tsukamoto T, Ikusaka M	総合診療科	Prolonged Dry Cough without Pulmonary Changes on Radiological Imaging	Intern Med•2018/5	Case report
193	Kondo T	総合診療科	Rumpel-Leede phenomenon associated with blood flow restriction training	QJM•2018/5	Case report
194	Shikino K, Suzuki S, Uehara T, Ikusaka M	総合診療科	Primary central nervous system lymphoma mimicking Bell's palsy	Cleve Clin J Med•2018/6	Case report
195	Suzuki S, Hirose Y, Takeda E, Ikusaka M	総合診療科	Polymyalgia rheumatica with normal inflammatory markers	Am J Med •2018/7	Case report
196	Shikino K, Ikusaka M	総合診療科	Primary Lymphoedema	BMJ Case Rep•2018/7	Case report
197	Kondo T	総合診療科	Response to Jolobe: 'Beyond identification of GCA-related thoracic aortitis'	QJM•2018/9	Letter
198	Kondo T	総合診療科	Woe sushi: gastric anisakiasis	Lancet•2018/10	Case report
199	Kondo T, Ohira Y, Uehara T, Noda K, Tsukamoto T, Ikusaka M	総合診療科	Cough and giant cell arteritis	QJM•2018/10	Case report
200	Kondo T	総合診療科	Lung involvement in polymyalgia rheumatica	Rheumatology•2018/10	Case report
201	Shikino K, Mukai H, Ikusaka M	総合診療科	Westermarck sign and pulmonary embolus.	QJM•2018/11	Case report
202	Shikino K, Ikusaka M	総合診療科	Earlobe pulsation: A sign of tricuspid regurgitation	BMJ Case Rep•2018/11	Case report
203	Kondo T	総合診療科	Retrorectal tumour	Lancet Oncol•2018/11	Case report
204	Kondo T	総合診療科	Moyamoya disease	CMAJ•2018/11	Case report
205	Kondo T	総合診療科	Acute necrotizing esophagitis	Cleve Clin J Med•2018/12	Case report
206	Akizue N, Matsumura T, Maruoka D, et al.	消化器内科	Novel three-dimensional imaging system may facilitate gastric endoscopic submucosal dissection procedure: an ex vivo animal study.	Endosc Int Open.2018 Dec;6(12):E1431-E1435.	Original Article
207	Fujiwara K, Yasui S, Hage Y, et al.	消化器内科	Early Combination Therapy with Corticosteroid and Nucleoside Analogue Induces Rapid Resolution of Inflammation in Acute Liver Failure due to Transient Hepatitis B Virus Infection.	Intern Med.2018 Jun 1;57(11):1543-1552.	Original Article
208	Fujiwara K, Fukuda Y, Seza K, et al.	消化器内科	Long-term observation of acute-onset autoimmune hepatitis presenting clinically and radiologically as acute hepatitis.	Hepatol Int.2018 Mar;12(2):191-199.	Original Article
209	Hamanaka S, Nakagawa T, Hiwasa T, et al.	消化器内科	Investigation of novel biomarkers for predicting the clinical course in patients with ulcerative colitis.	J Gastroenterol Hepatol.2018 Dec;33(12):1975-1983.	Original Article
210	Ishikawa K, Chiba T, Ooka Y, et al.	消化器内科	Transarterial chemoembolization as a substitute to radiofrequency ablation for treating Barcelona Clinic Liver Cancer stage 0/A hepatocellular carcinoma.	Oncotarget.2018 Apr 20;9(30):21560-21568.	Original Article

211	Kanda T, Yasui S, Nakamura M, et al.	消化器内科	Interferon-free treatment for patients with chronic hepatitis C and autoimmune liver disease: higher SVR rates with special precautions for deterioration of autoimmune hepatitis.	Oncotarget.2018 Feb 3;9(14):11631-11637.	Original Article
212	Kobayashi K, Maruyama H, Kiyono S, et al.	消化器内科	Application of transcutaneous ultrasonography for the diagnosis of muscle mass loss in patients with liver cirrhosis.	J Gastroenterol.2018 May;53(5):652-659.	Original Article
213	Kumagai J, Taida T, Ogasawara S, et al.	消化器内科	Clinical characteristics and outcomes of primary sclerosing cholangitis and ulcerative colitis in Japanese patients.	PLoS One.2018 Dec 20;13(12):e0209352.	Original Article
214	Maruoka D, Arai M, Akizue N, et al.	消化器内科	Residual adenoma after cold snare polypectomy for small colorectal adenomas: a prospective clinical study.	Endoscopy.2018 Jul;50(7):693-700.	Original Article
215	Maruyama H, Kobayashi K, Kiyono S, et al.	消化器内科	Left gastric vein-based noninvasive test for esophageal varices: a same-day comparison of portal hemodynamic assessment with endoscopic appearance.	Clin Transl Gastroenterol.2018 May 25;9(5):154.	Original Article
216	Matsumura T, Arai M, Ishigami H, et al.	消化器内科	Evaluation of Esophageal Mucosal Integrity in Patients with Gastroesophageal Reflux Disease.	Digestion.2018;97(1):31-37.	Original Article
217	Okimoto K,Arai M,et al.	消化器内科	A Prospective Study of Eosinophilic Esophagitis and the Expression of Tight Junction Proteins in Patients with Gastroesophageal Reflux Disease Symptoms.	Gut Liver.2018 Jan 15;12(1):30-37.	Original Article
218	Ooka Y, Miho K, Shuntaro O, et al.	消化器内科	Prediction of the very early occurrence of HCC right after DAA therapy for HCV infection.	Hepatol Int.2018 Nov;12(6):523-530.	Original Article
219	Ogasawara S, Chiba T, Ooka Y, et al.	消化器内科	Characteristics of patients with sorafenib-treated advanced hepatocellular carcinoma eligible for second-line treatment.	Invest New Drugs.2018 Apr;36(2):332-339.	Original Article
220	Suzuki E, Kaneko S, Okusaka T, et al.	消化器内科	A multicenter Phase II study of sorafenib in Japanese patients with advanced hepatocellular carcinoma and Child Pugh A and B class.	Jpn J Clin Oncol.2018 Apr 1;48(4):317-321.	Original Article
221	Sakai Y, Tsuyuguchi T, Sugiyama H, et al.	消化器内科	Usefulness of the 2-Devices-in-1-Channel Method in Case of Difficult Selective Biliary Cannulation Due to Parapapillary Diverticulum/Diverticular Papilla.	Surg Laparosc Endosc Percutan Tech.2018 Oct;28(5):295-297.	Original Article
222	Senoo J, Mikata R, Kishimoto T, et al.	消化器内科	Immunohistochemical analysis of IMP3 and p53 expression in endoscopic ultrasound-guided fine needle aspiration and resected specimens of pancreatic diseases.	Pancreatolgy. 2018 Mar;18(2):176-183.	Original Article
223	Taida T, Nakagawa T, Ohta Y, et al.	消化器内科	Long-Term Outcome of Endoscopic Balloon Dilatation for Strictures in Patients with Crohn's Disease.	Digestion. 2018;98(1):26-32.	Original Article
224	Taida T, Arai M, Fujie M, et al.	消化器内科	Real-time Endoscopy-Guided Measurement of Rectal Mucosal Admittance Is a Novel and Safe Method for Predicting Ulcerative Colitis Relapse.	Inflamm Bowel Dis.2018 Oct 12;24(11):2360-2365.	Original Article
225	Takahashi K, Tsuyuguchi T, Sugiyama H, et al.	消化器内科	Risk factors of adverse events in endoscopic retrograde cholangiopancreatography for patients aged ≥85 years.	Geriatr Gerontol Int.2018 Jul;18(7):1038-1045.	Original Article
226	Takahashi K, Tsuyuguchi T, Saiga A, et al.	消化器内科	Risk factors of ineffective drainage in uncovered self-expandable metal stenting for unresectable malignant hilar biliary strictures.	Oncotarget.2018 Jun 15;9(46):28185-28194.	Original Article
227	Kanayama K, Chiba T, Oshima M, et al.	消化器内科	Genome-Wide Mapping of Bivalent Histone Modifications in Hepatic Stem/Progenitor Cells.	Stem Cells Int.2019	Original Article
228	Maruoka D, Kishimoto T, Matsumura T, et al.	消化器内科	Underwater cold snare polypectomy for colorectal adenomas.	Dig Endosc.2019	Original Article
229	Ogasawara S, Ooka Y, Itokawa N, et al.	消化器内科	Sequential therapy with sorafenib and regorafenib for advanced hepatocellular carcinoma: a multicenter retrospective study in Japan.	Invest New Drugs.2019	Original Article
230	Ohta Y, Arai M, Nakagawa T, et al.	消化器内科	Comparison of a novel predictor of venous thromboembolic complications in inflammatory bowel disease with current predictors.	J Gastroenterol Hepatol.2019 May;34(5):870-879.	Original Article
231	Arai M, Matsumura T, Ohta Y, et al.	消化器内科	Long-Term Prognosis of Patients with Obscure Gastrointestinal Bleeding: A Retrospective Cohort Study.	Digestion.2019 Jan 11:1-8.	Original Article
232	Fujwara K, Abe R, Yasui S, et al.	消化器内科	High recovery rate of consciousness by high-volume filtrate hemodiafiltration for fulminant hepatitis.	Hepatol Res.2019 Feb;49(2):224-231.	Original Article
233	Togasaki E, Shimizu N, Nagao Y, et al.	血液内科	Long-term efficacy of partial splenic embolization for the treatment of steroid-resistant chronic immune thrombocytopenia	Ann Hematol. 2018 Apr;97(4):655-662	Original Article
234	Kawajiri-Manako C, Sakaida E, Ohwada C, et al.	血液内科	The efficacy and long-term outcomes of autologous stem cell transplantation in POEMS syndrome: A nation-wide survey in Japan.	Biol Blood Marrow Transplant. 2018 Feb 1. pii: S1083-8791(18)30042-9.	Original Article
235	Takaishi K, Tsukamoto S, Ohwada C, et al.	血液内科	Low incidence of thromboembolism in multiple myeloma patients receiving immunomodulatory drugs: a retrospective single-institution analysis.	Thromb Thrombolysis. 2019 Jul;48(1):141-148. doi: 10.1007/s11239-019-01809-w	Original Article
236	Nagao Y, Mimura N, Takeda J, et al.	血液内科	Genetic and transcriptional landscape of plasma cells in POEMS syndrome.	Leukemia. 2019 Jan 11. doi: 10.1038/s41375-018-0348-x.	Original Article
237	Ohwada C, Sakaida E, Kawajiri-Manako C, et al.	血液内科	Long-term evaluation of physical improvement and survival of autologous stem cell transplantation in POEMS syndrome.	Blood. 2018 May 10;131(19):2173-2176.	Letter
238	Tsukamoto S, Løvendorf MB, Park J, et al.	血液内科	Inhibition of microRNA-138 enhances bone formation in multiple myeloma bone marrow niche.	Leukemia. 2018 Aug;32(8):1739-1750.	Original Article
239	Kayamori K, Shono K, Onoda M, et al.	血液内科	Efficacy and tolerability of rituximab and reduced-dose cyclophosphamide, doxorubicin, vincristine, and prednisolone therapy for elderly patient with diffuse large B-cell lymphoma.	Hematology. 2018 Aug 11:1-8.	Original Article
240	Kawajiri-Manako C, Mimura N, Fukuyo M, et al.	血液内科	Clonal immunoglobulin λ light-chain gene rearrangements detected by next generation sequencing in POEMS syndrome.	Am J Hematol. 2018 Sep;93(9):1161-1168.	Original Article

241	Isshiki Y, Iwama A.	血液内科	Emerging role of non-canonical polycomb repressive complexes in normal and malignant hematopoiesis.	Exp Hematol. 2018 Dec;68:10-14.	Review
242	Hirose K, Ito T, Nakajima H	アレルギー・膠原病内科	Roles of IL-22 in allergic airway inflammation in mice and humans.	Int Immunol. 2018;30(9):413-418.	Review
243	Nakajima H.	アレルギー・膠原病内科	Preface to the proceedings of the Workshop on Eosinophils in Allergy and Related Diseases.	Allergol Int. 2018;67S:S1-S2.	Review
244	Takatori H, Makita S, Ito T et al	アレルギー・膠原病内科	Regulatory Mechanisms of IL-33-ST2-Mediated Allergic Inflammation.	Front Immunol. 2018;9:2004.	Review
245	Saku A, Furuta S, Hiraguri M et al	アレルギー・膠原病内科	Long-term outcomes of 188 Japanese patients with eosinophilic granulomatosis with polyangiitis.	J Rheumatol. 2018;45(8):1159-1166.	Original Article
246	Makita S, Takatori H, Tamachi T et al	アレルギー・膠原病内科	Analyses of dermal innate lymphoid cells in mice lacking T-bet and STAT6.	Allergol Int. 2018;67S:S51-S53.	Original Article
247	Tanaka S, Suto A, Iwamoto T et al	アレルギー・膠原病内科	Sox12 promotes T reg differentiation in the periphery during colitis.	J Exp Med. 2018;215(10):2509-2519.	Original Article
248	Kageyama T, Furuta S, Ikeda K et al	アレルギー・膠原病内科	Prognostic factors of Pneumocystis pneumonia in patients with systemic autoimmune diseases	PLoS One, 14(3), e0214324, 2019.	Original Article
249	Kitamoto T, Sakurai K et al.	糖尿病・代謝・内分泌内科	Distinct roles of systemic and local actions of insulin on pancreatic $\beta$ -cells.	Metabolism. 2018;82:100-10.	Original Article
250	Maezawa Y, Kato H, Takemoto M et al.	糖尿病・代謝・内分泌内科	Biallelic WRN mutations in newly identified Japanese Werner Syndrome patients.	Mol Syndromol. 2018;9(4):214-8.	Original Article
251	Maezawa Y, Yokote K.	糖尿病・代謝・内分泌内科	Human glomerular transcriptome of diabetic kidneys: Can the podocyte cytoskeleton be a therapeutic target?	J Diabetes Investig. 2019 Mar;10(2):224-226.	Original Article
252	Ide S et al.	糖尿病・代謝・内分泌内科	Transcription factor 21 is required for branching morphogenesis and regulates the gdnf-axis in kidney development.	J Am Soc Nephrol. 2018 Dec;29(12):2795-2808.	Original Article
253	Baba Y, Kaneko H, Takemoto M et al.	糖尿病・代謝・内分泌内科	Case of lipotrophic diabetes induced by juvenile dermatomyositis.	J Diabetes Investig. 2018 May;9(3):632-635.	Case report
254	Ishibashi R, Takemoto M et al.	糖尿病・代謝・内分泌内科	Immune-mediated acquired lecithin-cholesterol acyltransferase deficiency: A case report and literature review.	2018 Jul - Aug;12(4):888-897.	Case report
255	Tamura A et al.	糖尿病・代謝・内分泌内科	Glucagonoma With Necrolytic Migratory Erythema: Metabolic Profile and Detection of Biallelic Inactivation of DAXX Gene.	J Clin Endocrinol Metab. 2018 Jul 1;103(7):2417-2423.	Case report
256	Nagano H, Hashimoto N, Nakayama A et al.	糖尿病・代謝・内分泌内科	p53-inducible DPYSL4 associates with mitochondrial supercomplexes and regulates energy metabolism in adipocytes and cancer cells.	Proc Natl Acad Sci U S A. 2018 Aug 14;115(33):8370-8375.	Original Article
257	Sakuma I, Nagano H et al.	糖尿病・代謝・内分泌内科	Ceritinib Aggravates Glycemic Control in Insulin-treated Patients with Diabetes and Metastatic ALK-positive Lung Cancer.	Intern Med. 2019 Mar 15;58(6):817-820.	Case report
258	Yokote K et al.	糖尿病・代謝・内分泌内科	Long-Term Efficacy and Safety of Pemafibrate, a Novel Selective Peroxisome Proliferator-Activated Receptor- $\alpha$ Modulator (SPPARM $\alpha$ ), in Dyslipidemic Patients with Renal Impairment.	Int J Mol Sci. 2019 Feb 6;20(3).	Original Article
259	Matsuura K, Jin WW, Liu H, et al.	心臓血管外科	Computational fluid dynamics study of the end-side and sequential coronary artery bypass anastomoses in a native coronary occlusion model.	Interact Cardiovasc Thorac Surg. 2018 Apr;26(4):583-589.	Original Article
260	Matsumiya G, Kohno H, Matsuura K, et al.	心臓血管外科	Right ventricular papillary muscle approximation for functional tricuspid regurgitation associated with severe leaflet tethering.	Interact Cardiovasc Thorac Surg. 2018 Apr;26(4):700-702.	Original Article
261	Kaneyuki D, Ueda H, Matsumiya G.	心臓血管外科	Right Subclavian Artery Aneurysms with Fibromuscular Dysplasia.	Ann Vasc Surg. 2018 Apr;48:253.e7-253.e9.	Case report
262	Watanabe M, Kohno H, Kondo Y, et al.	心臓血管外科	Is ganglionated plexus ablation effective for treating atrial fibrillation?	Surg Today. 2018 Sep;48(9):875-882.	Original Article
263	Koizumi S, Kohno H, Watanabe M, et al.	心臓血管外科	Left ventricular assist device implantation after plasma exchange for heparin-induced thrombocytopenia.	J Artif Organs. 2018 Dec;21(4):462-465.	Case report
264	Matsuura K, Jin WW, Liu H, et al.	心臓血管外科	Computational fluid dynamic study of different incision length of coronary artery bypass grafting in a native coronary stenosis model.	J Thorac Dis. 2019 Feb;11(2):393-399.	Original Article
265	Sekino N, Kano M, Matsumoto Y, et al.	食道・胃腸外科	Antitumor effects of metformin are a result of inhibiting nuclear factor kappa B nuclear translocation in esophageal squamous cell carcinoma	Cancer Sci. 2018 Apr;109(4):1066-1074	Original Article
266	Uesato M, Murakami K, Nabeya Y, et al.	食道・胃腸外科	Preserving the Mucosa to the Maximum Possible Extent for Endoscopic Submucosal Dissection of Subcircumferential Superficial Esophageal Carcinoma	Gastroenterol Res Pract. 2018 Apr 23;2018:3540204	Original Article
267	Takuma Sasaki, Masaya Uesato, Tekumi Ohta, et al.	食道・胃腸外科	Gastric endoscopic submucosal dissection via gastrostoma before the second operation for esophageal perforation: A case report	World J Gastrointest Endosc. 2018 Jun 16;10(6):121-124	Case Report
268	Amagai H, Murakami K, Sakata H, et al.	食道・胃腸外科	Pharmacokinetics of cisplatin in an esophageal cancer patient on hemodialysis who was treated with a full-dose cisplatin-fluorouracil regimen: A case report.	J Oncol Pharm Pract. 2018 Oct 10;1078155218808074	Case Report
269	Sekino N, Kano M, Matsumoto Y, et al.	食道・胃腸外科	The Antitumor Effects of Metformin on Gastric Cancer In Vitro and on Peritoneal Metastasis.	Anticancer Res. 2018 Nov;38(11):6263-6269	Original Article
270	Muto Y, Furihata T, Kaneko M, et al.	食道・胃腸外科	Different Response Profiles of Gastrointestinal Cancer Cells to an L-Type Amino Acid Transporter Inhibitor, JPH203.	Anticancer Res. 2019 Jan;39(1):159-165	Original Article



271	Watanabe Y, Kuboki S, Shimizu H, et al.	肝胆膵外科	A New Proposal of Criteria For the Future Remnant Liver Volume in Older Patients Undergoing Major Hepatectomy For Biliary Tract Cancer.	Ann Surg 2018;267:338-345.	Original Article
272	Yoneura N, Takano S, Yoshitomi H, et al.	肝胆膵外科	Expression of annexin II and stromal tenascin C promotes epithelial to mesenchymal transition and correlates with distant metastasis in pancreatic cancer.	Int J Mol Med 2018;42:821-830.	Original Article
273	Okura R, Takano S, Yokota T, et al.	肝胆膵外科	Conversion surgery with gemcitabine plus nab-paclitaxel for locally advanced unresectable pancreatic cancer: A case report.	Mol Clin Oncol. 2018;9:389-393.	Case report
274	Matsuo M, Furukawa K, Shimizu H, et al.	肝胆膵外科	Novel treatment strategy with radiofrequency ablation and surgery for pregnant patients with hepatocellular carcinoma: a case report	Surg Case Rep. 2018;4:43.	Case report
275	Kobayashi S, Hiwasa T, Arasawa T, et al.	検査部	Identification of specific and common diagnostic antibody markers for gastrointestinal cancers by SEREX screening using testis cDNA phage library.	Oncotarget. 2018 Apr 06;9(26):18559-18569.	Original Article
276	Ogura Y, Hoshino T, Tanaka N, et al.	検査部	Disturbed alternative splicing of FIR (PUF60) directed cyclin E overexpression in esophageal cancers.	Oncotarget. 2018 May 01;9(33):22929-22944.	Original Article
277	Ishige T, Satoh M, Itoga S, et al.	検査部	Locked Nucleic Acid Technology for Highly Sensitive Detection of Somatic Mutations in Cancer.	Adv Clin Chem. 2018;83:53-72.	Original Article
278	Ishige T, Satoh M, Itoga S, et al.	検査部	High-throughput genotyping of GC (vitamin D-binding protein) by melting analysis with locked nucleic acid-incorporating dual hybridization probe for improving mismatch discrimination.	Clin Chim Acta. 2018 Sep 22;487:126-132.	Original Article
279	Matsushita K and Hoshino T.	検査部	Novel diagnosis and therapy for hepatoma targeting HBV-related carcinogenesis through alternative splicing of FIR (PUF60)/FIR Δ exon2.	Hepatoma Res. 2018;4:61.	Original Article
280	Tsuchida S, Satoh M, Takiwaki M, et al.	マスマスベクトロメリー検査診断学	Current Status of Proteomic Technologies for Discovering and Identifying Gingival Crevicular Fluid Biomarkers for Periodontal Disease.	Int J Mol Sci. 2018 Dec 26;20(1). pii: E86.	Review
281	Tsuchida S, Murata S, Miyabe A, et al.	マスマスベクトロメリー検査診断学	Application of the biopolymer preparation system, rapid BACpro® II kit, for mass-spectrometry-based bacterial identification from positive blood culture bottles by the MALDI Biotyper system.	J Microbiol Methods. 2018 Sep;152:86-91.	Original Article
282	Nomura F, Kanda T, Seimiya M, et al.	マスマスベクトロメリー検査診断学	Determination of serum carbohydrate-deficient transferrin by a nephelometric immunoassay for differential diagnosis of alcoholic and non-alcoholic liver diseases.	Clin Chim Acta. 2018 Jun 27;485:181-186.	Original Article
283	Tsuchida S, Satoh M, Umemura H, et al.	マスマスベクトロメリー検査診断学	Assessment by Matrix-Assisted Laser Desorption/Ionization Time-of-Flight Mass Spectrometry of the Effects of Preanalytical Variables on Serum Peptide Profiles Following Long-Term Sample Storage.	Proteomics Clin Appl. 2018 May;12(3):e1700047.	Original Article
284	Tsuchida S, Murata S, Miyabe A, et al.	マスマスベクトロメリー検査診断学	An improved in-house lysis-filtration protocol for bacterial identification from positive blood culture bottles with high identification rates by MALDI-TOF MS.	J Microbiol Methods. 2018 May;148:40-45.	Original Article
285	Hayashi, H. Kurata, T. Takiguchi, Y. et al.	腫瘍内科	Randomized Phase II Trial Comparing Site-Specific Treatment Based on Gene Expression Profiling With Carboplatin and Paclitaxel for Patients With Cancer of Unknown Primary Site	J Clin Oncol, 37 (7), pp.570-579, 2019	Original article
286	Hida, T. Nokihara, H. Kondo, M. et al.	腫瘍内科	Alectinib versus crizotinib in patients with ALK-positive non-small-cell lung cancer (J-ALEX): an open-label, randomised phase 3 trial	Lancet, 390, pp. 29-39, 2019	Original Article
287	Hayashi H, Kurata T, Takiguchi Y, Arai M, et al.	腫瘍内科	Randomized Phase II Trial Comparing Site-Specific Treatment Based on Gene Expression Profiling With Carboplatin and Paclitaxel for Patients With Cancer of Unknown Primary Site.	J Clin Oncol. 2019 Mar 1;37(7):570-579. doi: 10.1200/JCO.18.00771. Epub 2019 Jan 17.	Original Article
288	Ishikawa M, Yamazaki S, Suzuki T, Uchida M, Iwadate Y, Ishii I	薬剤部	Correlation between vancomycin penetration into cerebrospinal fluid and protein concentration in cerebrospinal fluid/serum albumin ratio.	J Infect Chemother. 2019;25(2):124-128.	Original Article
289	Suzuki T, Suzuki T, Takatsuka H, Yamazaki S, Ishii I	薬剤部	Successful treatment of seizure disorder by evaluating phenobarbital clearance in a paediatric patient undergoing continuous haemodiafiltration.	J Clin Pharm Ther. 2019;44(3):479-481.	Case report

小計19件

合計289件

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名、出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。  
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article, Case report, Review, Letter, Othersから一つ選択すること。

	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	米倉修二 岡本美孝 中山哲	耳鼻咽喉・頭頸部外科	ヒノキ花粉特異的IgE改良品(Thermo Scientific ImmunoCAP-イムノキャップ特異的IgEヒノキ花粉)の性能評価	アレルギー2018,67,67-71	Original Article
2	Kimura K, Tsukamoto S, Takaishi K, et al.	血液内科	T315I mutation with lymphoblasts in a newly diagnosed patient with chronic-phase chronic myeloid leukemia.	Leuk Lymphoma. 2019 Jun;50(6):1591-1594. doi: 10.1080/10428194.2018.1548704.	Case report
3	Takaishi K, Muto T, Mimura N, et al.	血液内科	Long-term complete remission following tandem autologous stem cell transplantation and consolidative radiotherapy for refractory mediastinal gray-zone lymphoma.	Int J Hematol. 2018 ; 108(4):452-455.	Case report
4	Furuya H, Ikeda K, Iida K et al	アレルギー・膠原病内科	Disseminated toxoplasmosis with atypical symptoms which developed with exacerbation of systemic lupus erythematosus.	Lupus.2019;28(1):133-136.	Case report
5	Furuya H, Ikeda K, Suzuki J	アレルギー・膠原病内科	Eosinophilic vasculitis affecting multiple middle-sized arteries in a patient with Kimura's disease: A case report and literature review.	Allergol Int. 2018;675:S45-S47.	Case report
6	Kato M, Ikeda K, Kageyama T et al	アレルギー・膠原病内科	Successful Treatment for Refractory Interstitial Lung Disease and Pneumomediastinum With Multidisciplinary Therapy Including Tofacitinib in a Patient With Anti-MDA5 Antibody-Positive Dermatomyositis.	J Clin Rheumatol. 2019 Jan 4. . [Epub ahead of print]	Case report
7	築地 茉莉子, 山崎 伸吾, 谷口 俊文, 中村 貴子, 鈴木 貴明, 猪狩 英俊, 石井 伊都子	薬剤部	テノホビル血中濃度モニタリングにより血液透析導入HIV感染者へのソルバダ配合錠至適用量を検討した2症例	20巻2号,132-137(2018.05)	Case report

計7件

- 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無

手順書の主な内容

臨床研究の審査は臨床研究倫理審査委員会が附属病院に設置されており、それぞれ規程と手順書が整備されている。手順書には、医薬品・医療機器の臨床試験等に関わる業務手順が示されている。ネットワークとしての中央倫理審査委員会機能を果たすことができる手順となっている。また、人を対象とする医学系研究に関する倫理指針に対応した倫理学・法律学の専門家、一般の立場から意見を述べることのできる委員が適切に指名された構成となっている。

なお、臨床研究法下で実施される特定臨床研究を審査する認定臨床研究審査委員会が千葉大学により、附属病院に設置されている。

1. 千葉大学医学部附属病院臨床研究倫理審査委員会規程

千葉大学医学部附属病院（以下「病院」という。）で行われるヒトを対象とした研究（以下「研究」という。）について、次の各号に掲げる宣言及び指針の趣旨に沿って人間の尊厳及び人権を尊重し、社会の理解と協力を得て適正な研究を実施するため、その審査に当たることを目的として千葉大学医学部附属病院臨床研究倫理審査委員会（以下「委員会」という。）を置く。

一 ヘルシンキ宣言（1964年世界医師会採択、2000年世界医師会修正）

二 人を対象とする医学系研究に関する倫理指針（平成26年文部科学省・厚生労働省告示第3号）

2. 千葉大学医学部附属病院臨床研究倫理審査委員会運営手順書

千葉大学医学部附属病院臨床研究倫理審査委員会規程の定めるところにより、千葉大学医学部附属病院臨床研究倫理審査委員会（以下「委員会」という。）の運営方法を定め、医薬品の臨床試験等に関わる業務手順を示す。本委員会は、本院においてヒトに対して安全性が確認されている医薬品および医療機器の臨床試験又は臨床使用（以下、臨床試験及び臨床使用を一括して「臨床試験等」という。）を行うことの適否および継続して行うことの適否等について、ヘルシンキ宣言と人を対象とする医学系研究に関する倫理指針等に基づいて審査する。

3. 千葉大学医学部附属病院自主臨床試験取扱手順書

国立大学法人千葉大学医学部附属病院（以下「本院」という。）における研究者が主導して行う医薬品及び医療機器の臨床試験（自主臨床試験；以下「臨床試験」という。）及び未承認薬等の臨床使用（以下、臨床試験と併せて「臨床試験等」という。）の実施に際しての遵守事項並びに適正な実施に必要な手続きと運用に関する事項を定める。

本手順書は、臨床試験を実施するにあたり、ヘルシンキ宣言及び「臨床研究に関する倫理指針（平成16年12月28日改正）」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針（平成26年12月22日）」、並びに「医薬品の臨床試験の実施の基準に関する省令（平成9年厚生省令第28号）」及び「医療機器の臨床試験の実施の基準に関する省令（平成17年厚生労働省令第36号）」（以下「GCP」という。）等に基づき、被験者の人権、安全及び福祉の保護のもとに、臨床試験の科学的妥当性と成績の信頼性を確保するために最低限遵守すべき事項を示したものであり、本院の臨床研究倫理審査委員会が審査を行う臨床試験等に対して適用する。

③ 倫理審査委員会の開催状況	年 11回
----------------	-------

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。  
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	○ 有 無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	○ 有 無

規定の主な内容

**1. 国立大学法人千葉大学利益相反委員会規程**

国立大学法人千葉大学(以下「本学」という。)に、本学利益相反マネジメントポリシーに基づき、本学の役員及び職員に係る利益相反に適切に対処するとともに利益相反に関する重要事項を審議するため、利益相反委員会を置き、次に掲げる事項を審議する。

- 一 利益相反マネジメントポリシーに関すること。
- 二 利益相反ガイドラインに関すること。
- 三 利益相反防止に関する施策及び啓蒙活動に関すること。
- 四 利益相反に関する調査及び審査に関すること。
- 五 その他利益相反に関する重要事項

本規程第9条に、「臨床研究に係る利益相反委員会については、別に定める」ことが規定されている。

**2. 千葉大学医学部附属病院各種委員会規程及び別表 常置委員会**

千葉大学医学部附属病院各種委員会規程第3条に基づく常置委員会として、別表 常置委員会のとおり、①臨床研究に係る利益相反ポリシーに関する事項、②臨床研究に係る利益相反マネジメントに関する事項、③臨床研究に係る利益相反防止に関する施策及び啓蒙活動に関する事項、④臨床研究に係る利益相反に関する調査及び審査に関する事項、⑤その他臨床研究に係る利益相反に関する重要事項を所轄する。

**3. 千葉大学医学部附属病院における臨床研究に係る利益相反ポリシー**

本ポリシーは平成17年9月に制定され、臨床研究を行う研究者と関係者、被験者、大学などを取り巻く利益相反の存在を明らかにすることによって、被験者の保護を最優先としつつ、大学や研究者などの正当な権利を認め社会の理解と信頼を得て、大学の社会的信頼を守り、臨床研究の適正な推進を図る。

#### 4. 千葉大学医学部附属病院における臨床研究に係る利益相反マネジメント規程

千葉大学医学部附属病院（以下「病院」という。）における臨床研究に係る利益相反の取扱い・マネジメントは、国立大学法人千葉大学利益相反委員会規程第9条に基づき、千葉大学医学部附属病院臨床研究に関する利益相反委員会を設置し、千葉大学医学部附属病院における臨床研究に係る利益相反ポリシー、臨床研究の利益相反ポリシー策定に関するガイドライン（平成18年3月文部科学省）、厚生労働科学研究における利益相反（Conflict of Interest: COI）の管理に関する指針（平成20年3月31日科発第0331001号厚生科学課長決定）並びに法令又はこれに基づく特別の定めによるほか、この規程の定めるところによる。

本規程第4条（管理の手続き）及び第5条（管理の実施）に従い、臨床研究実施者（必要に応じて臨床研究関係者）は臨床研究の利益相反に関する自己申告書を臨床研究実施計画書と共に病院長に提出し、利益相反委員会において審査並びにマネジメントを行う。利益相反委員会の審査結果を臨床研究倫理審査委員会に報告し、臨床研究倫理審査委員会の審査結果も踏まえて、利益相反管理も含めて審査を行っている。

#### 5. 臨床研究の利益相反に関する自己申告書

臨床研究実施者及び倫理審査委員会の委員等は、臨床研究に関する利益開示を受ける委員会として規定されている利益相反委員会に利益相反に関する自己申告書を提出し、適切なマネジメントを受け、必要な場合には試験実施計画書を変更する。

③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況

年 11回

(注) 前年度の実績を記載すること。

#### (3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況

年 8回

##### ・研修の主な内容

- ・臨床研究入門講義 1回「研究倫理・医学研究における利益相反」
- ・臨床研究応用講義 1回「薬事規制(1)(2)」
- ・臨床研究に関する特別セミナー 3回「COI-COI管理ガイドライン改訂と最近の動向」「ヒト倫理指針と臨床研究法」「臨床研究に何が必要か」
- ・倫理審査委員会研修会 3回「臨床研究法下の利益相反管理」「臨床研究法と人医学系指針－臨床系研究の審査とその視点－」「臨床研究法について」

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

(目的と特徴)
● 初期研修を修了した医師・歯科医師が臨床医学系専門領域の専門医を取得する
● 2年間の卒後研修を含む新しい枠組みでの専門医を取得できるプログラム
● 内科、外科の場合は内科認定医・認定内科専門医、外科専門医を取得できると共に、さらにサブスペシャリティーの専門医を取得できるプログラム
(研修期間)
● 研修期間は3～5年（卒後研修：2年を含まない）原則として各専門領域の専門医取得に定められた期間
(到達目標)
● 専門医としての患者ケアのための臨床能力を身につける
● 専門医としての患者ケアのための知識の習得と応用が出来る
● 診療経験を振り返り臨床能力を向上させることが出来る
● 必要かつ十分なコミュニケーション能力を示すことが出来る
● 医師としてのプロフェッショナルリズムを身につける
● 家族・地域・制度などの医療資源を理解し活用することが出来る
● 指導医としての教育的役割を果たすことが出来る
● 臨床研究の意義を理解し倫理原則にしたがって研究を行うことが出来る

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	103 人
-------------	-------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
加藤 直也	消化器内科	科長 (教授)	32年	
堺田 恵美子	血液内科	科長 (診療教授)	24年	
浅沼 克彦	腎臓内科	科長 (教授)	23年	
中島 裕史	アレルギー・膠原病内科	科長 (教授)	30年	
横手 幸太郎	糖尿病・代謝・内分泌内科	科長 (教授)	30年	
小林 欣夫	循環器内科	科長 (教授)	30年	
小林 欣夫	冠動脈疾患治療部	部長 (教授)	30年	
巽 浩一郎	呼吸器内科	科長 (教授)	39年	
桑原 聡	脳神経内科	科長 (教授)	34年	
生坂 政臣	総合診療科	科長 (教授)	33年	
並木 隆雄	和漢診療科	科長 (診療教授)	33年	
猪狩 英俊	感染症内科	科長 (診療教授)	30年	
滝口 裕一	腫瘍内科	科長 (教授)	35年	
松宮 護郎	心臓血管外科	科長 (教授)	32年	
松原 久裕	食道・胃腸外科	科長 (教授)	34年	

大塚 将之	肝胆膵外科	科長（教授）	30年	
長嶋 健	乳腺・甲状腺外科	科長（診療教授）	30年	
吉野 一郎	呼吸器外科	科長（教授）	31年	
齋藤 武	小児外科	科長代理（准教授）	24年	
滝口 裕一	臨床腫瘍部	部長（教授）	35年	
磯野 史朗	麻酔・疼痛・緩和医療科	科長（教授）	34年	
市川 智彦	泌尿器科	科長（教授）	31年	
大鳥 精司	整形外科	科長（教授）	24年	
馬場 隆之	眼科	科長（診療教授）	21年	
松江 弘之	皮膚科	科長（教授）	31年	
花澤 豊行	耳鼻咽喉・頭頸部外科	科長代理（准教授）	29年	
三川 信之	形成・美容外科	科長（教授）	27年	
伊豫 雅臣	精神神経科	科長（教授）	34年	
岩立 康男	脳神経外科	科長（教授）	35年	
生水 真紀夫	婦人科・周産期母性科	科長（教授）	37年	
下条 直樹	小児科	科長（教授）	39年	
宇野 隆	放射線科	科長（教授）	30年	
中田 孝明	救急科	科長代理（講師）	19年	
安部 隆三	集中治療部	部長代理（講師）	19年	
浅沼 克彦	人工腎臓部	部長（教授）	23年	
村田 淳	リハビリテーション科	科長（診療教授）	32年	
伊豫 雅臣	こどものこころ診療部	部長（教授）	34年	
松下 一之	検査部	部長（診療教授）	30年	
池田 純一郎	病理診断科・病理部	科（部）長（教授）	16年	
上里 昌也	内視鏡センター	センター長代理（講師）	22年	
丹沢 秀樹	歯科・顎・口腔外科	科長（教授）	34年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

#### 4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

##### ① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

###### ・研修の主な内容

医師1～2名（例：指導医、研修医）、看護師2～3名（例：熟練、中堅、新人看護師）、他職種でチームを形成し、1～2チームがあらかじめ作成したシナリオ（1～2種類）にもとづいてシミュレーション実習を行う。シミュレーターはSimMan 3G、SimBaby、HPSを用いる。シナリオ内容は作成者およびセミナー管理者にのみ知らされ、実習参加者はシナリオの内容を知らずに急変対応を行っていく。実習の様子はビデオモニターで撮影・記録され、上記チーム以外の参加者はその映像をリアルタイムで観察する。実習終了後、記録ビデオを参考にしながら、全参加者でデブリーフィング（振り返り）を行う。

###### ・研修の期間・実施回数

4回／年

###### ・研修の参加人数

33名／回

##### ② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

###### ・研修の主な内容

「新任看護師長研修」病院及び看護部運営の実際と看護管理

病院・看護部組織と運営、人事・労務管理、人材確保、人材育成、看護業務の進め方、看護の質保証、看護と経営、医療安全、部署の看護管理に活かすため、他部署・他部門、他施設の見学研修

###### ・研修の期間・実施回数

「新任看護師長研修」平成30年4月12日、18日、19日、23日、24日、27日

5月9日、12月21日・8回

###### ・研修の参加人数

「新任看護師長研修」3名



③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

- ・研修の主な内容
- ・研修の期間・実施回数
- ・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状
管理責任者氏名	病院長 山本 修一	
管理担当者氏名	企画情報部長 鈴木 隆弘 医療安全管理部長 相馬 孝博 臨床工学センター長 磯野 史朗 管理課長 鈴木 一雄 医療サービス課長 鹿倉 敏則	薬剤部長 石井 伊都子 感染制御部長 猪狩 英俊 総務課長 竹本 浩伸 医事課長 田辺 朗

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	規則第二十一条の三第二項に掲げる事項	病院日誌	総務課
		各科診療日誌	各診療科
		処方せん	薬剤部
		手術記録	企画情報部 医療サービス課
		看護記録	企画情報部 医療サービス課
		検査所見記録	企画情報部 医療サービス課
		エックス線写真	企画情報部
		紹介状	企画情報部 医療サービス課
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	企画情報部 医療サービス課

病院の管理及び運営に関する諸記録	掲げる事項 規則第二十二 条の三第三 項に	従業者数を明らかにする帳簿	総務課	管理担当者は、病院の管理及び運営に関する諸記録について、所管部門の施錠可能な場所(キャビネット等)で保管・管理している。
		高度の医療の提供の実績	医事課 医療サービス課	
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	医療サービス課	
		高度の医療の研修の実績	総務課	
		閲覧実績	医療サービス課	
		紹介患者に対する医療提供の実績	医療サービス課	
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医療サービス課 薬剤部	
	掲げる事項 規則第一 条の十一第 一項に	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医事課医療安全室	管理担当者は、病院の管理及び運営に関する諸記録について、所管部門の施錠可能な場所(キャビネット等)で保管・管理している。
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医事課医療安全室	
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医事課医療安全室	
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理部 医事課医療安全室	

		保管場所	管理方法	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	医事課医療安全室	管理担当者は、病院の管理及び運営に関する諸記録について、所管部門の施錠可能な場所(キャビネット等)で保管・管理している。
		院内感染対策のための委員会の開催状況	医事課医療安全室	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医事課医療安全室	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部 医事課医療安全室	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	総務課 医事課医療安全室	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部 医事課医療安全室	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部	
		医療機器安全管理責任者の配置状況	総務課、管理課	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	管理課	
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	管理課	
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	管理課			

		保管場所	管理方法	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第一項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	総務課 医事課医療安全室	管理担当者は、病院の管理及び運営に関する諸記録について、所管部門の施錠可能な場所（キャビネット等）で保管・管理している。
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	総務課 医事課医療安全室	
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部	
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	総務課 医事課医療安全室	
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	総務課 医療サービス課	
		医療安全管理部門の設置状況	医事課医療安全室	
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医事課医療安全室	
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医事課医療安全室	
		監査委員会の設置状況	総務課	
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理部 医事課医療安全室	
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医事課医療安全室	
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医事課医療安全室	
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	総務課 監査室（大学）	
		職員研修の実施状況	医事課医療安全室	
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	総務課、管理課 医事課医療安全室 薬剤部	
		管理者が有する権限に関する状況	総務課	
		管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	総務課	
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	総務課			

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	② 現状
閲覧責任者氏名	病院長 山本 修一	
閲覧担当者氏名	総務課長 竹本 浩伸	管理課長 鈴木 一雄
	経営企画課長 正木 純一	研究推進課長 永田 昭浩
	医事課長 田辺 朗	医療サービス課長 鹿倉 敏則
閲覧の求めに応じる場所	患者相談室	
閲覧の手続の概要		
病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧したい旨の申し出があった場合、閲覧希望のあった諸記録を所掌する閲覧担当者が閲覧責任者に確認の上、患者相談室において求めに応じる。		

(注) 既に医療法施行規則第 9 条の 20 第 5 号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0	件	
閲覧者別	医師	延	0	件
	歯科医師	延	0	件
	国	延	0	件
	地方公共団体	延	0	件

(注) 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	①・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基本的な考え方</li> <li>2. 病院長の責務</li> <li>3. 医療安全に関する組織と取組</li> <li>4. 医療安全管理のための職員研修</li> <li>5. 医療上の事故等の報告</li> <li>6. 医療上の事故等発生時の対応</li> <li>7. 患者等への当該基本方針の閲覧</li> <li>8. 患者からの相談への対応</li> <li>9. その他の医療安全推進への対応</li> <li>10. その他</li> </ol>	
<p>② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況</p> <p>・ 設置の有無（①・無）</p> <p>・ 開催状況：年 11回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 病院において重大な問題やその他委員会において取扱うことが適当な問題が発生した場合における速やかな原因の究明のための調査及び分析に関すること。</li> <li>2. 上記の分析の結果を活用した医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の立案及び実施並びに病院職員への周知に関すること。</li> <li>3. 上記の改善のための方策の実施の状況の調査及び必要に応じた当該方策の見直しに関すること。</li> <li>4. 入院患者が死亡した場合における当該死亡の事実及び死亡前の状況に関する医療安全管理部への報告の実施の状況の確認及び確認結果の病院長への報告に関すること。</li> <li>5. 入院患者の死亡以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして病院長が定める水準以上の事象が発生したときにおける当該事象の発生の事実及び発生前の状況の医療安全管理部への報告の実施の状況に関する確認及び確認結果の病院長への報告に関すること。</li> <li>6. 4. 及び5. の実施の状況が不十分な場合における適切な報告のための病院職員への研修及び指導に関すること。</li> <li>7. その他医療安全管理に関すること。</li> </ol>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年10回
<p>・ 研修の内容（すべて）：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 第1回医療事故防止・ICT・情報セキュリティ合同セミナー 平成30年5月31日（LIVE講演）、6月18日～6月20日（DVD上映） ◆「求められる情報モラルとリテラシー」「改めてインフォームド・コンセントを考える」「感染経路別予防対策について」「当院における広域抗菌薬の適正使用について」「適正で安全な輸血療法・病院機能評価に向けて」</li> <li>2. 緊急医療事故防止セミナー（画像診断体制の改善に向けて） 平成30年7月26日（LIVE講演）、8月3日（DVD上映） ◆「診断（関連）エラーに関して」「医療事故防止のためにカルテ記載の徹底とその方法」「適切な画像診断を行うために」「画像診断体制の改善に向けて現況・今後・展望」</li> <li>3. 第2回医療事故防止セミナー 平成30年9月27日（LIVE講演）10月10日～10月12日（DVD上映）</li> </ol>	

◆「アドバンスケアプランニング（ACP）～患者の人生を支える治療ケアの実践に向けて～」

4. 第3回医療事故防止・ICT・情報セキュリティ合同セミナー

平成30年11月14日（LIVE講演）11月26日～11月28日（DVD上映）

◆「当院の血液培養の状況～他施設との比較から～」 「インフルエンザ対策として知っておいてほしいこと」 「情報の保護・管理に関する最新状況」 「インシデントレポートから～薬の使用は大丈夫ですか」 「もっと早めにMETコール！～早期介入で心停止を回避しよう」 「医療現場に求められていること」

5. 画像診断改革セミナー

平成30年12月18日（LIVE講演）12月27日（DVD上映）

◆「画像診断体制の改革について」

6. 第4回医療事故防止・ICT・情報セキュリティ合同セミナー

平成31年1月16日（LIVE講演）、1月20日～1月28日（DVD上映）

◆「マイナー診療科から広げる医療安全」 「ディフィシル腸炎の治療困っていませんか」 「水回りの環境整備について」 「求められる情報モラルとリテラシーPart2」 「除細動・AEDの安全使用」 「MRIの安全管理と胸部X線撮影における肋骨減弱画像の配信について」

7. 第34回急変対応セミナー

平成30年7月6日「耳鼻咽喉・頭頸部外科、にし棟10階」

8. 第35回急変対応セミナー

平成30年9月27日「精神神経科、ひがし棟4階」

9. 第36回急変対応セミナー

平成30年11月29日「脳神経外科外来」

10. 第37回急変対応セミナー

平成31年3月15日「アレルギー・膠原病内科、腎臓内科、ひがし棟9

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備（有・無）
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：

1. 医療上の問題

◆「千葉大学医学部附属病院インシデント及び医療上の事故発生時の対応に関する取扱要項」に則り、インシデントが発生した場合はインシデント管理システム（Safe Master）により速やかに報告され、部署リスクマネージャー及び医療安全管理部員が内容を把握する。インシデントの詳細な情報は、部署リスクマネージャーが確認し、収集する。ゼネラルリスクマネージャーは報告内容に応じて当該部署に出向き、当事者及び関係者から情報を収集する。

2. 分析

◆各部署では当該部署のリスクマネージャーが中心となり、KYTやPOAMなどの分析手法を活用し、分析する。医療安全管理部ではゼネラルリスクマネージャーが部署への分析手法の指導・支援を行う。

3. 改善策の検討

◆リスクマネジメント会議で多職種により改善策について検討を行い、医療の質・安全管理委員会で決定する。

(注) 前年度の実績を記入すること。



規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	⓪・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基本的な考え方</li> <li>2. 委員会、その他組織に関すること</li> <li>3. 院内感染対策のための研修等</li> <li>4. 感染症の発生状況及び抗菌薬使用状況の報告</li> <li>5. 院内感染発生時の対応</li> <li>6. 患者等への当該基本方針の閲覧</li> <li>7. その他の院内感染対策推進への対応</li> <li>8. その他</li> </ol>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年12回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 院内感染の実態把握のための調査及び点検に関すること。</li> <li>2. 院内感染予防策の立案に関すること。</li> <li>3. 院内感染発生時の対策に関すること。</li> <li>4. 職員に対する院内感染予防対策の教育に関すること。</li> <li>5. 院内感染予防対策マニュアルの作成及び改訂に関すること。</li> <li>6. その他院内感染予防対策に関すること。</li> </ol>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年3回
<p>・ 研修の内容（すべて）：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 第1回医療事故防止・ICT・情報セキュリティ合同セミナー 平成30年5月31日（LIVE講演）、6月18日～20日（DVD上映） ◆「求められる情報モラルとリテラシー」「改めてインフォームド・コンセントを考える」「感染経路別予防対策について」「当院における広域抗菌薬の適正使用について」「適正で安全な輸血療法・病院機能評価に向けて」</li> <li>2. 第3回医療事故防止・ICT・情報セキュリティ合同セミナー 平成30年11月14日（LIVE講演）、11月26日～28日（DVD上映） ◆「当院の血液培養の状況～他施設との比較から～」 「インフルエンザ対策として知っておいてほしいこと」「インシデントレポートから～薬の使用は大丈夫ですか」「もっと早めにMETコール！～早期介入で心停止を回避しよう」「医療現場に求められていること」</li> <li>3. 第4回医療事故防止・ICT・情報セキュリティ合同セミナー 平成31年1月16日（LIVE講演）、1月24日、25日、28日（DVD上映） ◆「マイナー診療科から広げる医療安全」「ディフィシル腸炎の治療困っていませんか？」「水回りの環境整備について」「求められる情報モラルとリテラシーpart2」「除細動・AEDの安全使用」「MRIの安全管理と胸部X線撮影における肋骨減弱画像の配信について」</li> </ol>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 (⓪・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ICT活動 <ol style="list-style-type: none"> <li>◆ ICTラウンド（週1回）と報告</li> <li>◆ Weeklyラウンド</li> <li>◆ 月間ラウンド（MRSA・MDRP・CREを対象（月1回）と報告</li> <li>◆ 分離菌報告</li> </ol> </li> <li>2. AST活動 <ol style="list-style-type: none"> <li>◆ 血液培養陽性患者のモニター</li> <li>◆ 診療コンサルテーション報告</li> </ol> </li> </ol>	

- ◆ 抗菌薬の許可制
- ◆ 特定薬剤使用状況報告
- ◆ ASTラウンド
- 3. 感染制御部・事務職員・清掃業者による環境清掃ラウンド（月2回）と報告
- 4. 職員感染対策
  - ◆ 針刺し・切創、血液・体液曝露外来の実施
  - ◆ 職員の抗体検査と予防接種の実施
  - ◆ 病院職員・外部委託業者に対するワクチン接種
- 5. 医療関連感染サーベイランスの実施とフィードバック
  - ◆ カテーテル関連血流感染（血液内科、小児科、小児外科）
  - ◆ 手術部位感染（肝胆膵外科、食道・胃腸外科）
  - ◆ 人工呼吸器関連イベントサーベイランス
  - ◆ 手指衛生サーベイランス（払い出し量からみた手指衛生指数・直接観察法）
- 6. 感染防止対策の地域連携に関する活動
  - ◆ 感染防止対策地域連携加算に係る相互チェックの実施（連携医療機関と相互に年1回ずつ）
  - ◆ 感染防止対策加算に係るカンファレンスの開催（連携医療機関と年4回）
  - ◆ 院内感染地域支援ネットワーク事業と連携した地域の感染対策向上を目的とした活動（研修会・アウトブレイク支援・感染対策相談等）
  - ◆ 行政との広域感染症を想定した（MERS、新型インフルエンザ）対応 訓練
- 7. アウトブレイク発生時の対応と終息に向けた対策
- 8. 手指消毒剤個人携帯の推奨や手指衛生サーベイランスの結果報告や手指衛生指導等、手指衛生啓発活動
- 9. 国公立大学附病院感染対策協議会における活動（感染対策相互チェック）

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年4回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 新規採用者ガイダンス（研修医を含む新規採用者対象） 平成30年4月2日 ◆ 「薬剤部業務と医療安全」</li> <li>2. 新規採用者ガイダンス（研修医を含む新規採用者対象） 平成30年4月5日 ◆ 「抗がん薬の取扱いについて」</li> <li>3. 新人看護師研修（新人看護師対象） 平成30年4月4日・6日・9日 ◆ 「与薬-看護業務に必要な医薬品の知識-」</li> <li>4. 第3回医療事故防止・ICT・情報セキュリティ合同セミナー 平成30年11月14日（LIVE講演）11月26日～11月28日（DVD上映） ◆ 「インシデントレポートから～薬の使用は大丈夫ですか」</li> </ol>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<p>・ 手順書の作成 （有・無）</p> <p>・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医薬品の採用を審議する薬事委員会の開催及び適正運用の実施</li> <li>2. 医薬品の購入及び麻薬、向精神薬、毒薬、劇薬、嚴重管理薬、特定生物由来製品等の適正管理の実施</li> <li>3. 患者に対する安全な医薬品供給のための調剤、交付、過誤防止対策、薬剤管理指導等の実施</li> <li>4. 医薬品の情報の収集及び提供の実施</li> <li>5. 各部門における手順書に基づいた業務実施状況の確認 等</li> </ol>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 （有・無）</p> <p>・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○Brilliant Blue G (ILM blue)：黄斑疾患に対する硝子体手術における内境界膜剥離のための染色に使用</li> <li>○Celsior solution：心臓移植におけるドナー心臓の心筋保護液（心臓保存液）として使用</li> <li>○AZT（注射液/シロップ）：HIV感染症妊婦からの母子感染予防に使用</li> <li>○院内製剤モーズペースト：子宮癌の皮膚転移に使用</li> <li>○院内製剤滅菌墨汁：口腔癌に対するマーキングとして使用</li> </ul> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>未承認医薬品については臨床倫理審査委員会にて承認が得られたもののみを使用するルールをとり、当該委員会で審議するための必要情報を収集するなどの対応をしている。</p> <p>院内製剤についても、日本病院薬剤師会の指針に則りクラス分類を導入し、クラスに応じた審査を取り入れている。また、使用後の評価も徹底する運用としている。</p> <p>その他、医薬品の安全使用に係る医薬品情報は医薬品の安全使用のための措置に係る実施担当者（医薬品情報室長）から医薬品安全管理責任者への報告を行い、医薬品安全管理責任者から院内への周知を行っている。</p>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	①・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 47 回
<ul style="list-style-type: none"> <li>研修の主な内容： 人工呼吸器（5回）・輸液・シリンジポンプ（4回）・閉鎖式保育器（2回）・血液浄化装置（5回） 人工心肺及び補助循環装置（3回）・除細動器（3回） および新規導入の機器（21回）、年43回 診療用高エネルギー放射線発生装置（リニアック）の安全講習会（年2回） 診療用放射線照射装置（アフターローディング）の安全講習会（年2回）</li> </ul>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>医療機器に係る計画の策定（①・無）</li> <li>保守点検の主な内容： 診療用高エネルギー放射線発生装置（リニアック）、診療用放射線照射装置（アフターローディング）、生命維持管理装置（人工心肺および補助循環装置・人工呼吸器・血液浄化装置・徐細動器・閉鎖式保育器）</li> <li>当院で定めた機器（CT・MRI・血管造影装置・核医学診断装置、輸液・シリンジポンプ・フットポンプ・生体情報モニタ等）</li> </ul>
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集 その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>医療機器に係る情報の収集の整備（①・無）</li> <li>未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）：</li> <li>その他の改善のための方策の主な内容： 医療法施行規則第9条の23第1項第8号に則り、未承認医療機器については臨床倫理審査委員会にて承認が得られたもののみを使用するルールをとり、当該委員会で審議するための必要情報を収集するなどの対応をしている。 臨床工学技士を配置し、院内の安全管理部員を兼任とすることで、院内で起こった医療機器に関するインシデント等に早急に対応、安全管理部との共同配信文書として院内へ配信することができている。 また、全体で行う院内講習会のほか、インシデント発生等の際には原因を究明し、部署別・事例別の講習会を開催し、再発防止に努めている。</li> </ul>

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
<p>・責任者の資格 (医師)・歯科医師)</p> <p>・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>「千葉大学医学部附属病院における医療安全管理に関する基本方針」第2の1において、千葉大学医学部附属病院規程第6条第6項の規定により医療安全管理責任者に任命された副院長は、医療安全管理部、医療の質・安全管理委員会、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者等を統括すると定めている。本院の医療安全管理責任者である常勤医師の副院長は医療の質・安全管理委員会等に出席し組織的に医療事故防止について検討し、患者に安全・確実な医療を提供するため院長と共に医療安全管理対策に取り組んでいる。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 (9名) ・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>「千葉大学医学部附属病院医薬品に関する安全管理規程」において、医薬品安全管理責任者は医薬品の安全使用のための措置に係る実施担当者を指名し、医薬品の安全使用のための業務に資する医薬品に関する情報の整理、周知及び当該周知状況の確認を行わせることとしている。</p> <p>医薬品情報室長を実施担当者として指名し、病院における未承認等の医薬品の使用のための処方状況や、採用されている医薬品全般の医薬品の添付文書情報のほか、医薬品製造販売業者、行政機関、学術誌等からの情報を広く収集し、管理するとともに、得られた情報のうち必要なものは院内全教職員へメールにて周知を行っている。また、特に周知状況の確認が必要と思われる重要周知事項については、全職員がインシデントレポートシステムからログインして閲覧を行う事により、閲覧状況を確認できる方策をとっている。</p> <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>「千葉大学医学部附属病院医薬品に関する安全管理規程」において、医薬品安全管理責任者は医薬品の安全使用のための措置に係る実施担当者を指名し、未承認等の医薬品の使用に関し、当該未承認等の医薬品の使用状況の把握のための体系的な仕組みの構築並びに当該仕組みにより把握した未承認等の医薬品の使用の必要性等の検討の状況の確認、必要な指導及びこれらの結果の共有を行わせることとしている。</p> <p>薬剤師ゼネラルリスクマネージャーを実施担当者として指名し、未承認新規医薬品等担当部門と連携を取ることで、院内における未承認新規医薬品等の使用の適否決定状況及び適正使用の確認を行っている。</p> <p>・担当者の指名の有無 (有) ・無)</p> <p>・担当者の所属・職種： (所属：薬剤部，職種：薬剤師 (医薬品情報室長)) (所属：薬剤部，職種：薬剤師 (GRM))</p>	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有・無
<p>・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (有) ・無 )</p> <p>・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容：説明・同意文書の新規作成・更新の際に、「病院として定めた必要項目が盛り込まれているか」について、診療情報管理委員会において確認され、承認された文書のみ使用する。また、当該確認の際、</p>	

「説明を行う際の同席（立会い）の必要がある」文書かどうかも確認され、当該文書が使用された際には、説明内容に加え、同席の有無をも診療録に記載することとし、定期的な監査を実施している。説明・同意文書に盛り込むべき必要項目、説明等の実施に必要な方法等については、全職員対象のセミナー等で教育を行っている。

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況

①・無

診療情報の適切な管理を行うために診療情報管理責任者を置き、診療情報管理委員会の委員長を充てている（病院長任命）。なお、診療科等が保有する診療情報を管理するために診療情報責任者を置き、診療科等の長を充てている。

・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：

当院の診療情報管理規程に基づき、診療録等の記載内容の確認および診療録等の監査を行っている。

- ・診療情報管理士は、診療科等における診療録等の記載内容を確認し、必要に応じて記載方法を指導する。
- ・診療情報管理委員会は、診療科等が保有する診療録等を定期的に監査する。
- ・監査対象は、入院基本情報、入院診療計画書、患者に対する医療行為の説明に対する同意書、退院時サマリー、診療録等とする。
- ・診療情報管理委員会は、監査結果を診療情報責任者に対して報告するとともに、ホームページ等により院内に公表する。
- ・監査結果の報告を受けた診療情報責任者は、速やかに対策を講じ、その結果を診療情報管理委員会へ報告する。

⑥ 医療安全管理部門の設置状況

①・無

- ・所属職員：専従（3）名、専任（3）名、兼任（23）名
- うち医師：専従（1）名、専任（0）名、兼任（14）名
- うち薬剤師：専従（0）名、専任（2）名、兼任（1）名
- うち看護師：専従（2）名、専任（0）名、兼任（2）名

（注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること

・活動の主な内容：

1. 医療の質・安全管理委員会に係る事務
2. 事故その他の医療安全管理部において取り扱うことが必要なものとして病院長が認める事象が発生した場合における診療録その他の診療に関する記録の確認、患者又はその家族への説明、当該事象の発生原因の究明の実施その他の対応の状況の確認及び当該確認の結果に基づく病院職員への必要な指導
3. 医療に係る安全管理に係る連絡調整
4. 医療に係る安全の確保のための対策の推進
5. 医療安全の確保に資する診療状況のモニタリング
6. 全病院職員に対する医療安全に係る教育・研修の企画、実施及び医療安全に関する認識状況の確認
7. 各部署における医療安全対策の実施状況の評価に基づく、医療安全確保のための業務改善計画書の作成及びそれに基づく医療安全対策の実施状況及び評価結果の記録
8. 医療の質・安全管理委員会との連携状況、医療安全に係る職員研修の実績、患者等の相談件数及び相談内容、相談後の取扱いその他の医療安全管理者の活動実績の記録
9. 医療安全に係る取組み及びその評価を行うカンファレンスの実施
10. その他医療安全の推進に関する事

- ※ 専任の医療に係る安全管理を行う者2名については、薬剤師の資格を有しており、医療安全に関する必要な研修を修了している。また、医療安全管理部の部員及び医療の質・安全管理委員会の委員として構成員に含まれており、医療安全対策の推進に関する業務に専ら従事している。（経過措置の適用により、平成28年10月1日から5割以上医療安全管理業務に従事する薬剤師2名を医療安全管理部門へ配置し、令和2年4月1日からは専従の薬剤師1名を配置する予定である旨を厚生労働大臣へ届出済み。）
  - ※ 診療状況のモニタリングとしては、医療の質・安全管理委員会へ転倒・転落発生率、損傷発生率、剖検率、Ai実施率、デスカンファ実施率などを報告している。
  - ※ 従業者の医療安全の認識についてのモニタリングについては、医療安全管理に係る全職員に対する研修を実施した際に、e-ラーニング等により理解度の把握を行っている。
- ※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。
- ※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（9件）、及び許可件数（9件）
- ・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（・無）
- ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（・無）
- ・活動の主な内容：  
 本院において高難度新規医療技術を用いて施行する医療行為を対象に、高難度新規医療技術の施行についての申請書や患者に対する同意説明文書を通じ、審査・評価している。承認後は、診療録等の記載内容を確認し、有害事象が生じた場合は速やかに報告を受ける。また、当該高難度新規医療技術が千葉大学医学部附属病院高難度新規医療技術・未承認新規医薬品等取扱規程に基づいて使用されていたかどうかについても確認を行う。実施後は、完了や中止・中断の有無、有害事象の有無などの結果報告について文書にて報告を受ける。
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（・無）
- ・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（・無）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（111件）、及び許可件数（110件）
- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（・無）
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（・無）
- ・活動の主な内容：  
 本院において未承認新規医薬品等を用いて実施する医療行為を対象に、未承認新規医薬品等の使用についての申請書や患者に対する同意説明文書を通じ、審査・評価している。承認後は、診療録等の記載内容を確認し、有害事象が生じた場合は速やかに報告を受ける。また、当該未承認新規医薬品等が千葉大学医学部附属病院高難度新規医療技術・未承認新規医薬品等取扱規程に基づいて使用されていたかどうかについて

でも確認を行う。実施後は、完了や中止・中断の有無、有害事象の有無などの結果報告について文書にて報告を受ける。

- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (  有 ・ 無 )
- ・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無 (  有 ・ 無 )

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・ 入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 429 件
- ・ 上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 174 件
- ・ 上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容
  1. 入院患者が死亡した場合における当該死亡の事実及び死亡前の状況に関する医療安全管理部への報告の実施の状況の確認及び確認結果の病院長への報告に関すること。
  2. 入院患者の死亡以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして病院長が定める水準以上の事象が発生したときにおける当該事象の発生の事実及び発生前の状況の医療安全管理部への報告の実施の状況に関する確認及び確認結果の病院長への報告に関すること。
  3. 上記の実施の状況が不十分な場合における適切な報告のための病院職員への研修及び指導に関すること。

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・ 他の特定機能病院等への立入り (  有 (病院名：愛媛大学医学部附属病院) ・ 無 )
- ・ 他の特定機能病院等からの立入り受入れ (  有 (病院名：大分大学医学部附属病院) ・ 無 )
- ・ 技術的助言の実施状況

医療安全に資する診療状況の把握のためのモニタリングについて、より診療状況の把握に即した項目のモニタリングを考慮すること、持参薬入力データと電子カルテシステムの連動による業務の効率化などについて助言を受け、持参薬入力システムと内服薬指示書が連動する仕組みとした。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

- ・ 体制の確保状況

患者相談窓口で受付を行い、医療安全管理に関する相談内容の場合は医療安全管理部に報告と相談し対応する。

⑫ 職員研修の実施状況

- ・ 研修の実施状況

平成 30 年 5 月 31 日から複数回開催した「第 1 回医療事故防止・ICT・情報セキュリティ合同セミナー」において、「高難度新規医療技術の導入にあたっての基本的な考え方」について全職員に周知した。

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)



⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

- ・管理者：平成 31 年 1 月 22 日「平成 30 年度特定機能病院管理者研修」公益財団法人日本医療機能評価機構主催
- ・医療安全管理責任者：平成 30 年 3 月 13 日～14 日「平成 29 年度特定機能病院管理者研修」公益財団法人日本医療機能評価機構主催
- ・医薬品安全管理責任者：平成 30 年 7 月 8 日「平成 30 年度医薬品安全管理責任者等講習会」一般社団法人日本病院薬剤師会主催
- ・医療機器安全管理責任者：平成 30 年 11 月 22 日～22 日「平成 30 年度特定機能病院管理者研修」公益財団法人日本医療機能評価機構主催

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

規則第7条の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

<p>管理者に必要な資質及び能力に関する基準</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基準の主な内容             <ul style="list-style-type: none"> <li>一 医療の安全の確保のために必要な資質及び能力</li> <li>二 組織管理能力等の当該病院を管理運営する上で必要な資質及び能力</li> </ul> </li> <li>・ 基準に係る内部規程の公表の有無 ( <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無 )</li> <li>・ 公表の方法             <ul style="list-style-type: none"> <li>本学ホームページにて、選出基準を掲載している。</li> </ul> </li> </ul>
---

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無 ( 有 ・ 無 )</li> <li>・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無 ( 有 ・ 無 )</li> <li>・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無 ( 有 ・ 無 )</li> <li>・ 公表の方法</li> </ul>	

管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
				有 ・ 無
				有 ・ 無
				有 ・ 無
				有 ・ 無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無	(有)・無
<p>・合議体の主要な審議内容</p> <p>一 診療に関する重要事項</p> <p>二 執行部会において必要と判断された重要事項</p> <p>三 その他病院の管理・運営に関する重要事項</p> <p>・審議の概要の従業者への周知状況 議事要録を院内ホームページへ掲載している。</p> <p>・合議体に係る内部規程の公表の有無 ( (有)・無 )</p> <p>・公表の方法 本学ホームページへ掲載している。</p> <p>・外部有識者からの意見聴取の有無 ( (有)・無 )</p>	

合議体の委員名簿

氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
山本 修一	○	医師	教授
松原 久裕		医師	教授
市川 智彦		医師	教授
生坂 政臣		医師	教授
吉野 一郎		医師	教授
横手 幸太郎		医師	教授
小林 欣夫		医師	教授
相馬 孝博		医師	教授
井上 貴裕		事務職員	特任教授
石井 伊都子		薬剤師	教授
箭内 博子		看護師	看護部長
永田 昭浩		事務職員	事務部長
加藤 直也		医師	教授
堺田 恵美子		医師	准教授
浅沼 克彦		医師	教授
中島 裕史		医師	教授
巽 浩一郎		医師	教授
並木 隆雄		医師	准教授
猪狩 英俊		医師	准教授

瀧口 裕一		医師	教授
松宮 護郎		医師	教授
大塚 将之		医師	教授
長嶋 健		医師	准教授
磯野 史朗		医師	教授
中田 孝明		医師	講師
大鳥 精司		医師	教授
馬場 隆之		医師	准教授
松江 弘之		医師	教授
花澤 豊行		医師	准教授
丹沢 秀樹		医師	教授
三川 信之		医師	教授
村田 淳		医師	准教授
伊豫 雅臣		医師	教授
岩立 康男		医師	教授
桑原 聡		医師	教授
生水 真紀夫		医師	教授
下条 直樹		医師	教授
齋藤 武		医師	准教授
宇野 隆		医師	教授
池田 純一郎		医師	教授
松下 一之		医師	准教授
安部 隆三		医師	講師
井関 徹		医師	講師
上里 昌也		医師	講師
田口 奈津子		医師	准教授
小林 英一		医師	講師
大曾根 義輝		医師	特任教授
清水 栄司		医師	教授
藤本 肇		医師	特任教授
鈴木 隆弘		医師	准教授
花岡 英紀		医師	教授
竹内 公一		医師	特任准教授
伊藤 彰一		医師	教授
林 秀樹		医師	教授
花輪 道子		技術職員	特任教授
勝野 達郎		医師	准教授
藤田 伸輔		医師	教授
諏訪園 靖		医師	教授

## 規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

### 管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（**有**・無）
- ・ 公表の方法  
千葉大学医学部附属病院規程を本院ホームページへ掲載している。  
千葉大学会計規程を本学ホームページへ掲載している。
- ・ 規程の主な内容
  - <病院規程>
    - 一 本院の目的
    - 二 病院長の権限（診療科長等の任命・解任権限など）
    - 三 本院の組織
    - 四 役職者等の任期及び業務内容等
  - <会計規程>
    - 一 会計に関する目的、概要等
    - 二 会計機関、予算、資金・資産管理等
    - 三 契約・決算
    - 四 予算管理責任者の権限（予算配分、予算執行）等
- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割
  - <副病院長>  
副病院長は、経営、安全管理、広報などそれぞれの役割において、病院長の職務を補佐する。副病院長は、病院長に事故あるときはその職務を代理し、病院長が欠員のときはその職務を行う。
  - <院長補佐>  
病院長補佐は、病院長の指示する重要事項について企画・立案等を行う。
  - <企画スタッフ>  
病院長企画室を設置し、病院経営及び運営に関する分析、企画及び立案を行う。
- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況
  - <人事>  
副病院長は、病院長が指名し、学長が任命する。病院長補佐は、病院長が任命する。科長は、当該科に対応する医学研究院の研究領域又は当該科の教授のうちから、病院長が任命する。部長・センター長は医学研究院又は病院の教授のうちから病院長が任命する。
  - <研修>
    - ・ 千葉大学関連病院会議第2回病院長塾（平成31年1月19日開催）において、履修証明プログラム「ちば医経塾」の受講生が、病院長を含む各診療科長、中央診療部長等に対し、自院の経営分析についての講演を行った。
    - ・ 国立大学附属病院長会議が主催する第3回病院長塾（平成31年2月9日開催）に、病院長や事務部長、副看護部長が参加し、働き方改革の推進についての講義聴講、及びグループディスカッションを行った。

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況	(有)・無
<p>・ 監査委員会の開催状況：年 2 回</p> <p>・ 活動の主な内容：          監事及び監査室との連携の下、次に掲げる病院業務について監査を行う。          一 医療に係る安全管理に関すること。          二 特定臨床研究の業務執行の状況に関すること。(※)          三 その他委員長が必要と認める病院業務に関すること。          (※) 医療安全の観点から、臨床研究中核病院の立入検査と同時開催としている。</p> <p>・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無 ( (有)・無 )</p> <p>・ 委員名簿の公表の有無 ( (有)・無 )</p> <p>・ 委員の選定理由の公表の有無 ( (有)・無 )</p> <p>・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無 ( (有)・無 )</p> <p>・ 公表の方法：          本学ホームページ及び本院ホームページにて、設置規程及び委員名簿（選定理由についても記載有）、監査結果報告書を掲載している。</p>	

監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
宮坂 信之	東京医科歯科大学 名誉教授	○	医療安全識見者か つ病院管理経験者	有 (無)	1
手島 英男	税理士法人千葉 中央会計事務所 長		医療を受ける者	有 (無)	2
中谷 晴昭	千葉大学理事		医療及び臨床研究 に関する学識経験 者	(有)・無	3
後藤 弘子	千葉大学大学院 社会科学研究院 教授		法律学専門家	(有)・無	1
矢島 鉄也	千葉県病院事業 管理者		病院管理経験者	(有)・無	3
藤原 康弘	国立研究開発法 人国立がん研究 センター中央病 院副院長		臨床研究識見者	有 (無)	3

花輪 正明	塩野義製薬株式会社薬事部長		臨床研究識見者	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	3
東宮 秀夫	一般財団法人医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団研修事業本部長		臨床研究識見者	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	3
宗像 令夫	独立行政法人中小企業基盤整備機構関東本部千葉大亥鼻イノベーションプラザチーフインキュベーションマネージャー		臨床研究識見者	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	3

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1. に掲げる者を除く。)
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを  
確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

・体制の整備状況及び活動内容

千葉大学監事監査において、管理者の業務が法令に適合することを確認・指導する。

・ 専門部署の設置の有無 (  有 ·  無 )

・ 内部規程の整備の有無 (  有 ·  無 )

・ 内部規程の公表の有無 (  有 ·  無 )

・ 公表の方法

本学ホームページにて、関係規程を掲載している。



規則第15条の4第1項第3号口に掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 千葉大学役員会において附属病院の業務の監督を行っている。</li> <li>・ 会議体の実施状況（年17回 ※うち6回は臨時開催） ※うち定例開催時に、病院の業務監督を行う。</li> <li>・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（<input checked="" type="radio"/>有・無）（年12回 ※うち3回は臨時）</li> <li>・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（<input checked="" type="radio"/>有・無）</li> <li>・ 公表の方法 本学ホームページにて、関係規程を掲載している。</li> </ul>			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：（回答不要）			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 （○を付す）	利害関係
			有・無
			有・無
			有・無
			有・無

（注） 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 ( <input checked="" type="radio"/> 有 · 無 )</li><li>・ 通報件数 (年0件)</li><li>・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 ( <input checked="" type="radio"/> 有 · 無 )</li><li>・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 ( <input checked="" type="radio"/> 有 · 無 )</li><li>・ 周知の方法 ポスター掲示や院内ホームページで周知している</li></ul>

(様式第7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	有・無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期 公益財団法人日本適合性認定協会 平成29年3月1日～平成29年3月2日 一般社団法人Medical Excellence JAPAN 平成28年9月21日	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有・無
・情報発信の方法、内容等の概要 病院ホームページや広報誌、パンフレット等において、特定機能病院としての役割についてわかりやすく案内している。 また、各診療科の診療実績を公表するなど、患者さんや地域に向けた情報発信を積極的に行っている。	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有・無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要	

(様式第 8)

千大院サ第 9 8 0 号  
令和元年 9 月 1 9 日

厚生労働大臣

殿

国立大学法人千葉大学  
徳久剛

医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画につ

標記について、次のとおり提出します。

記

1. 管理職員研修（医療に係る安全管理のための研修、管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者向け）を実施するための予定措置

- ・管理者：平成 31 年 1 月 22 日「平成 30 年度特定機能病院管理者研修」公益財団法人日本医療機能評価機構主催  
令和元年 10 月 27 日（予定）「2019 年度特定機能病院管理者研修」公益財団法人日本医療機能評価機構主催
- ・医療安全管理責任者：平成 30 年 3 月 13 日～14 日「平成 29 年度特定機能病院管理者研修」公益財団法人日本医療機能評価機構主催  
令和 2 年 2 月 12 日（予定）「2019 年度特定機能病院管理者研修」公益財団法人日本医療機能評価機構主催
- ・医薬品安全管理責任者：平成 30 年 7 月 8 日「平成 30 年度医薬品安全管理責任者等講習会」一般社団法人日本病院薬剤師会主催  
令和元年 12 月 17 日～18 日（予定）「2019 年度特定機能病院管理者研修」公益財団法人日本医療機能評価機構主催
- ・医療機器安全管理責任者：平成 30 年 11 月 22 日～22 日「平成 30 年度特定機能病院管理者研修」公益財団法人日本医療機能評価機構主催  
令和 2 年 2 月 12 日（予定）「2019 年度特定機能病院管理者研修」公益財団法人日本医療機能評価機構主催

2. 医療安全管理部門の人員体制

- ・所属職員：専従（3）名、専任（3）名、兼任（23）名  
うち医師：専従（1）名、専任（0）名、兼任（14）名  
うち薬剤師：専従（0）名、専任（2）名、兼任（1）名  
うち看護師：専従（2）名、専任（0）名、兼任（2）名
- ※その他臨床工学技士、臨床検査技師、診療放射線技師、管理栄養士、事務職員等を配置

3. 医療安全管理部門の専従職員を配置するための予定措置

平成 28 年 10 月 1 日より、5 割以上医療安全管理業務に従事する薬剤師 2 名を配置している。令和 2 年 4 月 1 日からは専従の薬剤師 1 名を配置する予定。